

キ言渡チ爲サ、ル内ハ其婚姻ヲ行フヲ拒ミ得、然レモ必要ト定メタル式ニ背クカ、又ハ故障ヲ述フル權ナキ者ヨリ出ツルカニテ、其故障ノ成立ツベカラサルヲ明白ナル時ハ、之ヲ顧ミスシテ婚姻ヲ行ハシムルヲ得、

第七十七條 初告裁判所ニ於テハ婚姻ノ故障ヲ止メシムトノ訴アル時ハ之ヲ十日内ニ裁判ス可シ(民一七八、訴四九、)

婚姻ノ故障ニ關スル事件ハ甚タ急迫ナルモノトス、蓋シ審判上ノ淹滞ハ夫婦トナラントスル者ノ爲メ大ナル困難ヲ生シ得レハナリ、故ニ婚姻ノ故障ニ關シタルノ訴ヲ受ケタルキハ、勤メテ速ニ之ヲ決斷セサルベカラス、然レモ十日間ニ故障ヲ止メシムベキ確定ノ裁判ヲ言渡ス能ハサルヲ少カラス、

第七十八條 若シ初告裁判所ノ言渡チ更ニ上等ノ裁判所(即チ控訴院)ニ控訴シタル時ハ上等ノ裁判所ニ於テ其時ヨリ十日内ニ故障申述ノ裁判ヲ爲ス可シ(訴四四三、)

控訴ヲ受ケタル上等審院ハ、初告裁判所ト同一ノ趣意ニ因リ成ルベキ丈ケ速ニ裁決スルヲ要ス、蓋シ二ヶ月ノ控訴ノ期限内ニ若シ控訴ヲ爲シタル時ハ、其裁決ノアラサル内

ハ決シテ婚姻ヲ行フヲ得ス、然レモ破毀ヲ要ムルノ上告ハ控訴ト殊ニシテ、前裁判ノ施行ヲ停ムルヲケレハ婚姻ヲ行フヲ妨クルヲナシ、且大審院ニ於テ故障道理ナリトシテ、上等審院ノ裁決ヲ破毀スルモ、其故障世治ニ關シタル重大ノ事故ニ基カサルニ於テハ、婚姻ハ取消スベカラサルヲトス、

第七十九條 若シ婚姻ノ故障ヲ述ヘタル者負訴訟トナル時ハ之ヲ述ヘタル者尊屬ノ親ヲ除クノ外ハ其損失ヲ償フ可キノ言渡チ受ク可シ(民一七六、一一四九、一三八二、訴一二八、一三〇、一三一、五二三、五二四、)

故障ヲ述ヘタル者負訴訟トナルキハ、訴訟ノ費用及ヒ其故障ニ因テ釀生シタル損失ノ賠償ヲ爲スベキ言渡シテ受ク、尊屬ノ親ハ此言渡チ受ケス、蓋シ尊屬ノ親ハ全ク其卑屬ノ親ノ爲メニ故障ヲ述ベタルヲ看做セハナリ、然レモ其訴訟費ノ一部ヲ擔當シテ消却セシムベシ、(訴訟法第百三十一條見合セ)

○第四章 婚姻取消ノ訴

本章ハ婚姻取消ノ訴ノヲ掲クト雖モ、第百九十四條以下ニ於テハ婚姻ノ證據ノヲチ



説ケリ、抑婚姻ノ障碍ニ婚姻ヲ禁スベキ(プロイビチーフ)モノト、婚姻ヲ取消スベキ(ジ  
 リマン)モノトノ別アリ、婚姻ヲ禁スベキ障碍ハ、婚姻ヲ行フコト妨クルト雖モ既ニ取  
 結ヒタル婚姻ヲ取消スコトナシ、例ヘハ二十一歳以上ノ女子二十五歳以上ノ男子ハ、其尊  
 屬ノ親ノ存意ヲ聞クコトナシ婚姻スルコトヲ得ス、(第百五十一條自五十二條見合セ)婦婦ハ  
 前婚ノ解ケシヨリ十ヶ月以内ニ再婚スルコトヲ得ス、(第二百二十八條見合セ)トナセシ  
 ニ、若シ此禁ヲ犯シテ婚姻ヲ行フタル者アルキハ、其罰ヲ受ケシムベシト雖モ、之カ爲  
 メ其婚姻ハ取消スベカラス、婚姻ヲ取消スベキ障碍ハ、既ニ取結ヒタル婚姻ヲ取消スベ  
 キ訴ヲ生セシム、又取消スニモ元來婚姻ヲ取消スベキ(アブソリユー)モノト取消ト爲シ  
 得ベキ(レラチーフ)モノトノ別アリ、元來婚姻ヲ取消スベキモノハ其婚姻治世ノ大則ニ  
 背キタルヨリ生シ、法律上其婚姻ノ成立ヲ禁シ、何レノ時ニテモ其事ニ管シタル者ハ總  
 テ之ヲ申立テ得、例ヘハ婚姻ノ公告ノ絶テアラサリシ時、夫婦タル一方ノ者前婚ノ未ダ  
 解ケサル時、或ハ夫婦タル者ノ血屬又ハ姻屬ニシテ結婚ヲ禁シタル級内ニアル時ハ、婚  
 姻ヲ全ク成立タサルモノト爲シ之ヲ取消スベシ、婚姻ヲ取消ト爲シ得ヘキモノハ、私ノ

資益即チ親族ノ爲メノミニ設ケタル規則ニ背キタルヨリ生シ、必シモ婚姻ヲ取消スベ  
 キコアラズ、唯取消シ得ベキノミニテ、其取消ノ訴モ定期間豫定ノ人ヨリ爲シ得ベキノ  
 ミ、例ヘハ夫婦タル者ノ一方適意ノ承諾ヲ爲サ、ル時、(第百八十條見合セ)又ハ他人ノ  
 指揮ヲ受クベキ時其許諾ヲ得サリシ時ノ如キハ其取結ヒタル婚姻ハ之ヲ取消ト爲シ得  
 ベキ疵癥ヲ有スルナリ、男女ノ情實未ダ開カサル前ニ取結ヒタル婚姻ハ、取消ト爲スベ  
 キモノト取消ト爲シ得ベキモノトノ兩性質アル一種ノモノトス、蓋シ事ニ管シタル者  
 ハ皆之ヲ申立テ得ベシト雖モ、之カ爲メ豫定ノ期限アレハナリ、(第百八十三條見合セ)  
 第百八十條 夫婦雙方又ハ一方ノ適意ノ承諾ナクシテ取結ヒタル婚姻ハ其雙方又ハ適意ノ  
 承諾ヲ爲サ、ル一方コアラサレハ婚姻取消ヲ訴フベカラス  
 若シ人ヲ誤リテ婚姻シタル時ハ夫婦中其誤リヲ受ケタル者ニ非レハ婚姻取消ヲ訴フベカ  
 ラス(民一四六、一八一、二〇一、二〇二、一一〇九、ヨリ一一一四、一一一六、刑三五四ヨリ  
 三五七、)  
 本條ニ掲クル二箇ノ場合ニ於テ、婚姻ハ必シモ取消スベキノアラス、唯(豫定ノ時間)取



消ト爲シ得ベキノミ、其取消シノ訴ヲ爲シ得ベキ者ハ強迫ニ因リ、適意ノ承諾ヲ爲サ、ル所ノ夫又ハ婦又ハ錯誤ニ因リ承諾セシ夫又ハ婦ノミ、而シテ其訴ノ權ハ之ヲ相續人ニ傳フルヲ得ス、其期限モ亦甚タ短シ、(第百八十一條見合セ)

第千百〇九條以下ニ因レハ、契約ヲ取消スベキ原因ニ三ツアリ、錯誤強迫及詐偽ナリ、然レモ婚姻ニ付テノ詐偽ハ、之ヲ取消スベキ原因ト爲スヲ得ス、

錯誤即チ人ヲ誤ルトハ何レノ場合ニ於テ生シ得ベキヤノコトニ付テハ、論說頗ル紛々タリト雖モ、要スルニ二箇ノ場合ニ於テノミ生スベシ、第一婚姻ヲ行フノ時ニ至リ結婚セント欲セシ者ヲ他人ニ代ルコト、然レモ斯ノ如キコトハ嚴格ナル儀式アルニヨリ事實殆ト行ハレ難シ、第二一箇ノ佛蘭西人ニ嫁セント欲セシ所ノ女誤テ一箇ノ外國人ニ嫁シ、之カ爲メ其國籍ヲ離レテ外國人トナリタルカ、或ハ夫婦トナラントスル一方ノ者某ノ親族ナル某ノ人ト結婚セント欲セシモ、他ノ親族ノ人ト配偶シタルカノ如キハ民事上ノ人ニ誤アルナリ、故ニ其誤リノ證據アリテ若シ此誤リナキニ於テハ初ヨリ婚姻ヲ取結ハサルベキコト明白ナル時ハ、現在ノ人ヲ錯リタル時ト同シク婚姻ノ取消ヲ訴ヘ得、

施體加辱ノ刑ヲ受ケ多者、例ヘハ懲役ニ處セラレシ者ニ嫁シタル女、嘗テ其刑ヲ受ケシコトヲ知ラサリシ時ハ、人ヲ誤リタリトシテ婚姻ノ取消ヲ訴ヘ得ベキ權アリヤ、千八百六十一年二月十一日ノ大審院ノ裁決ニ因レハ其權アリ、然ルニ千八百六十二年四月二十四日各局總會ノ裁決ヲ以テ、之ヲ否ト爲セシハ實ニ至當ナリトス、(此裁決ヲ略ス)

配偶者ノ身狀、天然又ハ偶然ノ不能、心狀、醜行、宗教ノ類派、宗教ヲ蔑視シテ結婚ノキ宗教上ノ儀式ヲ受ケサリシコト、不正ノ子アルコト、負債夥クシテ外飾ノ財産ヲ消滅シ終ニハ一方ノ配偶者ノ財産ニ及フベキコト等ニ基キタル誤リハ、邑長ヲ以テ人民社會ノ代理トシテ其印章ヲ證書中ニ押シタル所ノ婚姻ノ取消ヲ訴フベキ原因タルコトヲ得ス、之ニ因テ結婚シテ生運ヲ共同ニセントスルカ爲ニハ、其人ニ付精細ナル報告ヲ採集スベキコトノ緊要タルコトヲ知ルベシ、某ハ家資分散ヲ爲シタル者、或ハ輕重罪ノ處刑ヲ受ケシ者ナルヤチ知ルカ爲メニハ、其者ノ出產ノ地ノ檢事ニ依頼シテ、初告裁判所ノ書記役ヨリ裁判記録(カシエーシユニヂエール)中ヨリ、其者ノ履歷ノ抄出書ヲ得ルコトヲ得、此コト時トシテハ甚タ有益ナルモノトス、



第百八十一條

前條ニ記スル所ノ場合ニ於テ夫婦全ク其自由ヲ得又ハ其誤ヲ知リタル時ヨリ六月間絶エス居テ同ウシタル時ハ婚姻取消ヲ聽サス(民一八〇、一三三八)

夫婦其自由ヲ得又ハ其誤リヲ看出シテヨリ、六月間絶エス居テ同ウシタル時ハ、承諾ノ疵瑕ヲ消却シ從テ婚姻ヲ固定シタルモノト看做ス、治産ノ禁ヲ受タル者ノ取結ヒタル婚姻モ其禁ノ解ケシヨリ、六月間絶エス同居シタル時ハ亦同シ、

取消ノ訴ヲ爲シ得ベキ一箇ノ契約ハ、其契約ノ要領ト其契約ノ疵瑕ヲ補正スベキノ意

トナ記シタル書ヲ以テスルニ非レハ、其契約ヲ固定シ得ス、(第千三百三十八條見合セ)

ト雖モ婚姻ニ付テハ果シテ然ルコトアラズ、蓋シ此コトニ付法律ノ不備ナルハ、夫婦ノ地位

ト、其一方ノ者他ノ一方ノ者ニ對シ一時容易ニ行ヒ得ベキ感動トニ因ルコトナルベシ、

實際ニ於テハ殆ト爲シ難キコトナレモ、若シ夫婦中一方ノ者ノ承諾絶エテアラサリシ時

ハ、其婚姻ハ取消スベキ者カ、又ハ取消シ得ベキモノカ、凡ソ契約ニ付雙方ノ承諾ハ必

要ノ元素ナリ、故ニ若シ其承諾ナキ時ハ、其契約ハ元ヨリ成立サルモノトシテ其證書ヲ

取消スナリ、(第千八百八條見合セ)然レモ婚姻ニ付テハ之ト同シカラス、其公告、證人ノ

出席、婚姻ニ付嚴格ナル演舌ヲ爲ス所ノ官吏ノ媒介、及内ハ家族外ハ社會及ヒ宗教ノ保

護ヲ以テ、同寢同床ニ生活スル所ノ夫婦ノ別段ナル地位等ノコトアルニ因リ、婚姻ヲ行フ

時ニ至リ假令ヒ一方ノ者ノ承諾絶テナカリシ時ト雖モ、之ニ因テ其婚姻ハ取消スベキ

モノトセズ、只取消シ得ベキモノト爲スノミ、然レモ六月間絶エス同居シタル時ハ最

早取消ノ訴ヲ爲スコトヲ聽サス、(同居セサル場合ニ於テハ十年乃至三十年ノ後タリモ取

消ノ訴ヲ聽ルスベキカ否ヤ諸説紛々タリ、一説ニハ第千三百〇四條ニ從ヒ十年ノ後ハ

訴フルヲ得スト、又一説ニハ第二千二百六十二條ニ掲ケタル一般ノ規則ニ從ヒ三十年

マテハ之ヲ訴フルヲ得ルト、又一説ニ第三百二十八條及ヒ第二千二百二十六條ニ從ヒ

此訴ニ付テハ期滿待免ノ權ナキモノナリト)

第百八十二條

父母及ヒ其他尊屬ノ親ノ許諾又ハ親族會議ノ許諾ノ必要ナル時其許諾ヲ得

スシテ取結ヒタル婚姻ハ其許諾ヲ爲ス可キ者又ハ夫婦中コト其許諾ヲ要スル者ニ非サレ

ハ其婚姻ノ取消ヲ訴フ可カラス(民一四八ヨリ一五〇、一五八、一五九、一六〇、一八三、二



本條モ亦第百八十條ノ如ク(豫定ノ時間)取消ト爲シ得ベキ訴ヲ爲スノコトヲ掲ク、幼者ノ未タ世事ニ經驗セス、且其情慾ニ迷惑スルノ恐アリ故ニ之ヲ保護スル爲メ必要ナル許諾ヲ要メサリシ時ハ、其許諾ヲ與ヘサリシ保護者ト婚姻セシ幼者トノミ取消ノ訴ヲ爲スコトヲ得、其幼者ノ債主等金銀上ノ利益アルヲ以テ其訴ヲ爲スコトヲ聽サス(若シ許諾ヲ與ヘサル者取消ノ訴ヲ果サスシテ死去スルハ、其相續人ニ於テ其訴ヲ繼續スルノ權ナク、又尊屬ノ親ニ移ルコトナシ)

第百八十三條 婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ者若シ明許又ハ黙許ヲ以テ其許諾ヲ爲シタル時又ハ其婚姻ヲ爲スヲ知リタル後其取消ノ訴ヲ爲スコトナク一年ノ時間ヲ經過シタル時ハ夫婦又ハ婚姻ノ許諾ヲ爲スベキ者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ爲ス可カラス又夫婦中一方ノ者自カラ婚姻ノ承諾ヲ爲スコトヲ得可キ齡ニ至リシ時ヨリ一年ノ時間其婚姻取消ノ訴ヲ爲スコトナキ時ハ亦其訴ヲ爲ス可カラス(民一四八、一五〇、一七三、)

血屬ノ者(親族會議モ亦同シ)ノ許諾ヲ得サル婚姻取消ノ訴ハ左ノ件々ニ因テ消盡ス第一許諾ヲ要ムベキ者ノ書信等ニ因リ、明ニ其婚姻ヲ固定シタル時、第二例ヘハ其子ノ

妻ヲ己レノ家ニ招待シ舅ノ愛情ヲ表シタルカ如キ、黙シテ婚姻ヲ固定シタル時、第三許諾ヲ與フヘキ者ヨリ一年間取消ノ訴ヲ爲サ、リシ時、但此期限ハ婚姻ヲ知リタル日ヨリ起算ス、第四夫又ハ婦自ラ婚姻ヲ承諾シ得ル時ヨリ一年間取消ノ訴ヲ爲サ、リシ時、蓋シ第三第四ノ場合ニ於テハ、黙シテ婚姻ヲ承諾シタルモノト看做セハナリ、血屬ノ親ノ明許又ハ黙許ヲ以テノ固定ハ、夫又ハ婦ノ訴ヲ取上ケサラシムヘシト雖モ、夫又ハ婦ノ固定ハ、決シテ尊屬ノ親ノ訴ヲ爲スノ權利ヲ妨クルコトナシ、

第百八十四條 第百四十四條第百四十七條第百六十一條第百六十二條第百六十三條ニ記シタル規則ニ背キテ取結ヒタル婚姻ハ夫婦又ハ婚姻ニ管スル者又ハ檢察官ヨリ其取消ノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ(民一三九、一八五、一八六、一八七、一九〇、二〇一、二〇二、刑三五四ヨリ三五七、)

本條ヨリ第百九十三條ニ至ルマテハ婚姻ヲ取消スヘキコトヲ掲ク、又本條ニ掲ケタル各條中第百四十四條ハ、男女情實未タ全ク開ケサルカ爲メ婚姻ハ元ヨリ取消トス、(然レモ豫定時間ニ限ル)第百四十七條ハ前婚ノ未タ解ケサルカ爲メ取消トシ、第百六十一條



百六十二條百六十三條ハ禁制シタル血屬又ハ姻屬ノ爲メ取消トス、此等ノ取消ヲ訴ヘ得ヘキ者ハ左ノ八人ニ限ル、第一夫又ハ婦但シ假令ヒ詐偽ヲ以テ結婚シタル時ト雖モ之ヲ訴ヘ得、蓋シ道德及ヒ其本心ニ相反シタル婚姻故必シモ保續スルヲ要セサレハナリ、第二婚姻ヲ取消スルニ付現ニ生シタル資益ヲ有スル者、其資益ハ道德上ニ關スルト金錢上ニ關スルトノ差別ナシ、第三風俗ノ保護人タル檢事、但シ檢事ハ婚姻ノ既ニ解ケシ後ハ其取消ヲ訴フ可カラスト雖モ、金錢上ノ資益ヲ有スル者ハ婚姻ノ解ケシ後、更ニ取消ヲ言渡サシムベキ訴ヲ爲スノ權アリ、

第百八十五條 然レ婚姻ヲ行フニ必要ナル年齢ニ至ラサル夫婦又ハ其一方ノ取結ヒタル婚姻ハ其夫又ハ夫婦ノ其齡ニ至リシヨリ六月ヲ經タル時又ハ婦未タ其齡ニ至ラスシテ婚姻ヲ行ヒ其齡ニ至リシヨリ六月ノ内ニ懐胎シタル時ハ其取消ヲ訴フ可カラス(民一四四、一八四、一九〇、)

夫又ハ婦情實未タ開ケスシテ取結ヒタル婚姻ハ、元ヨリ取消スヘキモノナル故、道義上又ハ金錢上ノ資益ヲ有スル者ハ何時ニテモ其取消ヲ訴ヘ得、然ルニ此婚姻ハ取消シテ爲シ得ベキノ性質ヲモ帶ヒタルモノナルニヨリ、左ノ二個ノ場合ニ於テハ取消ヲ訴ヘ得サルモノトス、第一情實未タ開ケサル時、(女ハ滿十五歳男ハ滿十八歳前)ニ婚姻シ情實既ニ開ケシ後六ヶ月間何レノ訴ヲモ爲サ、ル時、第二滿十五歳ニ至ラサル女婚姻シテ未タ滿十五歳ニ至ラサル前、又ハ滿十五歳ニ至リシヨリ六ヶ月間ニ懐胎シタル時、然レモ女ノ懐胎ハ滿十八歳ニ至ラスシテ婚姻シタル男ヨリ取消ノ訴ヲ爲スルハ、之ヲ取上ケサラシムルヲ得ス、故ニ其男ハ十八歳ト六ヶ月ニ至ラサル内ハ其訴ヲ爲スルヲ得ベシ、

第百八十六條 前條ノ場合ニ於テ結ヒタル婚姻ヲ許諾シタル父母又ハ其他ノ尊屬ノ親及ヒ親族ハ其取消ヲ訴フベカラス、

情實未タ開ケサル者ノ婚姻ヲ許諾シタル者ハ、重大ナル失錯ナレモ更ニ其取消ヲ訴フルヲ聽サス、許諾ヲ與ヘサリシ時ハ取消ヲ訴ヘ得ヘキ原因ニ箇アリ、第一必要ノ許諾ナキカ爲メ、第二其子ノ情實未タ開ケサルカ爲ナリ

第百八十七條 第百八十四條ニ記スル所ニ循ヒ婚姻ニ管スル者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ爲ス



トテ得可キ場合ト雖ヒ傍系ノ親又ハ前婚ノ子ハ其婚姻取消ニ付キ現ニ生シタル管係アル時ニ非サレハ夫婦ノ共ニ生存スル時間其婚姻取消ヲ訴フ可カラス。(民一八六、一九一、) 前婚ニテ舉ケシ子及ヒ傍系ノ親ハ純然タル道德若クハ仁愛上ノ資益ノ爲メ婚姻取消ノ訴ヲ爲スヲ得ス、只特ニ現ニ生シタル資益ノ爲メノミ其訴ヲ爲シ得、蓋シ此資益ハ多クハ法律ニ反シタル婚姻ヨリ生レタル子夫婦中ノ一方ノ者死去セシ後、遺物相續ヲ爭フ時ナラテハ生セサルモノトス、假令ヒ金錢上ノ資益生スルコトアリヒ、夫婦生存中ハ其訴ハ中止セシム、

第百八十八條 夫婦中ノ一方其配偶者ノ權利ヲ害シテ再婚ヲ結ヒタル時ハ其害ヲ蒙リシ者其配偶者ノ生存中ニ於テモ其前婚ノ取消ヲ訴フルコトヲ得可シ(民一三九、一四七、一八七、一八九、二〇一、二〇二、刑三四〇、)

此配偶者再婚ヲ取消スコトニ付、現ニ生シタル資益生有スルハ勿論ナリ、

第百八十九條 再婚シタル夫又ハ婦前婚ノ既ニ取消トナリシコトヲ述ル時ハ裁判所ニ於テ先ツ其前婚ノ法ニ適シタルヤ否ヤヲ裁判スベシ(民一八八、一九〇、)

前婚ヲ結ヒシ者ハ假令ヒ其前婚ハ成立ツヘカフサルモノニモセヨ、再婚ヲ取結フ前夫先ツ其取消ヲ言渡サシムルヲ要ス、然レモ若シ前婚ヲ結ヒシ者身上證書ノ官吏ヲ欺キ前婚ハ成リ立サルモノトシテ以テ再婚ヲ取結ヒタル時ハ、審司ニ於テ先ツ其前婚ヲ判定スルヲ要ス、而シテ其前婚法ニ適シタルモノト認ムル時ハ、必ス再婚ノ取消ヲ言渡スベシ、若シ前婚取消トナリタリト言渡ス時ハ、其再婚ハ法ニ適シタル者ト爲スヘシ、

第百九十條 第百八十四條ニ記シタル場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ共ニ生存スル間ヨリ其婚姻ヲ取消シ其夫婦ヲシテ離別セシム可キノ言渡ヲ得ント求ム可シ但シ第百八十五條ニ記スル所ハ格別ナリトス(民一三九、一九九、二〇〇、)

夫婦タル者道德上ノ原則ニ背キタル婚姻ノ惡例ヲ示ス時ハ、檢事其取消ノ言渡ヲ爲スヘシト訴フルヲ要ス、然レモ夫婦中一方ノ者死去シテ其婚姻ノ解ケシ時ハ、最早之ヲ訴フルコトヲ得ス、何トナレハ醜行既ニ止ミタレハナリ、又情實未タ開ケスシテ結婚セシ者、第百八十五條ニ掲タル二箇ノ場合ニ際スルモハ取消ヲ訴フルコトヲ得ス、

第百九十一條 公ケニ取結ヒタルコトナキ婚姻又ハ相當ノ官吏ノ面前ニテ行ハサル婚姻ハ夫



婦自身又ハ父母及ヒ其他尊屬ノ親又ハ婚姻取消ニ付キ現ニ管係アル者又ハ檢察官ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ爲スヲ得可シ(民六三、六四、七五、七六、一六五、一七三、一九二、一九三、一九六、)

本條ハ婚姻取消ノ二箇ノ原因ヲ包含ス、第一婚姻ヲ秘密ニ爲セシコト(秘密)クランデス「ト」ニ爲ストハ婚姻ヲ公ケニスル爲メノ法式ヲ爲サ、リシコトナリ、定規ノ法式ヲ爲シ取結ヒタリト其取結ヒノ舉テ故ラニ掩蔽セシカ、若クハ偶然世間ニ知レサリ秘密(セクレイ)ト混視スベカラス、秘密ハ必シモ婚姻ヲ取消サシムヘキモノニアラス、然ルニ今爰ニ秘密ト云ヒシハ秘密ノ意モ兼テシコト視ユ)蓋シ婚姻ヲ公ケニ爲スコトハ、婚姻ノ公告、婚姻ヲ行フトキ證人ノ出席、及ヒ邑廳ニ於テ日中之ヲ行フコトナリ、第二身上證書ノ官吏、夫婦トナラントスル者ノ一方ヲ管轄スル者ナラサルカ、又ハ其管轄地外ニ於テ婚姻ヲ行ハシムルノ職務ヲ行ヒタルカニテ其權ノアラサリシ時、此二箇ノ場合ニ於テ、法律ハ必シモ檢事ニ命スルニ婚姻取消ノ訴ヲ爲スベキ義務ヲ以テスルコトナク、其婚姻ノ法ニ適シタルヤ否ヤハ専ラ審司ノ監定ニ任シタリ、若シ婚姻ヲ行ハシメタル者、

身上證書ノ官吏ノ分限ヲ有セサリシ時ハ、其婚姻ハ決シテ固定シタルモノニアラス全ク徒婚ニ屬ス可シ、(身上證書ノ官吏其管轄地外ニ於テ婚姻ヲ行ハシメタルカ如キハ、只不相當ナルノミ、故ニ其婚姻ハ必シモ取消トナサス、要スルニ婚姻ヲ行フコトニ付テノ犯則及ヒ身上證書ノ官吏ノ不相當ナリシコトハ、公正ノ夫婦タル現狀アルヲ以テ消除ス、) 第百九十二條 若シ婚姻ヲ爲スニ預メ二次ノ公告ヲ爲サ、ル時又ハ法ニ於テ許シタル免除ヲ得サル時又ハ公告ト婚姻ヲ行フト其間ノ定期ニ背キタル時ハ檢事ヨリ其婚姻ヲ行ハセシ官吏ニ三百「フランク」ニ過キサル罰金ノ言渡ヲ受ケシメ且婚姻ヲ取結ヒシ者又ハ其者ヲ指令スル者ニ其家産ニ准シタル罰金ノ言渡ヲ受シム可シ(民六三、六四、一六六ヨリ一六九、) 婚姻ノ充分公ケナリシヤ否ヤヲ知ルコトハ全ク審司ノ監定ニ任ス、然レト何レノ場合ニ於テモ、公告及ヒ定期ニ關シタル規則ニ背キタル婚姻ヲ行ハシメタル身上證書ノ官吏、及ヒ婚姻ヲ取結ヒシ者、又ハ其者ヲ指令セシ者ニ罰金ヲ科ス、

第百九十三條 第百六十五條ニ記シタル規則ニ背キシコトアル時ハ裁判所ニ於テ婚姻取消ノ



言渡ヲ爲スニ及ハサルヲ裁判シタリト雖モ前條ニ記シタル者同條ニ記スル所ノ罰ヲ受ク可シ(民七四、七五、)

前條ハ專ラ婚姻ヲ公ケニ爲スヲ付、必要ナル諸件ノ備ハラサリシ種々ノヲニ關ス、本條ハ第百六十五條ニ記シタル身上證書ノ官吏ノ權外ノヲニ關ス、而シテ此規則ヲ犯シタルニ付婚姻ヲ取消サシムルニ足ラサル時ト雖モ必ス罰金ヲ科ス、

第百九十四條 何レノ人ヲ論セス身上證書ノ簿冊ニ記シタル婚姻ノ證書ノ摘撮書ヲ出サ、ル時ハ夫婦ノ名義ト婚姻ヨリ生スル民法上ノ效トヲ求ム可カラズ但シ第四十六條(身上證書ノ卷)ニ記シタル場合ハ格別ナリトス(民四〇、四一、四五、七六、一九五、一九八、)

夫婦ノ名義ヲ求ムル者ハ、其婚姻シタル地ヲ知ラスト述ブベカラス、故ニ概シテ身上證書ノ簿冊ニ記シタル婚姻ノ證書ノ寫ヲ出サ、レハ、其婚姻ノ成立ヲ證シ且其婚姻ニ付發生スル權利ヲ請求スルヲ聽サ、ルヲトス、然レモ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ、他ノ方法ヲ以テ證憑ト爲スヲ聽ルス、第一身上證書ノ曾テアラサリシカ又ハ亡失セシカノ時ハ、書類若クハ誓ヲ以テ保證スル證人ノ申述ヲ以テ夫婦ノ分限ヲ證シ得、但シ證人ハ夫婦

居テ同ウセシヲ以テ證憑ト爲スヲ得ス、特ニ自己出席シテ其婚姻ノ執行ヒテ爲シタルノミヲ證憑トスベシ(第四十六條見合セ)第二婚姻ヲ行ヒタル證書枉害セラレタルカ若クハ零紙ニ記サレシ時ハ、身上證書ノ簿冊ニ記入シタル重罪若クハ輕罪ノ裁判言渡書ノ寫ヲ出シ、以テ婚姻ノ成立ヲ證スルヲ得、(第百九十八條見合セ)

第百九十五條 現ニ夫婦タルノ景狀アリト雖モ夫婦ナリト述ル者ハ身上證書ノ官吏ノ面前ニテ婚姻ヲ行ヒタル證書ヲ出サ、ルヲ得ス(民七六、一九四、一九六、三二一、)

夫婦タルノ景狀トハ一箇ノ男及一箇ノ女公然夫婦ノ如ク生活スル事實ナリ、其事實ハ古語ニ謂フ所ノ三件ヲ以テ成ル、第一「トラクタクス、」女ハ男ヨリ婦ノ如ク接遇サレシ、第二「ノマン」女ハ其共ニ生活セシ男ノ性ヲ帶用セシ、第三「フアナ」此男女ハ社會中ニ於テ夫婦ノ如ク視察セラレシ、夫婦タルノ景狀ハ假令何程永久ニシテ且確的ナルモ婚姻ヲ行ヒタル證書ノアラサル時ハ、風俗及ヒ宗教上ニ於テ之ヲ卑ノ善妾視セラル、ヲ免レヌ

第百九十六條 現ニ夫婦タルノ景狀アリテ且身上證書ノ官吏ノ面前ニテ婚姻ヲ行ヒタル證



書ヲ出シタル時ハ其夫又ハ婦ヨリ其證書ノ取消ヲ訴フルヲ得ス(民七六、一九一、一九四、一九五、三二一)

夫婦タルノ景狀ハ婚姻ヲ行ヒタル證ノ公ケナラサル欠失、及身上證書ノ官吏ノ權外ヨリ生スル欠失ハ之ヲ補フベシト雖モ、一夫二婦ヲ娶リ一婦二夫ニ嫁シ若クハ禁制シタル親族相婚スルカ如キ、原因ヲ以テ爲ス世治上ノ取消ヲ防止スルヲ得ス、

第九十七條 然レ第百九十四條及ヒ第百九十五條ニ記シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦タルノ景狀アル者子ヲ生ミテ共ニ死去シタル時其子死者ノ子タルノ景狀アリテ其出產ノ證書ニモ之ニ反シタル模様ナキニ於テハ其婚姻ヲ行ヒタル證書ヲ出サ、ルヲノミテ以テ口實トナシ其子ノ公生ニ非サルヲ速フ可カラス(民一九八、三一九、ヨリ三二二)

公生ノ子トナラントスルニ、元來法律ノ主義ヲ推スルハ、第一其父母ノ結婚シタリシヲ、第二其母婚姻中ニ受胎シタル子ヲ出產セシヲ、第三自己其婚姻ヨリ生レシヲ證スルヲ要ス、然レモ爰ニ於テ法律ハ能ク原則ノ嚴密ヲ寬ニ處シタリ、蓋シ子ハ夫婦ト違ヒ、其父母何レノ地ニ於テ結婚セシヤ又自己何レノ地ニ於テ誕生セシヤヲ知ラサルヲアリ

得ベキカ故ニ、其公生タルヲ確定スルカ爲ニハ、第一其父母既ニ死去セシカ若クハ在癡ノ場合等ノ如ク分明ナル報知ヲ爲ス能ハサルカノヲ、第二其父母公ケニ夫婦トシテ生活シタリシヲ、第三自己モ公生ノ子タル現狀アリテ出產ノ證書中ニモ之ニ反シタル模様ナキヲ證スルヲ以テ足レトス、千八百六十七年六月十九日大審院ノ裁決ノ末條ニ曰ク、父母ノ死去シタル後、其婚姻ノ證書ヲ出スヲナク公生タルヲ求ムル子ハ、民法第百九十七條ニ從ヒ、其父母公ケニ夫婦トシテ生活シ、己レカ爲ニモ公生ノ子タル景狀アリテ、其出產ノ證書中ニモ之ニ反シタルヲナキヲ證スルノ義務アリ、而シテ公生ノ子タルノ景狀ハ、其父母公ケニ夫婦トシテ生活セサリシト雖モ成立テ得ベキカ故ニ、其證據ハ其父母ノ夫婦トシテ公ケニ生活シタルノ證據ヲ免除スルニ足ラス、併セテ三箇ノ證據ヲ示サ、ルベカラス

第九十八條 若シ犯罪ノ訴訟ニ因リ法ニ適シテ婚姻ヲ行ヒタル證ノ顯ハル、時ハ其裁判ノ言渡ヲ身上證書ノ簿冊ニ記スルヲ以テ其夫婦及ヒ其婚姻ニ因リ生レシ子ノ爲メ其婚姻ヲ行ヒシ日ヨリ總テ民法上ノ效力ヲ得セシム可シ(民四〇、一九九、二〇〇、三二六、三二



七、刑一四五ヨリ一四七、一七三、二五四ヨリ二五六、)

本條ノ規格ハ子ノタメ及夫婦ノ爲メニ設ケタルモノトス、犯罪ノ訴訟ト云フ文中ニ、重罪ハ勿論輕罪ノ訴訟ニ係ル事件モ包含ス、婚姻ノ證書ヲ消失セシメントセシ重罪若クハ輕罪ヲ證スル重罪裁判所若クハ輕罪裁判所ノ裁判言渡ハ、身上證書ノ簿冊ニ記入シ以テ婚姻ノ成立ヲ證スルニ供ス、然ルニ假令婚姻ノ成立ノ證ハ顯然タリト雖モ、一夫二婦ヲ娶リ一婦二夫ニ嫁スルカ若クハ禁制シタル親族相婚スル等ノコアルカ爲メ、其婚姻ハ民法上ノ効ヲ決シテ生セサルコトアリ得可シ、

第百九十九條 夫婦又ハ一方ノ者官吏ノ奸情アリシヲ知ラスシテ死去シタル時ハ其婚姻ヲ法ニ適シタルモノト爲スニ管係アル者及ヒ檢事ヨリ其官吏ノ罪犯ヲ訴出スルコト得可シ (民一九〇、一九二、二〇〇、三二六、三二七、)

本條ノ場合ニ於テ婚姻ヲ法ニ適シタルモノト爲スニ付資益アル者ハ、夫婦及ヒ其子又ハ其相續人ナリ、此等ノ者ハ民事裁判所ニ其訴ヲ爲シ得、又檢事モ其訴ヲ爲スヲ得、刑事ノ訴ハ専ラ檢事ニ屬ス、故ニ若シ罪犯ニ付損害ヲ受ケタル者ヨリ其訴ヲ爲サ、ル時

ハ、檢事ノ職務ヲ以テ其知り得タル重輕罪ノ懲罰ヲ求メサル可カラス、

第二百條 官吏ノ奸情アリシヲ知リタル時其官吏ノ既ニ死去シタルニ於テハ其婚姻ニ關スル者ノ申立ニ從ヒ其面前ニ於テ檢事ヨリ其官吏ノ遺物相續人ニ對シ價ヲ求ムルノ訴ヲ爲ス可シ (民四六、五一、七二四、)

婚姻ノ證書ヲ贗造シ若クハ枉害セシ官吏、即チ邑長若クハ裁判所ノ書記役ノ死去シタル時ハ、刑法上ノ訴ハ消滅セシモノトス、何トナレハ刑法上ノ訴ハ、其犯人ニ對テナラテハ爲スヘカラサル者ナレハナリ、然レモ此時ニ當テ婚姻ノ證ヲ回復セントスル訴ハ、其官吏ノ遺物相續人ニ向ヒ民事裁判所ニ於テ之ヲ爲スベシ、而シテ此訴ハ檢事之ニ管シタル者ノ歎願若クハ申述ヲ受ケテノミ爲シ得、蓋シ其訴ニ管シタル者ノ資益ノ輕重ニ因テハ決シテ自ラ刑ヲ受クルコトナキ身上證書ノ官吏ノ遺物相續人ト熟議シ、嘗テ成立サル所ノ婚姻ノ證ヲ得ントスルコト恐レアルヲ以テ、自ラ其訴ヲ爲スヲ許スコトナシ、  
第二百一條 婚姻取消シノ言渡アリト雖モ正意ヲ以テ婚姻ヲ結ヒタル時ハ夫婦及ヒ其子ノ爲メ其婚姻ヨリ民法上ノ効ヲ生ス可シ (民二五、一四四、一四七、一六一、一六二、一八〇、



一八二、一八四、一九一、二〇二、五五〇、二二六八、)

取消サレタル婚姻ハ何レノ効ヲモ生スルコトナシ、故ニ其子ハ公生トナラス、夫婦ノ財産  
ヲ規定スル契約ハ取消トナリ、且其婚姻ノ爲メ爲シタル贈遺及契約ヲ以テ別段遺物相  
續人ヲ選任セシコトモ法ニ適シタルモノトナラス、然レモ取消トナルベキ疵痕アリシコ  
ト知ラス、正意ヲ以テ婚姻セシテ「ビユタチーフ」ノ婚姻ト稱シ、嚴密ナル原則ヲ寬恕シ  
テ民法上ノ効ヲ生セシム、正意トハ、夫婦ニ於テ結婚ノ時其取消トナルヘキ原因ヲ知ラ  
ス、法律上必要ノ法式ヲ以テ其婚姻ヲ行ヒタルコト云フ、而シテ此正意ハ確實ナルモノ  
ト思料ス、(第二千二百六十八條見合セ)依テ其正意ヲ確實ナラスト述フル者ハ必ス其  
證據ヲ示スヲ要ス、本條ト第二千二百六十九條トヲ參看スルニ、「ビユタチーフ」ノ婚姻  
ハ其取消ノ言渡アルノ日迄ハ其効ヲ生ス、故ニ其取消ノ原因ヲ看出シテ后其取消ノ裁  
決アル前ニ受胎シタル子ハ、公生ノ子タルノ權利ヲ享有スベシ、

第二百二條 夫婦中一方ノ者正意ヲ以テ婚姻ヲ結ヒタル時ハ其者及ヒ其婚姻ニ因リ生レシ  
子ノミノ爲メ其婚姻ヨリ民法上ノ効ヲ生ス可シ

例ヘハ夫其前婚ノアリシコトヲ其婦ニ秘匿シ、其婦之ヲ知ラス正意ヲ以テ結婚シタル時  
ハ、其夫ハ其婚姻ノ爲メ爲サレタル贈遺ヲ所益トナスヲ得ス、又其子ニ對シ父ノ權利ヲ失  
ヒ、且法律上其子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲スノ權利ヲ失フベシト雖モ、婦ハ其婚姻ノ爲メ  
受ケタル贈遺ヲ所益トナシ、其子及其子ノ財産上ニ付父ノ權利ヨリ生スル諸權利有ス、且  
其子ノ遺物相續及其夫相續人ヲ遺留スルコトナク死去シタル時ハ、其夫ノ遺物相續ヲ爲  
スノ權利ヲ得、又財産ノ共通ヲ受クルト受ケサルトノ自由權利有シ、且己ノ得ベキ物件ノ  
爲メ、法律上其夫ノ不動産ニ付書入質ノ權利有ス、

「ビユタチーフ」ノ婚姻ニヨリ生レタル子ハ、不正意ノ父及本宗ノ親屬ニ對シ、並ニ其母及  
ヒ外族ノ親屬ニ對シテ公生ノ子タル十全ノ權利ヲ有ス、

○第五章 婚姻ヨリ生スル義務

凡ソ「オブリガーション」(義務)ノ稱アレハ、必ス分別シタル二箇ノ人アリト視想ス、故  
ニ立法者ノ同一體ト看做シタル夫婦相互ノ交際上ニ於テ義務ノ稱ヲ附スルヲ欲セス、  
之ニ因テ夫婦相互ノ權利及ヒ「ドボアル」(務メ)ハ次章ニ譲リ本章ニハ之ヲ論セス、



第二百三條 夫婦ハ婚姻ヲ行ヒシニ因リ相與ニ其子ヲ養育スルノ義務アリ(民二〇八、三四九、三八四、七六二、八五二、一四〇九、一四四八、一五五八)

子ヲ養育スルノ義務ハ婚姻ノミニ因テ生セス、法律ニ循ヒ認メタル子ヲ產出スルコトヨリモ生ス(千八百六十三年六月八日ツールーズ上等審院ノ裁決ニ據ル)

本條ノ旨意甚ダ不充分ナリトス、蓋シ父母其子ヲ養育スルノ義務ハ一箇ノ契約上ヨリ生スルニ非ス、又必シモ婚姻ヨリ生スルコトナシ、而シテ其父母ノ婚姻シタルト否トニ係ラス、畢竟其子ヲ產出シタルヲ以テ生スル者ナリ、第千三百七十條及ヒ第三百七十一條ヲ參看スルキハ此義務ハ一箇ノ准契約ヨリ生スルモノナリ、而シテ其信實ナルコトハ、特ニ自然法上ニ於テ之ヲ要スルノミナラス、民法上ニ於テ亦モ之ヲ要ス、何トナレハ民法ニ於テ養料ヲ求ムルノ權ヲ認許スルハ、公正ノ子ノ爲メノミナラス、私生ノ子及ヒ姦通亂倫ノ子ノ爲メニ於テモ亦同シケレハナリ、(第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條見合セ)養育ノ義務ハ子ノ出產ノ時ニ始マリ、其子自ラ生計ノ方法ヲ求メ得ルノ年齢、即チ其父母ノ後見ヲ免ル、カ、若クハ自ラ己レノ權利ヲ行用スルノ權ヲ授カル

所ノ丁年ニ至テ終ル、以後ハ子ニ養料ヲ給スベキノ義務アリ、此義務ハ養育ノ義務ニ比スレハ稍ヤ廣大ニシテ、凡ソ尊屬ノ親ト卑屬ノ親トノ間ニ存ス、抑此義務ハ永遠ニシテ切絶スベカラサル血統ニ根據シタルモノナレハ、何レノ所爲ヲ以テモ之ヲ斷滅スルコト得ス、然レモ養料ヲ求ムル者ノ需用ト、之ヲ給スル者ノ資力トニ准シテナラテハ其効ヲ生スルコトナシトス、

父母ニ於テ其子ヲ養育スルノ義務ヲ行ハサル時、檢事ハ之ヲ行ハシムルカ爲メ、裁判所ヲシテ必用ナル處分ヲ命ゼシムルコトヲ得ルノミナラス、時宜ニ因リ其父若クハ母ニ對シテ、懲治罪若クハ重罪ノ刑ヲ言渡スコトヲ求メ得、然ルニ教育ノコトニ付テハ其父母殆ト全ク隨意ノ權ヲ有ス(卑屬ノ親ヨリ尊屬ノ親ニ對シテ養育ノ義務ナシト雖モ、養料ヲ給スルノ義務ハ卑屬ヨリ尊屬ニ對シテモ之アリトス、)

養料ヲ給セシムベキヤ否ニ付テハ、審司其子ノ需用ノ原由ヲ監定シ得、實ニ千八百六十年七月七日大審院ノ裁決ニ曰ク、養料ヲ請求スル者ノ身分其需用ノ多寡困窮ノ原由ヲ監定スルコトハ、其請求ノ訴ヲ受ケタル審司ノ職務ナレハ、養料ノ請求ヲ受ケシ所ノ者



ニ於テ其請求者爾後自ラ己ノ需用ヲ辨スベキ方法ヲ與フル爲メ盡力シ、最早此後ノ義務ヲ免カレ得ベキヤヲモ判定セザルベカラス、今上告スル上等審院ノ裁決ニ因リ之ヲ想察スルコトペラト、ド、メジエール」ノ子貧窮ノ狀多クハ其從事シタル諸ノ使役ヲ勤メサリシヨリ生スル所ニシテ、懶惰放逸自己ヲ有益ニ從事セシムルヲ嫌フノ弊習アリ、又己レノ需用ヲ自辨スルノ年齢且其形狀アルヲ明白ナレハ、「ペラト、ド、メジエール」ノ子ノ請求ヲ採用セサル巴里上等審院ノ裁決ハ毫モ民法第二百〇三條以下ト矛盾スルコトナシ、之ニ因リテ上告狀ヲ却下ス云々、

第二百四條 子ハ婚姻ヲ爲シ產業ヲ定ムル事及ヒ其他產業ヲ定ムル事ニ付キ其父母ニ對シ訴ヲ爲スノ權ナシ

羅馬及佛國南方ノ諸州ニ於テナポレオン法典布告以前、羅馬律ヲ以テ治メラレシ時迄ハ婚姻ノ爲メ男子ハ贈遺女子ハ持參銀ヲ得ンカ爲メ、其父若クハ本宗ノ祖父ニ對シ訴ヲ爲スノ權ヲ有セシカレ、佛國北方ノ諸州ニハ斯ノ如キ權ノ行ハレシコトナシ、何トナレハ北方ニ於テハ夫婦財產共通法既ニ通常ノ法トナリ、母モ父ト同地位ナリトシ、外族モ

宗族ト同地位ナリトシテ、南方ニ行ハレシ財產分括ノ法ヲ以テスルヨリ稍ヤ兩族ノ交際ヲシテ親密ナラシメクレハナリ、ナポレオン法典ヲ以テ法律上ヨリ生スル財產共通ノ法ヲ以テ、佛國各州通常ノ法ト爲セシニ付婚姻ノ爲メ持參銀若クハ贈遺ヲ得ント欲シ、其他營業ヲ定ムルカ爲メ等ノコトニ付子ヨリ之ヲ訴フルノ權ヲ廢シ、右等ノコトニ付持參銀若クハ贈遺ヲ爲スコト有益ナルヤ否ヲ監定スルノ自由ヲ、愛情深キ父母ノ思察ニ委テタリ、

第二百五條 子ハ父母及ヒ其他尊屬ノ親ノ窮乏ナル時ハ之レニ養料ヲ給ス可シ(民二〇三、二〇七、三四九、九五五、一五五八、)

養料ハ病患若クハ癡疾等ノ場合ニ臨ミ衣食住ノ爲メ必用ノ物ナリ、蓋シ貧迫ニシテ己レノ需用ヲ辨スルノ資力ナク、且病弱不能ナル尊屬ノ親ハ、其不幸ノ如何ニ係ラス、其卑屬ノ親救助ヲ爲シ得ベキ現狀アル時ハ養料ヲ求メ得、然レモ先ツ其子ニ求メタル後ニアラサレハ其孫ニ對シテ之ヲ得若クハ之ヲ補ハント求ムベカラス、

第二百六條 又婿及ヒ婦ハ前條ニ記シタル場合ニ於テ其舅姑ヲ養フ可シ然レモ姑ノ再婚シ



タル時又ハ婚及ヒ婦ノ配偶者及ヒ其子ノ共ニ死去シタル時ハ其義務ナシトス(民二〇五、二〇七、一五五八、)

婚及婦ハ假令其一方ノ配偶者其舅姑ノ私生子ナリトモ、其舅姑ニ養料ヲ給セサルベカラズ、然レモ此義務ハ姻族ノ尊屬ノ親ノ舅姑以上ニ及フコトナシトス、蓋シ姻族ハ本ト情義上ヨリ成立ツ者ナレハ、本宗尊屬ノ親ノ如キ喫緊ノ義務ヲ生スルコトナシ、故ニ義務ハ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ消盡ス、第一姑再婚ヲ結ヒタル時、蓋シ再婚ハ新ナル夫ノ保護權ヲ受ケ其親族ニ加入シ、且新夫ノ姓ヲ稱シ其需用ニ應スベキ約定ヲ爲サシムベケレハ、前婚ヨリ生シタル關係ヲ大ニ衰微セシムレハナリ、然レモ其姑ハ其子其孫ニ向テ養料ヲ求ムルノ權ヲ失ハス、又自ラ其婿若クハ婦ニ養料ヲ給スヘキ義務ハ決シテ免カル、コトヲ得ス、第二姻族ヲ生セシメシ所ノ夫又ハ婦死去シ、其婚姻ヨリ生レシ子ノアラサル時、蓋シ其姻縁ハ本ヨリ解クベカラスト雖モ、其情義自ラ疎遠ニ至ルヲ以テナリ、

第二百七條 前二條ニ記シタル義務ハ父母及ヒ尊屬ノ親ノ子ニ於ケル並ニ舅姑ノ婚婦ニ於ケルモ又同一ナリトス(民二〇五、二〇六、)

卑屬ノ親モ亦其尊屬ノ親及其舅姑ニ對シ養料ヲ求ムルノ權アリ、然ルモ若シ子ノ婚再婚シタル時ハ其前ノ舅姑ニ對シ養料ヲ求ムルノ權ヲ失フカノコトニ付テハ、姑ノ再婚ノ場合ト相類似スルヲ以テ、大ナル疑問ヲ生シ論說甚ダ多シト雖トモ、予謂ラク抑人ノ權利ヲ失ハシムルコトハ、法律ニ明示シタル場合ニ非サレハ適施スベカラズ、法律ノ不委ナルニ因リ今此疑問アリモ、子アリテ再婚スル所ノ者ハ依然トシテ其前ノ舅姑ニ對シ養料ヲ求ムルノ權アルベシ、(子ナキ時ハ再婚ノ姑ニ同シ)

法律上相互ニ養料ヲ給スベキ者ハ右ノ人々ニ限ル、傍系ノ親ニ至テハ養料ヲ給スルノ義務ナシトス、因テ其兄弟姉妹伯叔父姑ニ養料ヲ給スルノ義務ナシ、只相互ノ人情ニ因テ定メタル自然ノ義務アルノミ

第二百八條 養料ハ之ヲ得ントスル者ノ要スル所ト之ヲ給スル者ノ家産トノ割合ヲ以テ與フ可シ(民二〇九、二一〇、二一一、)

養料ノ割合ヲ定ムルカ爲ニハ、二箇ノ要點ニ着意スルヲ要ス、第一養料ヲ求ムル者ノ需用ノ度、即チ其者ノ年齢健康慣習及親級、第二養料ヲ給スル者ノ家産即チ其者ノ家族



ノ經費等ヲ引去リタル所益及入額ナリ、若シ子二人アリテ其父養料ヲ要スルハ、二人  
 資力ノ割合ヲ以テ各養料ヲ分給ス、若シ之ヲ給スベキ景狀ノアル子一人ノミナル時ハ、  
 其子一人ニテ全ク之ヲ擔當ス、但シ倫序ト條理トニ因リ、養料ヲ給スルノ義務ハ血屬ノ  
 親ハ姻屬ノ親ヨリ重ク、尊屬ノ親ハ卑屬ノ親ヨリ重ク、近級ノ親ハ遠級ノ親ヨリ重シト  
 ス、  
 父母ヨリ他ノ尊屬ノ親ハ、兄弟若クハ姉妹ヲ遺スコトナク死去シタル卑屬ノ親ノ遺物中  
 ヨリ幾部分ヲ得ルノ權ナシトス、故ニ其遺物ハ悉ク生存中ノ贈遺若クハ遺囑ノ贈遺ト  
 シテ死者生存中隨意ニ贈與スルコト得可シ、(第七百五十條及第九百十五條見合セ)之  
 ニ因テ若シ卑屬ノ親其朋友ヲ以テ遺物ノ全部ノ相續人ト定メシ時ハ、養料ヲ要トスル  
 尊屬ノ親ハ其遺物全部ノ相續人ニ對シ、養料ヲ求メ得ベキヤノ疑問アリ、然ルニ原ト羅  
 馬律ニ於テハ之ヲ求メ得ベカラスト定メシニ因リ、民法モ亦之ニ倣ヘリ、是レ少シク酷  
 薄ナルニ似タリト雖モ、養料ヲ給スルノ義務ハ、本來重モニ親族相互ノ情誼ニ根據セシ  
 モノニシテ、家産ニ基クモノニアラス、家産ハ唯養料ヲ給スベキ者ノ其割合ヲ定ムル權

衡ニ付テノミ要用ナルモノト看做スヲ以テ、之ヲ求ムルノ理ナキヲ明コスヘシ、

第二百九條 若シ養料ヲ給與スル者既ニ之ヲ與フルコト能ハサルニ至リシ時又ハ養料ヲ受ク  
 ル者其全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リシ時ハ全ク其養料ヲ給スルコト止メ或  
 ハ之ヲ減スルノ訴ヲ爲スコト得可シ(民二一〇、)

裁判所ニ於テ養料ノ額、及之ヲ給與スベキ各人ノ割合ヲ定メシ申渡ハ、通常裁判濟ノ事  
 件ト同シキ効チ有スト雖モ原ト裁判所ニ於テ之ヲ定ムルニ付、參考セシ景狀ノ變化ニ  
 隨ヒ改定スルコト得、(養料ハ之ヲ要ムル者ノ現ノ窮乏ト、之ヲ給スル者ノ現ノ資力ト  
 ニ因テ計ル故ニ、一度ヒ定メタリモ之ヲ増減スルコト得、)蓋シ養料ヲ受ケシ者ハ遺物  
 相續、若クハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケシニ因テ養料ヲ要セス、養料ヲ給セシ者窮乏ニ至リ、却  
 テ之ニ養料ヲ給セサルベカラサル場合ニ際會スルコトアルベシ、然ル時ト雖モ最初養  
 料ヲ給スヘキノ申渡ヲ變更セサル内ハ猶ホ其効チ存ス、  
 養料ノ負債ハ連帶スヘキモノニ非ス、又分割スベカラサルモノニアラス、故ニ其負債者  
 ハ各自己ノ擔任スベキ部分ノ爲ナラデハ其訴ヲ受クベカラス、(養料ヲ給スベキ者數人



アル時ハ、各人現ノ資力ニ應シテ其部分ヲ定メ又之ヲ増減シ得、右ニ述フル所ノ養料ノ負債ヲ法律上ノ負債ト稱ス、何トナレハ法律ノ權力ヨリノミ生スレハナリ、然レモ其負債モ亦契約上ノモノトナルコトアリ、例ヘハ卑屬ノ親ヨリ養料トシテ毎年或ル金額ヲ給スベキノ約定ヲ以テ、尊屬ノ親ノ財産ヲ讓受ケタル時ハ、其額ヲ變更スルコトヲ得ス、蓋シ其額ハ約定ヲ爲シタル雙方ノ爲メ法律トナル所ノ契約ニ根據スレハナリ、

第二百十條 養料ヲ給ス可キ人之ヲ給スルコト能ハサルノ證ヲ立ル時ハ、裁判所ニ於テ其原由ヲ知リタル後養料ヲ受ク可キ者ヲ其住所ニ引取り之ヲ養フ可キノ言渡ヲ爲スコトヲ得可シ

(民二一一)

養料ハ概シテ貨幣<sup>カチ</sup>ヲ以テ給スヘキモノトス、故ニ之ヲ受クル者其求需ニ必用ナル物件ヲ請取ルカ爲メニ、必シモ養料ヲ給スル者ノ家ニ住居スルヲ要セス、以テ其苦慮切ナラサラシム、然レモ審司ノ監定ニ委テタル左ノ場合ニ於テハ格別ナリトス、第一養料ヲ給スベキ者之ヲ給スルコト能ハサルノ現狀ヲ證スルキハ、裁判所ニ於テ養料ヲ受ク可キ者ヲ己レノ家ニ引取ルベキノ言渡ヲ爲シ得、但シ其言渡ハ其原因ヲ詳悉シタル後、即

チ一方ノ者ノ資力、他ノ一方ノ者ノ需用、及雙方ノ者同居シテ相互ニ親睦篤行ニ生活スベキ存意ナルヤヲ殊ニ深ク吟味シタル後ニ非レハ爲スヘカラス、第二次條ニ明示シタル場合、

第二百十一條 又父若クハ母養料ヲ給ス可キ子ヲ己レノ住所ニ引取り養育ス可キコト述フル時ハ、裁判所ニ於テ其養料ヲ給スルニ及ハサルコト言渡ス可シ(民二〇三、二一〇、)

養料ヲ給スベキ子ヲ、己レノ家ニ引取ラント求ル所ノ父若クハ母ハ、貨幣<sup>カチ</sup>ヲ以テ養料ヲ給シ得サルコトヲ證スルニ及ハス、裁判所ニ於テ之ヲ許可スヘシ、何トナレハ子其父若クハ母ノ許ニ在レハ必ス慈愛ヲ受ケ德行ヲ習フベキモノト思度スレハナリ、然レモ若シ此思度事實ト齟齬スルカ、父若クハ母ノ再婚ヲ爲シタルカ、其子目ヲ婚姻シ子ヲ有スルカ、若クハ其子ヲシテ強テ更ニ父ノ權威ニ復セシムルコト等重大ナル不都合ノ現出スル時ハ貨幣ヲ以テ養料ヲ給スヘキコトノ言渡ヲ爲シ得ヘシ、己レノ需用ノ爲メ父母若クハ他ノ親屬ノ許ニ引取レシ所ノ者ハ、己レノ力ノ及フ丈クハ勤勞シテ、家計ノ費用ヲ補ハサルベカラス、



## ○第六章 夫婦相互ノ權利及義務

本章ハ夫婦トナラントスル者ヲシテ、其取結ハントスル嚴格ナル約定ヨリ生スル權利及義務ノ切ナルヲ知ラシムルカ爲メ、身上證書ノ官吏之ヲ讀聞カス、(第七十五條見合セ、)

第二百十二條 夫婦ハ互ニ眞實ニシテ相資助シ相扶助ス可シ(民七五、二一三、二一九、三〇六、一三八八、刑三三七、三三九、)

法律ハ夫婦相互ニ眞實コスベキヲ命ス、道德上ヨリ視ルキハ夫ノ不眞實モ婦ノ不眞實ト同ク罪犯タリ、然ルニ婦ノ不眞實ヲ罰スルヲ夫ヨリ嚴ナリ、(凡ソ婦ハ内外ヲ問ハス姦通ノ證アル時分居セシムルヲ聽シ且懲治ノ刑ニ處ス、然ルニ夫ハ其家ニ娼婦ヲ蓄ヘ置キタル現狀アルニ非サレハ刑ヲ受ケス、其刑モ亦稍ヤ輕シ(刑法第二百二十九條二百三十條第三百三十七條三百三十八條三百三十九條見合セ)蓋シ婦ノ不眞實ハ夫ノ親族中ニ他ノ子ヲ引入レ、其子ハ夫ノ姓ヲ冒シ其遺物ヲ相續シ、且現ニ家中ニ在レハ絶エス其婦ノ犯狀ヲ追想セシメ、甚タ重大ナル關係ヲ生シ得レハナリ、)

資助(スクール)ハ其配偶者ト其安樂ヲ共ニセシムル義務ナリ、然レモ此義務ハ生涯ノミニシテ死後ニ及ハス、故ニ夫又ハ婦財產富有ナルキト雖モ、貧ナル其配偶者ニ贈遺スルヲ必要トセス、然レモ審司ヨリ夫婦ノ分居ヲ得タル所ノ夫若クハ婦ニ許シタル養料ハ、其配偶者ノ死去ニ因テ滅絶セス、其夫若クハ婦ノ死去ニ至ルマテ、其相續人ヨリ之ヲ給セサルベカラス、(千八百六十一年四月二日大審院裁決其文略之)

扶持「アシスタンス」ハ各人平常ノ慈愛ヨリ生シ、疾病事故アル場合ニ於テ最モ之ヲ要ス、然ルニ此場合ニ慈愛ヲ加ヘス全ク金錢上ノ資助ノミニ止ル配偶者ハ、實ニ惡ムベキ行爲ニ近キヲ以テ、夫婦分居ノ訴ヲ爲スノ原由トスルニ足ル(資助ハ現物若クハ貨幣ヲ以テ生計ニ必要ナル物件ヲ附與スルヲ、扶持ハ愛護スヘキ現狀アルキ充分ノ配慮ヲ爲スヲナリ、資助ハ囊中ヨリ出テ扶持ハ心中ヨリ出ツ、)

第二百十三條 夫ハ其婦ヲ保護シ婦ハ其夫ニ聽順ス可シ(民一三八八)

夫婦ハ永久同一體ト看做スモノ故、其家中ニ於テハ各同等ノ權利ヲ有スベシト雖モ其間ニ和合ナル精神ヲ保ツヲ必要ナルカ爲メ、男女ノ姓宗教及民法上ニ於テ夫ヲシテ婦



及親族ノ長タラシメ、其婦ヲ遇スルコト親友姉妹ノ如ク之ヲ保護スルノ務ヲ命ジ、婦ハ其夫ニ聽從スベキノ務ヲ命ス、故ニ婦ノ聽從スルコト愈切ナレハ其婦ノ威義及ヒ譽榮ヲ増シ、和合ヲ固ウシ親族中ノ感動ヲ來スコト愈切ナルヘシ、

第二百十四條 婦ハ其夫ト居テ同クシ且夫ノ居住ヲ爲サントスル地ニ隨行ス可シ又夫ハ其婦ヲ引取り己レノ家産ト分限トニ應シ生計ノ爲メ要用ノ諸件ヲ給ス可シ(民一〇八、二〇三、三〇六、三一、五〇七、一一四二ヨリ一一四四、一四四八、一五三七、)

前條ノ兩原則ハ雙方ノ爲メ本條ニ掲ケタル二箇ノ義務ヲ生ス、第一婦ハ其夫ト居テ同ウスルヲ要スレハ、夫ノ到ル所ハ假令外國タリモ之ニ隨行セサルベカラス、若シ夫婦ノ住所ヲ逃去リ復歸スルコト肯セサルモ、夫ニ於テ養料ヲ給スルニ及ハス、婦ノ入額ヲ收入スルコト得、(千八百六十二年二月二十日ニーム上等審院ノ裁決)婦夫ノ住所ヲ逃去リタルモ、夫ハ官ノ力ヲ借リテ之ヲ己レノ住所ニ復歸セシメ得ベキヤノ問題アリ、法律中斯ノ如キ方法ヲ掲ケサレモ、其婦若年ナルコト不良ノ誘導ニ感動セララ己レノ務ヲ遠サカリシコト明白ニシテ、且其感動ヲ除去シテ自由タラシメ、其夫其子ニ對面セシメハ

和合シテ家整フベシト觀察スルモ、裁判所ニ於テ右ノ方法ヲ許スヘシ、(千八百六十二年三月十一日ポー上等審院ノ裁決)要スルニ婦ハ故ナク夫ノ住所ヲ去レハ必然婦タルノ務ヲ欠キ、其夫ニ對シテハ分居ノ訴ヲ爲シ得ヘキ程ノ重大ナル侮辱ヲ與フ、第二夫ハ其居宅ニ其婦ヲ引取ルコト要スレハ、資力ニ應シ其婦ノ求需ニ必用ナル物件ヲ給セサルベカラス然レモ之ニ因テ婦ハ何レノ働キヲモ爲サ、ル社會外ノ特權ヲ有スル者ト決シテ定視スベカラス、婦ハ其勞動注意節儉ヲ以テ夫婦ノ家計ヲ繁昌セシムルコト勤メサルベカラス、若シ夫ニ於テ其婦ヲ住居ヨリ退クルカ、若シハ需求ニ必用ナル物件ヲ給スルコト肯セサル時ハ、必然夫タルノ務ヲ欠キ、婦ノ爲メ分居ノ訴ヲ爲シ得ヘキ懸然タル權利ヲ生セシム、

第二百十五條 婦ハ公ケノ商買ナル時又ハ夫ト財產ヲ共通セサル時又ハ夫ト財產ヲ分テタル後ト雖モ其夫ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ裁判所ニ出ルコト得ス(民二一六、二一八、一三八、一五三〇、一五七六、二二〇八、)

夫婦ノ約定シタル財產法ノ如何ニ係ラス、婦原告若クハ被告ト爲テ裁判所ニ出ツルカ



爲ニハ、其夫ノ許諾ヲ得ルヲ要ス、若シ又夫ノ許諾ノアラサル時ハ、民事裁判所ノ許可ヲ得ルヲ要ス、民事裁判所ニテ其許可ヲ與フベキヤ否ヤハ、裁判官會議ノ室ニ於テ之ヲ評決ス、

裁判所ニ出ル爲メ婦ニ與ヘタル許諾ハ、初告裁判所ノ爲メノミニ効アリ、控訴ヲ爲サント欲スルハ更ニ許諾ヲ得ルヲ要ス、(千八百六十二年三月十三日エーキス上等審院ノ裁決)夫ノ許諾若クハ裁判所ノ許可ヲ得サル婦ノ關係シタル訴訟ハ、其夫ノ訴ヘ若クハ其夫又ハ其相続人ノ訴ヘテ以テ取消ト爲スヲ得、然レモ其婦ノ相手方ノ者ハ、此取消ヲ求ムルコトヲ得ス、

第二百十六條 婦重罪輕罪又ハ違警罪犯ニ因リ訴訟ヲ受ケタル時ハ其夫ノ許諾ヲ得スモテ裁判所ニ出ルコトヲ得可シ(民一四二四、)

婦違警罪若クハ輕重罪ヲ犯シタル時、夫ニ於テ其犯罪ノ處斷ヲ妨ケ得サルハ勿論ナリ、然レモ婦訴訟ノ費用罰金及損失ノ償ヲ出スヘキ言渡ヲ受ケタル時、其仕拂ハ夫ノ財産及ヒ共通ノ財産ヲ以テ爲スベカラス、(第千四百二十四條見合セ)

第二百十七條 婦ハ夫ト財産ヲ共通セス又ハ財産ヲ分テタリト雖モ其夫ト共ニ證書ヲ作り又ハ書ヲ以テ夫ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ物ヲ人ニ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲シ又ハ費用ノ有無ヲ問ハス己レノ所有ト爲スコトヲ得ス(民二一九、二二〇、二二六、三四四、三六二、七七六、九〇五、九三四、九四〇、一〇二九、一〇九六、一一二四、一四一九、一四四九、一五三八、一五五四、一五七六、二〇九二、二一三九、二一五五、二一九四、商四五七、)

人ニ物ヲ給與ストハ生存中贈遺ノ方法ヲ以テ己レノ財産ヲ人ニ贈與スルコトナリ、賣拂フトハ、代物ヲ請取リテ己レノ財産ノ所有權ヲ他人ニ移スコトナリ、書入質ト爲ストハ、一箇ノ義務ヲ行フカ爲メ己レノ不動産ヲ抵當トナスコトナリ、費用ナク所有ト爲ストハ代物ヲ出スコトナク、即チ相續若クハ生存中若クハ遺囑ノ贈遺ニ因テ、或ル物ヲ己レノ所有トナスコトナリ、費用ヲ以テ所有ト爲ストハ、賣鬻及交換ノ如ク、代物ヲ出シテ或ル物ヲ己レノ所有トナスコトナリ、蓋シ婦證書人ノ記シタル證書ヲ以テ生存中ノ贈遺ヲ爲シ、遺物ヲ相續シ、贈遺ヲ受ケ、不動産ヲ賣拂ヒ、若クハ書入質ト爲ス著シキ義務ヲ契約スルハ、其他財産ノ自由ナル管理ノ界限ヲ過キタル所置ヲ爲スカノ爲ニハ、其夫ヨリ特別



ノ許諾ヲ得ルヲ要ス、然レモ些少ノ金額、動産ノ買、九年ヲ過キサル貸借ノ契約、息銀  
年金等、又ハ入額ノ收納、其他財産ノ自由ナル管理限内ノ處置ノ爲ニハ、夫ノ許諾ヲ得  
ルヲ要セス、因テ財産共通ノ法ヲ以テ婚姻シタル婦ハ、己レニ委テラレタル家産ノ管理  
ニ係ル總テノ處置ヲ、正當ニ爲シ得ベキハ勿論ナリ、婦ハ此處置ヲ爲スニ付テハ、決シ  
テ己レ一箇ニ其義務ヲ負ハス、其夫ニモ之ヲ負ハシム、蓋シ家産管理ノ爲メ夫ヨリ賦シ  
テ委任ヲ受ケタル者ト看做セハナリ、

第二百十八條 若シ夫其婦ノ裁判所ニ出ルヲ許諾セサル時ハ、裁判官ヨリ其許可ヲ爲ス  
ヲ得可シ(民二一五、二一六、訴八一、)

夫ハ婦ノ主タルニ非ス、其身體榮譽及權利ノ保護人トス、是ヲ以テ夫其婦ノ裁判所ニ出  
ルヲ肯セサルハ、最早裁判所ニ出ルノ道ナキ者トセス、其出ルヲ肯セサリシニヨ  
リ婦己レノ權利ニ於テ損害アラントスル時ハ、代書人ヲシテ裁判所ニ其許可ヲ求メ  
ムルヲ得セシム、訴訟法第八百六十一條及第八百六十二條ニ其手續ヲ掲ク、曰ク婦自  
己ノ權利ヲ保護スル爲メ訴訟ヲ爲サント欲スル時ハ、先ツ其夫ノ承諾ヲ得ント求メ、其

夫之ヲ肯セサル時ハ、裁判所ノ上席人ニ願書ヲ差出ス可シ、其上席人ハ豫定ノ日ニ夫ヲ  
シテ其承諾ヲ爲サ、ル趣意ヲ述ヘシムル爲メ之ヲ裁判官會議ノ室ニ呼出スヘキヲ聽  
許スベシ、裁判官ニ於テハ其夫ノ申立ヲ聽キタル上又ハ夫ノ出席セサル上ニテ、檢察官  
ノ說ヲ聽キ其願求ヲ判斷スヘシ

第二百十九條 若シ夫其婦ノ證書ヲ作ルヲ許諾セサル時ハ婦其夫ヲ相與ニ居住スル住所  
ノ初告裁判所ニ直ニ呼出サシムルヲ得可シ但シ裁判所ニテハ裁判官會議ノ室ニ其夫ヲ  
呼出シテ其述フル所ヲ聽キタル上又ハ之ヲ呼出シテ猶出席セサル上ニテ其允許ヲ爲シ又  
ハ爲サ、ルヲ自由ナリトス、(民一〇八、二一七、二二一、一四一三、一四一七、一四二六、訴  
八六一、)

婦裁判所ノ許可ヲ得ル爲メノ手續ニ關シタル本條ノ規則ハ、前條ニ引說シタル訴訟法  
第八百六十一條及第八百二十條ヲ以テ變更シタリ、裁判所ハ公ケニ夫婦ノ論辨ヲ爲サ  
シムルニ於テ、夫婦ノ爲メ妨碍トナリ得ベキ時ハ、公聽ヲ許サ、ル裁判官會議ノ室ニ於  
テ其申立ヲ聽ク、



第二百二十條 婦公ケノ商買ナル時ハ其商業ニ管スル事件ニ付キ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲スヲ得ベシ但シ此場合ニ於テ夫婦互ニ其財産ヲ共通セシ時ハ其夫モ亦其契約ノ義務ヲ負フ可シ婦ハ其夫ノ商品ノ零賣ヲ爲スノミニテハ公ケノ商買ナリト爲ス可カラズ別ニ自カラ商業ヲ爲ス時ノミ之ヲ公ケノ商買ナリト爲ス可シ(民二二五、二一七、一四〇九、一四二六、商四、五、七、六、三八、)

婦ハ夫ノ許諾ヲ得スシテ公ケノ商人トナルヲ即チ一箇ノ商業ヲ營ムヲ得ス、(商法第四條見合セ)前第二百十八條及第二百十九條ハ本條ノ場合ニ適施スヘキニアラス、蓋シ裁判所ハ一箇特別ノ所爲ノ有益ナルヤ、道徳上ニ相觸レサルヤヲ監定シ得ヘキノ景狀ヤリト雖モ、婦ノ爲メ一箇ノ商業ヲ起スヲ果シテ有益ナルヤ、且道徳上ニ相觸レサルヤヲ監定シ得ル爲メニ必用ノ元素ヲ得難クレハナリ、蓋シ商業ハ婦ヲシテ夫ノ監護ノ過半ヲ通レシメ、婦及母タルノ務ヲ遠サケ、其財産ヲ危フシ、且家資分散及倒産ヨリ生スル耻辱ヲ來スカ如キ、重大ナル事故ヲ提起シ得ベケレハナリ、

商業ハ神速ナルヲ要スルカ故ニ、夫其婦ノ商買トナルヲ明許若クハ默許シタル時ハ、家資分括ノ法ヲ以テ分括シタルモノヲ除クノ外、商品ノ買買爲換手形及「ビエー、ダ、オルドル」(商法第百八十七條ニ詳ナリ)ノ手署及裏書、不動産ヲ賣拂ヒ及書入質ト爲スカ如キ、凡ソ其商業ニ關シタル處置ヲ爲シ得ヘキ權ヲ授與シタルモノト看做ス、然ルニ裁判所ニ出ルヲ付テハ、假令商業ノニ關シタル時ト雖モ、其夫若クハ裁判所ノ特別ノ許可ヲ得ルヲ要ス、(第二百十五條見合セ)又商業ニ關セサル他ノ事件ノ爲メ爲シタル契約ハ、取消トナリ得ベキ疵癍アルヲ免カレス、何トナレハ婦ハ假令商買タルノ分限アリモ、商業ノ外本ヨリ契約ヲ取結フノ權利ナク、其商業ニ付契約ヲ取結フノ權利アルハ特別ナレハナリ、公ケノ商買タル分限ヲ以テ義務ヲ契約スル所ノ婦、法律上若クハ契約上財産共通ノ法ニ依リ、若クハ財産ヲ共通セス、(第百二十九條以下見合セ)婚姻シタル者ナル時ハ、其夫ニモ亦己レノ契約シタル義務ヲ負ハシム、蓋シ右ノ法ヲ以テ婚姻シタル時、夫ハ其婦ノ商業ヨリ生スル利益ヲ所得ト爲スカ故ニ、夫モ婦ト等シク商業ノ損失ヲ擔任シ、商業上ノ負債ノ仕拂ニ付訴ヲ受クベキヲ至當トス、之レニ反シテ財産分別ノ法若クハ家資分括ノ法ヲ以テ婚姻シタル婦、嫁資外ノ財産アリテ以テ商業ヲ營ミ、



其所得モ全ク婦ニ歸シ、夫之レヲ所得ト爲サ、ル時ハ、婦ノ商業ノ損失ヲ擔任スルコトナク、且商業上ノ負債ニ付訴ヲ受クベキコトナシ、但シ婦自ラ別ニ一箇ノ商業ヲ營ムコトナク、其夫ノ商品ノ零賣ヲ爲ス時ハ、名代若クハ手代ニ准シ、其契約シタル義務ハ、己レノ之ヲ負フコトナク其夫ニ負ハシム、

第二百二十一條 抗傳シタルトキト雖ヒ夫若シ施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ時ハ其婦丁年幼年タルニ管セス夫ノ罰ヲ受クル間ハ裁判官ヨリノ允許ヲ得スシテ裁判所ニ出テ又ハ契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判所ニテハ其夫ヲ呼出シ又ハ其述フル所ヲ聽糺スコトナクシテ其允許ヲ爲スコトヲ得可シ(民二一五、二一七、二二二、一四一三、一四一七、一二四六、訴八六一、治四六五、四七六、刑七、八、二八、三四、)

施體ノ刑ハ死、流、無期懲役、有期懲役、囚獄、監役、(徒刑場内ニ於テ使役スルノ刑トモ譯ス刑法第七條)ナリ、此等ノ刑ハ必ス加辱ヲ兼ヌ、單ニ加辱ノ刑ト云フハ追放及公權剝奪ナリ、(刑法第八條)施體ト加辱トヲ兼ル刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ、其刑期ノ時間法律上民權ヲ行フノ禁ヲ受ケシメ、其財産ヲ管理セシムルカ爲メ後見人ヲ任ス、(刑法二

十九條)單ニ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ、決シテ民權ヲ行フノ禁ヲ受クルコトナシ、夫其刑ノ終リタル後ハ、假令未ダ政府ノ監察ニ處セラレシ間ナリヒ其婦ノ裁判所ニ出ルコト正當ニ許諾シ得ヘキモノトス、

第二百二十二條 若シ夫治産ノ禁ヲ受ケタル時又ハ失踪ノ時ハ裁判官其原由ヲ聽糺シタル上ニテ其婦ニ裁判所ニ出テ又ハ契約ヲ爲スコトヲ允許スルヲ得可シ(民二二〇、二二五、二一七、二二四、五〇二、一四一三、一四一七、一四二六、二二〇八、訴八六三、八六四、)

夫家出シタリヒ未ダ失踪ノ公告アラサル内ハ、決シテ其民權ヲ行フコト妨ケ得ス、故ニ此場合ニ於テ婦ハ其必用トスル許可ヲ裁判所ニ願ヒ得、

第二百二十三條 夫ヨリ婚姻ノ契約書ヲ以テ其婦ニ裁判所ニ出テ又ハ契約ヲ爲ス可キ一般ノ許ヲ爲シタリト雖ヒ婦ハ己レノ財産ヲ支配スル事ノミノ外其許ノ如ク爲ス可カラズ(民一三八八、一四二〇、一五三八、一九八八、)

婚姻ノ契約書若クハ婚姻ノ問タリヒ、夫ハ其婦ニ其財産ヲ管理スルコトノ一般ノ許シテ與ヘ得、婚姻ノ契約書ヲ以テ此許シテ與ヘタル時ハ、其婚姻ト同シク永久不動ノモノナ



リト雖也、此許シハ婦自己ノ財産ノ爲メノミコシテ、恰モ夫婦ニテ財産分別ノ法ヲ約定シタルカ、若クハ嫁資分括ノ法ヲ以テ結婚シタルカノ婦ノ嫁資外ノ財産ヲ有スル者ノ如シ、財産共通若クハ財産ヲ共通セスシテ婚姻シタル者ノ與ヘタル一般ノ許シハ、婦及夫及共通ノ財産ニ及ホスト雖也、夫ハ此許シヲ隨意ニ廢シ得、而シテ一般ノ許シハ裁判所ニ出ルヲ、生存中ノ贈遺ヲ爲スヲ、遺物ヲ受クルヲ、不動産ヲ賣拂ヒ又ハ書入質ト爲スヲ、財産管理ノ限ヲ過キタル義務ヲ契約スルヲ等ノ權利ヲ婦ニ授ケシヲナキモノトス、蓋シ治爰上婦ヲシテ夫ノ權ニ從ハシメ、且夫ニ命スルニ婦ヲ保護スルノ務ヲ以テスルカ故ニ此等ノ處置ヲ爲サンカ爲メノ許シハ特別ノコトトシ、以テ婦ハ常ニ其夫ニ聽順シ、夫ハ其婦ヲ保護スルノ證ヲ示セシモノナリ、

第二百二十四條 若シ夫ノ幼年ナル時ハ其婦裁判所ニ出テ及ヒ契約ヲ爲スニ付キ裁判官ノ允許ヲ受クルヲ必要トス(民二一五、二一七、三八八、四七六、一四一三、一四一七、一四二六、二二〇八、訴八六一、)

幼者ハ假令婚姻ノ爲メ後見ヲ免カレタリ也、財産管理ノ限ヲ過キタル處置ヲ爲スニ付

テハ猶未タ不能力者タルヲ免カレス、况ヤ其權ヲ其婦ニ與フルニ於テチヤ、

第二百二十五條 夫ノ許諾ナキヲ以テ契約ヲ取消ス可キコトハ婦又ハ夫又ハ其遺物相續人ニ非サレハ之ヲ述フルヲ得ス(民二一五、二一七、九四二、一一二五、一三〇四、一三一二、一三三八、)

許諾ヲ得サル婦一箇ノ證書ヲ作りタルカ、若クハ裁判所ニ出タルカノ時ハ其證書若クハ裁判申渡ハ之ヲ取消ト爲シ得ベキ疵癥ヲ帶ヒタリト雖也、此取消ハ夫ノ保護ヲ受ケサリシ婦及其相續人、若クハ己レノ權威ヲ辱メラレタル夫ナラテハ之ヲ求ム可カラス、婦ノ爲シタル處置夫一身ノ金錢上ノ利益ヲ妨害シタル單一ノ場合ニ於テ、夫ハ婚姻ノ解ケシ後タリ也取消ヲ訴ルノ權アリ、而シテ此權ハ夫ノ相續人ニ移シ得ヘシト雖也、許諾ヲ得サル婦ト契約スルヲ承諾シタル所ノ余人ハ曾テ其契約ノ取消ヲ求ムルヲ拒サズ、(第千百二十五條)然レ其夫及婦ニテ契約ヲ固定セサル以上ハ、之ヲ執行スルヲ拒ミ得、但シ取消ト爲シ得ベキ證書ヲ明許若クハ默許シテ固定スルコトハ、夫婦雙方ニテ爲スヲ要ス、何トナレハ夫婦タル一方ノ者ニ於テ、他ノ一方ノ者ノ取消ヲ訴ヘ得ベキ既有



ノ權利ヲ妨害シ得サレハナリ、

第二百二十六條 婦ハ其夫ノ許諾ヲ得スシテ遺囑ヲ爲スヲ得可シ(民八九五、九〇五、九六九)

往古佛國或ル地方ノ習慣ニ於テハ、婦ハ其夫ノ許諾ヲ得サレハ遺囑ヲ爲シ得サリシカ  
ニ、元來遺囑ハ遺囑者ノ隨意ニ廢棄シ得ヘク、且全ク自由ノ意ヨリ出ルヲ要シ、遺囑者  
ノ死去即チ遺囑シタル婦夫ノ權ノ全ク消滅セシ時ニ際會セサレハ其効ヲ生セサルノ理  
ニ基キ、成文法ハ右ノ習慣ヲ廢シタリ、

○第七章 婚姻ノ解クル事

第二百二十七條 婚姻ノ解クル原由ハ左ノ三件ニアリ

第一 夫又ハ婦ノ死去スル事

第二 法律ニ循ヒ離婚ヲ言渡シタル事

第三 夫又ハ婦准死ノ屬スル刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタル事

婚姻ヲ解クニ三箇ノ原由アリシカ、其二箇ハ廢セリ、即チ千八百十六年五月八日ノ法律

ヲ以テ離婚ヲ廢シ、千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ准死ヲ廢シタルコヨリ、  
今日ハ夫又婦ノ死去スルニアラサレハ解クヘカラサルコトナレリ、

○第八章 再婚

第二百二十八條 婦ハ前婚ノ解ケヨリ滿十月ノ後ニ非サレハ再婚ヲ取結フ可カラス(民  
二二七、二九六、刑一九四、一九五)

男ハ寡夫トナルキハ直ニ再婚ヲ結ヒ得ヘシト雖モ、寡婦ハ直ニ再婚ヲ爲スヲ聽サス、然  
レモ若シ此禁ヲ犯シ滿十ヶ月内ニ再婚シタリモ、其婚姻ハ取消トモセス、又取消ヲ爲シ  
得ヘキモノトモセス、其婚姻ノ式ヲ行ヒタル身上證書ノ官吏ニ十六「フランク」ヨリ三  
百「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス、(刑法百九十四條)若シ寡婦其夫ノ死去シタル次月ニ再  
婚シ、三百日以内百八十日以上ノ内出産スルキハ、裁判所ハ其情狀ニ從ヒ何レカ其子ノ  
父ナルヤヲ判斷スヘシト雖モ、概シテ前夫ノ子ト定ムル方道理アリトス、第三百十二條  
ヲ參照スルニ懷妊ノ最モ短キ期限ハ百八十日、最モ長キハ三百日トス、故ニ受胎ハ必ス  
此二期限ノ間ニ在ルヘシ、又子ハ受胎ノ時ヨリ其父ニ附スヘキ故、受胎シ得ヘキ時間再



婚ヲ禁シテ充分タルヘシ、例ヘハ寡婦其夫ノ死去セシ日ヨリ五ヶ月ノ後再婚セハ、最早其子ノ父ヲ定ムルニ疑ヒナカルヘシ、實ニ初婚ノ解ケシヨリ十ヶ月内ニ生スベキ子ハ、必ス初夫ニ屬スヘシ、何トナレハ懷妊ノ最モ短キ期限タル六ヶ月モ、再婚ヲ行ヒタル時ヨリ未ダ曾テ經過セサレハナリ、又初婚ノ解ケシヨリ十ヶ月ノ後生レタル子ハ、必ス再夫ニ屬スヘシ、何トナレハ懷妊ノ最長キ期限既ニ經過シタルヲ以テ、最早之ヲ初夫ニ歸ス可カラサレハナリ、故ニ本條ノ眞ノ目的ハ、寡婦ヲシテ其夫ノ服期漸ク明ケ、死屍未タ冷カナラサルニ再婚シテ更ニ愛情ニ誘ハレンコトヲ妨ケントスルニ在リ、

○第六卷 離婚(千八百三年三月二十一日決定同月三十一日下達千八百六十年五月八

日廢ス)

此卷ヲ五章ニ分チ、第一第二第三第四章ニ離婚ヲ掲ケ、第五章ニ夫婦分居ノ事ヲ掲ケ、離婚トハ夫婦若クハ其一方ノ請求ニ因リ、審司ノ申渡ヲ以テ婚姻ヲ解クコトナリ、分居トハ夫婦中一方ノ者其他ノ一方ノ者ノ行狀ニ因リ、名譽若クハ生計ヲ妨害スルコト甚シキ時、夫婦別居スルノ權利ヲ審司ヨリ得ル一時ノ措置ニシテ、婚姻ヲ解キタル夫婦各自ニ

再婚スルノ自由ヲ與フル場合ト殊ナリ、唯其交情ヲ薄ウスルノミコテ其婚姻ハ解ケサルモノトス、分居ノ言渡ヲ得タル夫若クハ婦ハ、即チ其配偶者ノ行狀ヲシテ善良ナラシメ、其住所ニ歸復セシメ、其親族及子女ノ懽情愛意ヲ増サシメ、最初其分居ノ言渡ヲ求メタル原由ノ消盡スベキヲ期望スル者ト看做サル、

宗教上ニ於テハ夫婦ハ神ノ結縁シタルモノ故、人ノ敢テ分離シ得ベキ者ニ非サルヲ以テ、宗教上ノ許可ヲ受ケタル婚姻ハ、必ス解クベカラサル者タルコトヲ嘗テ説示シタリキ、往古偶像信仰ノ人民モ亦此眞理ニ歸順セリ、是ヲ以テ羅馬建國ヨリ第五紀(五百年)ニ至ルマテハ婚姻ハ必ス宗旨ニ關係シテ夫婦ヲシテ畢生間一箇ノ結社中ニ在ラシメ、其神與人定ノ權利ヲ永久分離スベカラサル者トナセシコト、載セテ在史ニ在リ、復タ疑ヒテ容サル所ナリ、當初羅馬人ノ社會大ニ道德ニ厚ク純良ニシテ且強盛ナリシモ、後來浸衰ヘ掠奪ノ念増長セシヨリ、放蕩淫褻ニ流レ經國ノ思慮漸ク薄ク親族ノ情誼益敗レ、終ニ官府モ宗旨モ婚姻ニ關係セサルコトニ至レリ、因テ夫婦ノ道衰頽シ、動モスレハ各其情慾ニ侵サレ隨意ニ婚姻ヲ解クコトヲ得、風俗ノ澆季モ亦甚シセ謂可シ、此時ニ當テ耶蘇教起



リ、婚姻ヲシテ再ヒ宗教上ノ結縁トナラシメ、隨テ親族姻縁ノ交誼モ等シク永久解クベカラサルモノト爲シ繼テ民法ヲ以テ道德ニ基キタル此原則ヲ守ラシムヘキモノト確定シ、犯者ニ對シテ譴責ヲ加フ可キヲ明示シタリ、然ルニ千七百九十二年ニ至リ諸宗教悉ク大ニ政府ノ凌轢ヲ受ケ終ニ又法律ヲ以テ婚姻ハ民事上ノ契約ニ外ナラスト爲シタリ、ナポレオン法典ハ此法律ヨリ生セシ所ノ弊害ヲ芟除セント欲シ、姑ク離婚ヲ許セリト雖モ、嚴ニ其制限ヲ立テタリ、千八百十六年五月八日ノ法律ヲ以テ、離婚ハ實ニ宗教及道德ノ原則ニ反スルノミナラス、世治ヲ害シ夫婦親族及ヒ子女ノ親愛及ヒ利益ヲ損スルモノト爲シテ之ヲ廢シタリ、其法律左ノ如シ

第一條 離婚ヲ廢ス

第二條 定リタル原由ノ離婚ノ訴ハ、悉皆夫婦分居ノ訴ニ改換スベシ、民法第二百二十七條二百三十四條三百六十五條及ヒ二百六十六條ニ循ヒ、離婚ノ言渡ヲ爲サ、ルニ因リ未ダ施行ニ至ラサル分ノ裁判申渡ハ夫婦分居ノ効ニ止ルベシ、

第三條 雙方ノ承諾ヲ以テ、離婚ニ至ルベキカ爲メ爲シタル諸件ハ總テ取消ト爲ス、此

場合ニ於テ爲シタル裁判申渡未ダ離婚ノ言渡ヲ經サルモノハ、第二百九十四條ニ從ヒ其申渡ハ取消ノモノト看做ス、

千八百三十年及千八百四十八年ノ革命後、離婚ノ制ヲ復スヘキノ論ヲ主張セシ輩アリシカモ、此法律ニ擯斥セラレテ遂ニ行ハレス、且千八百五十四年ニ於テ准死ヲ廢スル法律ノ布告アラシヨリ、婚姻ノ解クベカラサル原則ヲ一層確定シタリ、

離婚ハ既ニ全ク廢シタリト雖モ、離婚ノコトヲ掲クル條件中、夫婦分居ノコトニ適施スベキ條規アルヲ以テ左ニ之ヲ記ス(一)ヲ附セサル條ハ夫婦分居ノ事ニ適施スベキモノトス、

○第一章 離婚(及ヒ夫婦分居)ノ原由

第二百二十九條 夫ハ其婦ノ姦通ヲ以テ原由ト爲シ離婚(及分居)ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十條 婦ハ其夫ノ其家ニ女ヲ畜ヒシ時ハ姦通ヲ以テ原由ト爲シ離婚(及ヒ分居)ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十一條 夫又ハ婦ハ過慾苛虐又ハ重大ナル凌辱ヲ受ケタルヲ以テ原由ト爲シ互ニ離婚(及ヒ分居)ヲ訴フルコトヲ得可シ



第二百三十二條 夫婦中一方ノ者加辱ノ刑ヲ言渡サレシ時ハ他ノ一方ノ者其言渡シヲ以テ原由ト爲シ離婚(及ヒ分居)ヲ訴フルヲ得可シ

第二百三十三條 夫婦法律上ニ定メタル方法ヲ以テ互ニ承諾セテ離婚ヲ求ムル旨ヲ固執シテ述ヘ且法律上ニ定メタル規則ヲ遵守セタル時ハ其互ニ夫婦タルニ耐ヘスシテ離婚ヲ爲ス可キ確的ノ原由アル十分ノ證トス可シ

○第二章 定リシ原由アル離婚

○第一款 定リシ原由アル離婚ノ法則

第二百三十四條 定リシ原由アル離婚ヲ訴フルコ至ラシメシ事情又ハ罪科ノ如何ナルヲ問ハス總テ離婚ハ夫婦ノ住所ヲ管轄スル初告裁判所ニ訴フ可シ

第二百三十五條 若シ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦ノ述ヘタル事情ニ因リ檢察官ヨリ刑法ニ管シタル訴訟ヲ爲スコアル時ハ重罪審院ノ言渡シアルニ至ル迄離婚ノ訴訟ヲ停止シ其言渡アリシ後再ヒ離婚ノ訴訟ヲ始ムルヲ得可シ但シ被告ノ夫又ハ婦ハ重罪審院ノ言渡如何ナルヲ問ハス其言渡ヲ以テ原告ノ夫又ハ婦ノ訴訟ヲ爲スニ付キ故障ヲ述フ可カラス

第二百三十六條 婚姻ヲ訴フル書ニハ其事情ヲ詳細ニ記ス可シ但シ其書ハ婚姻ヲ訴フルニ必要ナル證書アル時ハ其證書ト共ニ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦ヨリ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判官ニ出ス可シ若シ其夫又ハ婦ノ病ニ罹リ此事ヲ爲スコ能ハサル時ハ裁判官其者ノ願ト内科外科ノ醫官二名又ハ下等醫師二名ノ證書トニ從ヒ離婚ヲ訴フル者ノ住所ニ至リテ其訴ヲ聽ク可シ

第二百三十七條 裁判官ハ離婚ヲ訴フル者ノ述フル所ヲ聽キ相當ノ心付ケヲ爲シタル後離婚ヲ訴フル書及證書類ニ姓名ノ手署ニ代用スル艸名ヲ記シ此等ノ書類ヲ受取リシ調書ヲ記ス可シ且此調書ニハ裁判官及ヒ離婚ヲ訴フル者其姓名ヲ手署ス可シ若シ離婚ヲ訴フル者姓名ヲ手署スルコト知ラス又ハ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第二百三十八條 裁判官ハ其調書ノ紙尾ニ記定シタル日時ニ原告被告雙方ノ者自ラ己レノ面前ニ出席ス可キコト言渡シ且之カ爲メ裁判官其言渡書ノ寫シテ被告ノ夫又ハ婦ニ送達ス可キコト言渡ス可シ

第二百三十九條 裁判官ハ預定セシ日ニ至リ夫婦共ニ出席スル時ハ其雙方ノ者ニ對シ又離



婚ヲ訴フル者ノミ出席スル時ハ其者ノミニ對シ和解ヲ爲ス可キヲ論示ス可シ若シ和解  
ヲ爲サシムルコトヲ得サル時ハ其旨ヲ調書ニ記シ離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ヲ檢察官ニ送  
達シ且其諸事ヲ裁判所ニ申立ツ可キヲ言渡ス可シ

〔第二百四十條 此時ヨリ三日内ニ裁判所ニ於テハ其上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判官  
ノ申立ノ旨ト檢察官ノ述ブル所ノ旨トニ從ヒ原告人ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出ス可キノ允  
許ヲ與ヘ又ハ暫ク之ヲ猶豫ス可シ但シ其猶豫ノ時間ハ二十日ヲ過ク可カラス〕

〔第二百四十一條 原告人ハ裁判所ノ允許ヲ得タルニ因リ通常ノ法式ニ循ヒ法律上ニ定メタ  
ル定期内ニ被告人ニ自カラ内密吟味ニ出席ス可キ呼出狀ノ初メニ離婚ヲ訴フル書及ヒ證  
書類ノ寫ヲ副フ可シ〕

〔第二百四十二條 法律上ニ定メタル定期ノ終リシ時被告人ノ出席ヲ爲スト否トヲ問ハス原  
告人ハ一人コテ出席ヲ爲シ又ハ代理人ト共ニ出席ヲ爲シ其訴ノ趣意ヲ自カラ述ヘ又ハ代  
言人ヲシテ述ヘシム可シ又原告人ハ證書類ヲ出シ其證人ノ姓名ヲ述フ可シ〕

〔第二百四十三條 被告人自カラ出席ヲ爲シ又ハ名代人ヲ出席セシメタル時ハ原告人ノ訴ノ  
趣意及ヒ證書類並ニ原告人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人ノ事ニ付キ自カラ己レノ意ヲ述ヘ又  
ハ名代人ヲシテ之ヲ述ヘシムルコトヲ得可シ又被告人ハ自己ノ方コテ出席セシメント欲ス  
ル證人ノ姓名ヲ述フ可シ但シ原告人ハ被告人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人ノ事ニ付キ己レノ  
意ヲ述フルコトヲ得可シ〕

〔第二百四十四條 裁判官ハ原告被告ノ出席シタル事及ヒ其述ヘタル所並ニ其自陳シタル所  
ヲ調書ニ記シ其調書ヲ雙方ニ讀聞セシ後雙方ヲシテ其調書ニ姓名ヲ手署セシム可シ但シ  
其調書ニハ雙方共ニ姓名ヲ手署シタル事又ハ姓名ヲ手署スルコト能ハス或ハ手署スルヲ欲  
セサル旨ヲ述ヘシコトヲ附記ス可シ〕

〔第二百四十五條 裁判所ニテハ原告被告ノ雙方ニ公ケノ吟味ニ出席ス可キヲ言渡シテ其  
日時ヲ定メ且内密吟味ニ管シタル書類ヲ檢察官ニ送達ス可キヲ言渡シテ掛リ裁判官ヲ  
任ス可シ若シ被告人出席セサル時ハ裁判所ノ官渡ニテ定メタル期限内ニ原告人ヨリ其言  
渡書ヲ被告人ニ送達セシム可シ〕

〔第二百四十六條 預定セシ日時ニ至リ裁判所ニテ掛リ裁判官ノ申立ニ從ヒ且檢察官ノ述フ



ル所ヲ聽キタル後被告人他故ヲ述ヘテ其訴ヲ拒ムコトアルニ於テハ先ツ其拒ム所ヲ裁判シ若シ其拒ム所道理アル時ハ離婚ノ訴ヲ爲スヲ許ス可カラズ若シ其拒ム所道理ナク又ハ其訴ヲ拒ムコトナキ時ハ離婚ノ訴ヲ爲スコトヲ允許ス可シ

〔第二百四十七條 裁判所ニ於テハ離婚ノ訴ヲ爲スヲ允許セシ後直チニ掛リ裁判官ノ申立ニ從ヒ且ツ檢察官ノ述フル所ヲ聽キタル上其本案ノ裁判ニ取掛ル可シ但シ其訴フル所裁判ヲ做シ得可キ摸樣トナリタル時ハ其裁判ヲ爲シ然ラサル時ハ裁判所ヨリ原告人ニ其述フル所ヲ證人ヲ以テ證ス可キコトヲ許シ又被告人ニモ同一ノ許ヲ爲ス可シ〕

〔第二百四十八條 訴訟中何レノ時ニ於テモ雙方ノ者掛リ訴判官ノ申立ノ後檢察官ノ詞ヲ發スル前ニ始メハ他故ヲ以テ訴訟ヲ拒ムコトニ付キ後ハ其本案ニ付キ各其論辨ヲ爲シ又代官人ヲシテ之ヲ論辨セシム可シ原告人ハ自カラ出席スルニ非サレハ其代官人ヲ出スコトヲ得ス〕

〔第二百四十九條 裁判所ニテ證人ノ吟味ヲ爲ス可キ言渡ヲ爲シタル後裁判所ノ書記役ハ直チニ調書ノ中ニテ雙方ヨリ出サント欲スル證人ノ姓名ヲ記セシ部ヲ讀上ク可シ○裁判所

ノ上席人ハ雙方ノ者ニ此時猶他ノ證人ノ姓名ヲ述フルコトヲ得可シト雖モ後ニ至リテハ之ヲ許サ、ル旨ヲ言聞カス可シ

〔第二百五十條 其後直チ雙方ヨリ互ニ相拒ム證人ニ付キ故障ヲ述フ可シ裁判所ニテハ檢察官ノ述フル所ヲ聽キシ上其故障ノ可否ヲ裁判ス可シ

第二百五十一條 原告被告雙方ノ者ハ其子及ヒ卑屬ノ親ヲ除クノ外其他ノ親族ニ付テハ其親族タル故ヲ以テ證人タルノ故障ヲ述フ可カラズ又雙方ノ婢僕ニ付テモ其婢僕タル故ヲ以テ證人タルノ故障ヲ述フ可カラズ然レモ裁判所ニテハ其親族及ヒ婢僕ノ證ヲ相當ニ斟酌シテ聞取ル可シ

第二百五十二條 證人ヲ以テ證ヲ立ツ可キコトヲ允許スル言渡書ニハ吟味ヲ爲サントスル證人ノ姓名ヲ記シ且雙方ヨリ其證人ヲ出席セシム可キ日時ヲ定ム可シ

第二百五十三條 證人ハ檢察官及ヒ原告被告並ニ其代官人又ハ其朋友ノ前面ニ於テ内密吟味ヲ受ケ其證ヲ述フ可シ但シ其代官人又ハ朋友ノ員ハ三人ニ過ク可カラズ

第二百五十四條 原告被告ハ其相當ト思量スル所チ自カラ證人ニ心付ケ且問糾シ又ハ代官







〔第二百六十二條 離婚ノ事ニ付キ初告裁判所ニ於テ爲シタル訴訟允許ノ言渡即チ離婚ノ言渡ヲ控訴シタル時ハ控訴院ニ於テ之ヲ至急ノ事トシテ吟味シ其裁判ヲ爲ス可シ〕

〔第二百六十三條 控訴ハ初告裁判所ニ雙方ノ者ノ出席シタルト一方ノ者ノ抗傳シタルトナ門ハス其裁判言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス○又控訴院ノ終審ノ裁判言渡ニ服セスシテ覆審院ニ上告スル定期モ其言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ之ヲ爲ス可シ但シ覆審院ニ上告シタル間ハ控訴院ノ言渡ノ執行ヲ停止ス可シ〕

〔第二百六十四條 終審ノ裁判言渡又ハ控訴上告ス可カラサルモノトナリシ裁判言渡ニ因リ離婚ノ允許ヲ得タル夫又ハ婦ハ二月内ニ身上證書ノ官吏ノ面前ニ至リ其官吏チシテ離婚ヲ言渡サシム可シ但シ此時ハ被告人モ相當ノ法式ヲ以テ呼出ヲ受ク可シ〕

〔第二百六十五條 此二月ノ期限ハ初告裁判所ノ言渡ニ付テハ控訴ス可キ定期ノ終リシ時ヨリ之ヲ算ヘ又控訴院ニ訴出シタル時被告人ノ抗傳シテ受ケタル裁判言渡ニ付テハ其裁判執行ヒノ故障ヲ述フルヲ得可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算ヘ又控訴院ニ於テ雙方出席ノ上言渡シタル裁判ニ付テハ覆審院ニ上告ス可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算フ可シ〕

〔第二百六十六條 若シ原告人被告人チ身上證書ノ官吏ノ面前ニ呼出スコナク前條ニ記セシ二月ノ期限ヲ過シタル時ハ裁判言渡シノ資益ヲ失ヒ更ニ新ナル原由アルニ非サレハ再ヒ離婚ヲ訴フルヲ得ス但シ新ナル原由アリテ再ヒ離婚ヲ訴出シタル時ハ己レノ資益ノ爲メ以前ノ原由ヲ述フルヲ得可シ〕

○第二款 定リシ原由ノ爲メノ離婚ニ付キ假リノ處置

〔第二百六十七條 離婚ノ訴訟中子ヲ假リニ管督スルコトハ離婚ノ原告タルト被告タルトチ間ハス其父之ヲ爲ス可シ但シ子ノ利益ノ爲メ母又ハ親族又ハ檢察官ノ求メニ因リ裁判所ヨリ別段其處置ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス〕

〔第二百六十八條 婦ハ離婚ノ原告又ハ被告タルチ間ハス其訴訟ノ時間夫ノ住所ヲ去リ夫ノ家産ニ准シタル養料ヲ得ント訴フルヲ得可シ○裁判所ヨリ婦ノ居住ス可キ家屋ヲ指示シ且夫其婦ニ養料ヲ給ス可キ時ハ其額ヲ定ム可シ〕

〔第二百六十九條 婦裁判所ヨリ指示シタル家屋ニ居住スル證ヲ立ツ可キ求メチ受ケシ時ハ其證ヲ立ツ可シ若シ其證ヲ立テサル時ハ夫其養料ヲ給ス可キヲ拒ミ且婦原告タル時ハ



其婦ヲシテ其訴ヲ繼續ス可カラサルノ言渡ヲ受ケシム可シ

第二百七十條 夫ト財産ヲ共通シタル婦ハ離婚ノ原告又ハ被告タルヲ問ハス第二百三十八條ニ記シタル言渡ノ日ヨリ後其訴訟ヲ爲ス間何レノ時ト雖モ自己ノ權利ヲ保護ス可キ爲メ共通ノ動産ニ封印ヲ爲スヲ訴フルヲ得可シ但シ其動産ノ評價ヲ爲シテ其目錄ヲ記シ且夫其預リ人タルニ因リ其目錄ニ記シタル動産ヲ婦ニ引渡シ又ハ其代金ヲ償フ可キノ證ヲ立ツルニ非サレハ其封印ヲ除去ス可カラス

第二百七十一條 第二百三十八條ニ記シタル言渡ノ日ヨリ後ニ夫婦共通ノ財産ヲ以テ償フ可キノ約定ニテ夫ノ負ヒタル義務又ハ其言渡ノ後ニ夫婦共通ノ不動産ヲ夫ノ人ニ贈與シ又ハ賣拂フ可キ契約ハ其婦ノ權ヲ害ス可キ爲メ爲シタルノ證アル時ハ之ヲ取消ス可キヲ言渡ス可シ

○第三款 定リシ理由ノ爲メノ離婚ノ訴ヲ他故ヲ述ヘ拒ム事

第二百七十二條 離婚ノ訴訟ヲ爲スノ權ハ其訴訟ヲ起サシメタル事故アリシ後又ハ離婚ノ訴訟ヲ既ニ爲シ始メタル後タリモ夫婦互ニ和解ヲ爲スニ因リ消散ス可シ

第二百七十三條 前條ノ場合ニ於テハ原告人其訴訟ヲ爲ス可カラサルノ言渡ヲ受ク可シ然モ和解ノ後更ニ離婚ヲ訴フ可キノ理由アル時ハ更ニ其訴訟ヲ爲スヲ得可ク且己レノ利益ノ爲メ以前ノ理由ヲ述フルヲ得可シ

第二百七十四條 其訴訟ノ原告人ヨリ和解ヲ爲シタルヲナキ旨ヲ述フル時ハ被告人此章ノ第一款ニ記シタル法式ニ循ヒ書面又ハ證人ヲ以テ和解ヲ爲シタルノ證ヲ立ツ可シ

○第三章 雙方ノ承諾ニテ爲ス離婚ノ事

第二百七十五條 夫ノ二十五歳以下ナル時及ヒ婦ノ二十一歳以下ナル時ハ雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ許サス

第二百七十六條 婚姻ヲ結ヒシヨリ二年ノ後ニ非サレハ雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ許サス

第二百七十七條 既ニ婚姻ヲ結ヒタルヨリ二十年ニ至リシ時又ハ婦既ニ四十五年以上ノ齡ニ至リシ時ハ雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ爲スヲ許サス

第二百七十八條 第五百十條(婚姻ノ卷)ニ定メシ規則ノ如ク父母又ハ現存ノ尊屬ノ親ノ許



可ヲ受クルニ非サレハ夫婦雙方ノ承諾ノミヲ以テ離婚ヲ爲ス可カラス

〔第二百七十九條 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ爲サント欲スル夫婦ハ先ツ雙方ノ動産及ヒ不動産ノ目録ヲ記シ且其評價ヲ爲シテ雙方ノ權利ヲ定ム可シ但シ其權利ヲ定メタル後ト雖モ雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ更改スルヲ自由ナリトス〕

〔第二百八十條 又左ノ三件ニ付テハ雙方ノ契約スル所ヲ證書ニ記ス可シ

- 第一 其婚姻ニ因テ生レシ子ハ訴訟ノ時間又ハ離婚ノ言渡ヲ受ケシ後何レノ方ニテ引受ク可キヤノ事
- 第二 訴訟ノ時間婦ハ何レノ家屋ニ至リテ居住ス可キヤノ事
- 第三 若シ婦其生計ヲ爲スニ十分ナル入額ヲ有セサル時ハ訴訟ノ時間夫ヨリ其婦ニ

幾許ノ金高ヲ給ス可キヤノ事

〔第二百八十一條 夫婦ハ相與ニ自カラ其住所ノ初告裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可

キ裁判官ノ面前ニ至リ其伴行シタル證書人二員ノ立會ニテ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述フ可シ

〔第二百八十二條 裁判官ハ證書人二員ノ立會ニテ其相當ト思量スル所ヲ夫婦雙方ニ諭示シ

其後又之ヲ其各人ニ諭示シ且離婚ノ效ニ付テノ此卷ノ第四章ヲ讀聞セ離婚ノ後如何ナル處置ニ至ル可キヤヲ言聞ス可シ

〔第二百八十三條 夫婦猶固執シテ離婚ヲ欲スル時ハ裁判官雙方承諾ノ上ニテ離婚ヲ訴ヘタル旨ヲ證書ニ記シ之ヲ其雙方ニ渡ス可シ但シ雙方ノ者ハ第二百七十九條及ヒ第二百八十一條ニ記シタル證書ノ外更ニ左ノ證書ヲ出シテ直チニ之ヲ證書人ニ附托ス可シ

- 第一 夫婦ノ出産ノ證書及ヒ婚姻ノ證書
- 第二 夫婦ノ間ニ生レシ子ノ出産ノ證書及ヒ死去ノ證書
- 第三 父母又ハ現存ノ尊屬ノ親其知ル所ノ原由ニ付キ某ト婚姻セタル己レノ男又ハ

女或ハ己レノ孫男又ハ孫女ノ離婚ヲ訴フルヲ許諾セシ旨ヲ記シタル公正ノ證書  
○但シ夫婦ノ父母祖父母ハ其死去ノ證書ヲ出ス迄之ヲ生存スル者ト看做ス可シ

〔第二百八十四條 證書人二員ハ前條ニ記シタル諸件ヲ詳細ニ調書ニ記シ其正本ト之ニ附加ス可キ證書類トシ其二員中ノ高年ノ者預リ置ク可シ但シ其調書ニハ婦其夫ト議定シタル家屋ニ二十四時間ニ移居シ且離婚ヲ言渡スニ至ル迄ハ其移居シタル場所ニ居住ス可キ旨



ヲモ亦附記ス可シ

〔第二百八十五條 雙方互ニ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述フルハ初メテ述ヘタル時ト同一ノ法式ヲ用ヒ其時ヨリ第四月第七月第十月ノ初メノ半月間ニ之ヲ爲シ每次雙方ヨリ其父母又ハ現在スル尊屬ノ親離婚ヲ許諾スルノ意ヲ變更セサルヲ以前ト齊シキ旨ヲ公正ノ書ヲ以テ證ス可シ其他ノ證書ハ再ヒ之ヲ出スニ及ハス〕

〔第二百八十六條 初メテ互ニ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述ヘタル日ヨリ滿一年ニ至リシ後十五日内ニ夫婦各其住所ノ郡中望族ニシテ五十歳以上ノ朋友二人ヲ伴行シ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判官ノ面前ニ相與ニ出席シ雙方離婚ノ承諾ヲ記シタル調書四通ト其書ニ附加ス可キ證書類トテ裁判官ニ渡シ且一方ノ者及ヒ四人ノ朋友ノ面前ニテ互ニ自カラ其裁判官ニ離婚ノ允許ヲ求ム可シ〕

〔第二百八十七條 裁判官及ヒ四人ノ立會人ヨリ夫婦ヲ諭示シタル後雙方猶固執シ離婚ヲ要スル時ハ其離婚ヲ求ムルヲ及ヒ證書類ヲ渡シタル事ヲ記シタル證書ヲ裁判官ヨリ夫婦ニ渡ス可シ且裁判所ノ書記役ハ其旨ヲ調書ニ記シテ夫婦及ヒ其伴行シタル立會人四員及ヒ

裁判官書記役皆之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ夫婦其姓名ヲ手署スルヲ知ラス又ハ手署スル能ハサルヲ述フル時ハ其旨ヲモ亦附記ス可シ

〔第二百八十八條 裁判官ハ三日内ニ裁判所ニ申立ヲ爲シ裁判官會議ノ室ニ於テ檢察官ノ書面ヲ以テ述タル說ヲ聽キタル上離婚ノ事ヲ裁判ス可キ旨ノ言渡ヲ調書ノ紙尾ニ記ス可シ但シ此事ノ爲メ裁判所ノ書記役ヨリ其證書類ヲ檢察官ニ送達シ置ク可シ〕

〔第二百八十九條 檢察官ハ證書中ニ雙方初メテ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述ヘタル時夫ハ二十五歳以上ノ齡婦ハ二十一歳以上ノ齡タルノ證ヲ檢知シ又婚姻ヲ結ヒタルヨリ二年ニ至リシ事及ヒ婚姻ヲ結ヒシ時ヨリ二十年以上ニ至ラサル事又婦ノ四十五歳以下ノ齡ナルヲ檢知シ又此章ニ記スル所ノ規則法式ニ循ヒ就中父母又ハ父母ノ死去セシ時ハ其他現存スル尊屬ノ親ノ許諾ニ因リ一年間ニ四次雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ求メ旨ヲ述タル事ヲ檢知シタル時ハ法律ニ於テ允許スト記シ然ラサレハ法律ニ於テ允許セスト記ス可シ〕

〔第二百九十條 裁判所ニ於テハ掛リ裁判官ノ申立ヲ聽キタル上前條ニ記スル所ノ外更ニ他ノ事ヲ吟味スルニ及ハス○裁判所ノ意ニテ雙方共ニ法律上ニ定メタル法式ヲ行ヒタリト



思察スル時ハ離婚ヲ允許シ且雙方共ニ身上證書ノ官吏ノ面前ニ至リ其官吏ヨリ離婚ノ言渡ヲ受クルヲ許ス可シ然ラサル時ハ裁判所ヨリ離婚ヲ允許セサル旨ヲ言渡シ且其裁判ノ趣意ヲ言聞ス可シ

〔第二百九十一條 初告裁判所ノ離婚ヲ允許セサル言渡ヲ控訴セントスルニハ其裁判所ニ於テ言渡ヲ爲シタル日ヨリ早クトモ十日後遅クモ二十日迄ニ雙方ヨリ各一通ノ控訴狀ヲ出ス可シ〕

〔第二百九十二條 控訴狀ノ寫ハ雙方ヨリ初告裁判所ノ檢察官ニ送達シ且雙方ノ者互ニ相送達ス可シ〕

〔第二百九十三條 初告裁判所ノ檢察官ハ再次ノ控訴狀ノ寫ノ送達ヲ得タル日ヨリ十日内ニ初告裁判所ノ言渡書ノ副本及ヒ其言渡ヲ爲スニ用ヒタル證書類ヲ控訴院ノ檢事長ニ送達ス可シ○檢事長ハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書面ヲ以テ其説ヲ述ヘ控訴院ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判官ヨリ控訴院ノ裁判官會議ノ室ニ中立ヲ爲シテ控訴院ニ於テハ檢事長ノ説ヲ記シタル書ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ確定ノ裁判ヲ言渡ス可シ〕

〔第二百九十四條 離婚ヲ允許スル控訴院ノ言渡ヨリ二十日内ニ雙方ノ者相與ニ自カラ身上證書ノ官吏ノ面前ニ至リ離婚ノ言渡ヲ受ク可シ若シ此定期ヲ過ル時ハ其離婚言渡ノ効ナカル可シ〕

○第四章 離婚ノ効

〔第二百九十五條 何レノ原由タルヲ問ハス離婚シタル夫婦ハ互ニ復タ婚姻ヲ爲ス可カラス

〔第二百九十六條 定リタル原由ニ因リ離婚ノ言渡アル時ハ離婚ヲ受ケタル婦其言渡ヲ受ケシ時ヨリ十月ノ後ニ非サレハ再婚ス可カラス〕

〔第二百九十七條 雙方ノ承諾ニ因リ離婚シタル時ハ雙方共ニ其言渡ヲ受ケシ時ヨリ三年ノ後ニ非サレハ再婚ス可カラス〕

第二百九十八條 姦通ヲ爲シタルニ付キ裁判所ヨリ離婚ヲ言渡シタル時ハ姦通ヲ爲シタル夫又ハ婦其姦婦姦夫ト婚姻ヲ爲ス可カラス且姦通ヲ爲シタル婦ハ檢察官ノ申立ニ因リ離婚ノ言渡ト共ニ三月ヨリ少ナカラズ二年ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁錮スルノ言渡ヲ受ク可シ



第二百九十九條 雙方ノ承諾ヲ以テ離婚セシ時ノ外ハ離婚ノ原由ノ如何ナルヲ問ハズ離婚ヲ受ケシ被告ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ契約ニ因リ原告タル配偶者ヨリ嘗テ得タル利益ヲ失ヒ又ハ婚姻ヲ取結タル後得タル利益ヲ失フ可シ

第三百條 離婚ヲ爲シタル原告ノ夫又ハ婦ハ被告ノ婦又ハ夫ヨリ嘗テ與ヘタル利益ヲ保有ス可シ但シ其利益ハ相方相互ニ之ヲ與フ可キノ契約アリテ原告ハ未ダ之ヲ與ヘサル時ト雖モ被告ヨリハ之ヲ與ヘサル可カラズ

第三百一條 夫婦互ニ利益ヲ與ヘタルコトナキ時又ハ利益ヲ與フルノ契約アリト雖モ其利益ノミニテハ離婚ヲ爲シタル原告ノ婦又ハ婦ノ生計ヲ爲スニ十分ナラサル時ハ裁判所ヨリ被告ノ婦又ハ夫ノ財産中ニテ原告ノ夫又ハ婦ニ養料ヲ給ス可キコト言渡ス可シ但シ其養料ハ被告人ノ入額ノ三分一ニ過ク可カラズ、○其養料ハ給與スルニ及ハサルニ至リシ時ハ之ヲ廢ス可シ

第三百二條 子ハ離婚ヲ爲シタル原告ノ夫又ハ婦ニ委託ス可シ但シ裁判所ニ於テ親族又ハ檢察官ノ申立ニ因リ其子ノ利益ノ爲メ皆之ヲ被告ノ夫又ハ婦又ハ他人ニ委託シ或ハ其中ノ幾人ヲ此等ノ者ニ委託ス可キ旨ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第三百三條 何レノ人ニ子ヲ委託シタルヲ問ハズ父母ハ各其子ノ教育ヲ管督スルノ權ヲ保チ且其家財ニ准シテ其教育ノ資助ヲ爲ス可シ

第三百四條 裁判所ヨリ離婚ヲ允許セシニ因リ婚姻ヲ解キタリト雖モ其婚姻ニ因テ生レシ子ハ法律上ニテ得可キ權利又ハ父母ノ婚姻ノ契約ニ因リ得可キ權利ヲ失フコトナカル可シ但シ其子權利ヲ得ントスルニハ父母ノ離婚ヲ爲サル時ト同一ノ方法ニ循ヒ且同一ノ景狀アルコトヲ必要トス

第三百五條 夫婦雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ爲シタル時ハ其雙方ノ財産ノ半ヲ所有スルノ權ヲ初メテ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述ヘタル日ヨリ其婚姻ニ因テ生レシ子ニ移ス可シ然レモ其子ノ丁年ニ至ラサル間ハ其子ニ屬ス可キ財産ノ入額ヲ父母ノ所得ト爲シ父母ハ其分限及ヒ家財ニ准シテ其子ヲ教育スルコトヲ任ス可シ

但シ此規則ト父母ノ婚姻ノ契約ニ因リ其子ニ屬ス可キ他ノ利益ト相觸ル、コトナカル可シ  
○第五章 夫婦居テ分ツ事



法律上何等ノ効ヲモ生セサル夫婦隨意ノ分居ハ固ヨリ法律ノ問フ所ニ非ス此章ニ掲  
ル所ハ審判上夫婦ノ財産ヲ分ツコトニシテ敢テ婚姻ヲ解クコト非ス、唯相共ニ居住スルノ  
義務ヲ除キ、各々住所ヲ別ニシテ財產ヲモ分ツノミノコトナリ、然ルニ夫婦別居スレハ  
互ニ思慮ヲ煩ハシ費用ヲ相要スルモノナレハ、雙方熟慮シタル後到底止ムヲ得サル場  
合ニアラサレハ敢テ求ムヘカラサルコト肝要ナリ、

第三百六條 定リシ原由ノ爲メ離婚ヲ訴フ可キ道理アル時ハ夫又ハ婦離婚ノ訴ヲ爲サスシ  
テ其居ヲ分ツ可キノ訴ヲ爲スコトヲ得可シ(民二二九ヨリ二三三、一〇七、三〇八、)

離婚ハ千八百十六年五月八日ノ法律ヲ以テ廢シタリト雖モ、第二百二十九條ヨリ第二  
百三十二條ニ至ル迄之ヲ刪去セサル所以ハ、其離婚ノ訴ヲ爲シ得可キ定リシ原由ハ夫  
婦分居ノ訴ヲ爲スノ原由ヲ爲ス可ケレハナリ、而シテ其原由四個アリ、第一婦ノ姦通、  
(第二百二十九條)何レノ場合タルチ問ハス婦姦通ヲ爲シタルキハ、夫其姦通ニ因リ受  
胎シタル子ヲ己レノ公生ノ子トシテ養育スルノ恐アルニ因リ、夫婦分居ノ訴ヲ爲スチ  
聽ルス、第二娼婦チ家内ニ蓄ヘシ所ノ夫ノ姦通、(第二百三十條)道德上ニ於テハ夫ノ姦

通モ婦ノ姦通ト等シク罪スヘキモノナリト雖モ、婦ニ於テハ他人ノ生ミシ子ヲ己レノ  
子トシテ養育スベキノ恐レナシ、故ニ其夫姦通シタルノ上夫婦共住ノ家ニ其娼婦チ蓄  
ヘ、婦チ侮辱シタル場合ニ非サレハ分居ヲ訴フルコトヲ得セシメス、夫婦共住ノ家トハ唯  
夫婦ノ住所ノミニアラス、別荘若クハ寄寓ノ旅館タリモ夫婦ノ居所トナルベキ家チ云  
フ、又傳婢若クハ下婢ハ、其職務上婦ニ從屬スル所ノ者ナレハ娼婦ノ稱呼中ニハ入ラズ  
然レモ夫婦傳婢若クハ下婢ト相姦スルニ因リ、婦ヨリ其婢チ放チ遣フコトヲ求ムルニ、夫  
肯セサル時ハ分居ノ訴ヲ爲スチ得、或ハ夫婦共住ノ外ニ娼婦チ蓄ヘ置キ姦通スルカ爲  
ニ、重大ニシテ且公ケナル凌辱チ受ケタル時モ亦分居ノ訴ヲ爲スチ得ヘシ、第三夫婦中  
ノ一方ノ者他ノ一方ノ者ニ向テ過慾、苛虐若クハ重大ナル凌辱チ加ヘタルコト、(第二百  
三十一條)過慾トハ、夫婦中一方ノ者度ナキノ淫慾ヲ縱ニシテ、他ノ一方ノ者ノ生命チ  
危スルコトナリ、苛虐トハ、數回無狀ノ所行ヲ爲シ、其甚ダシキ生命チ危クスルコトナシト  
雖モ、到底相互ニ生活スルニ堪ヘザルニ至ルコトナリ、重大ナル凌辱トハ、一方ノ者ノ尊  
敬及ヒ名譽チ大ニ害スル所ノ言行ヲ爲スコトナリ、夫其婦ト共住スルチ肯セサルコト、婦其



夫ノ住所ヨリ逃亡スルコト、及夫婦中一方ノ者其婚姻ニ付宗教上ノ儀式ヲ受クルコト肯セサルコト等ハ、重大ナル凌辱ト看做スベシ、(千八百五十九年一月二十九日アンゼル及千八百六十五年ノッ上等審院ノ裁決)然レモ申述ヘ且證據立ル所ノ事實、即チ過愆苛虐及ヒ重大ナル凌辱ノ場合トナルベキモノナルヤ否ハ、全ク審司ノ專斷シ得ル所コト其專斷ハ決シテ大審院ノ驗査ヲ受クベキニアラサルコトハ、千八百六十一年一月十四日大審院ノ裁決ニ因テ明ナリ、曰ク今上告シタル上等審院ノ裁決ヲ審査スルコト、(ホント一ヌ)人名(其婦)對シ過愆苛虐及重大ナル凌辱ヲ加ヘタル事實ハ、證人吟味及證書類ニ據リ明白ナリ、故ニ其裁判ノ根據スル所ヲ以テ法律上ニ於テ至當トス、何トナレハ過愆苛虐若クハ重大ナル凌辱ハ、何レノ場合ニ成立ツヤ否ヤヲ解シタル明文法律中ニ無キカ故ニ、其成立ツベキ場合ハ全ク審司ノ監定ニアリト、第四夫婦中一方ノ者加辱ノ刑ニ處セラレシ、事(第二百三十二條)夫婦中一方ノ者加辱ノ刑ニ處セラレ其申渡婚姻中ニアリテ終審ノモノトナリシ時ハ、他ノ一方ノ者分居ノ訴ヲ爲シ得、然レモ若シ其刑ノ申渡結婚ノ前ニ係ル時ハ、一方ノ者其事ヲ未ダ嘗テ知ラサリシト雖モ、之ヲ以テ分居ノ

訴ヲナスノ原由ト爲スヲ得ベカラス、但シ重罪ノ犯人憫諒スベキ情狀アリテ、刑ノ減等ヲ受ケ懲治ノ刑ノ申渡ヲ受ケタル時ハ、加辱ノ刑ヲ受ケタルモノトナサス、加辱ノ刑ノ申渡ハ、刑ノ遷改及特赦アリト雖モ其原質ヲ變スル能ハス、

第三百七條 夫婦ノ居ヲ分タントスル訴ハ民法上ニ管シタル他ノ訴訟ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲シ且之ヲ吟味シテ其裁判ヲ爲ス可シ但シ其居ヲ分ツ事ハ夫婦雙方ノ承諾ノミヲ以テ爲ス可カラス(民二一五ヨリ二二六、二三六ヨリ二四〇、二五一、二六一、二六七、二七四、二九九、三〇〇、三〇二、三〇三、三一、三七三、九五三、九五五、九五九、一〇九六、一四四五、一四四七、一四五、一五一八、訴四八、八三、八六六ヨリ八六九、八七〇、八七五ヨリ八八〇、商六五)

夫婦相互ノ承諾ハ離婚ノ爲メ不定ノ原由ノ一タリ(第二百三十三條)ト雖モ、一般ノ道徳、婚姻ノ契約ノ堅固ナルコト、及債主ノ利益ノ爲テ計リ、之ヲ以テ夫婦分居ヲ訴フベキ原由ノ數ニ加ヘス、本條ノ文意ニ依テ見ルルハ、夫婦分居ノ訴ハ更ニ別段ノ規則ナク、尋常民法訴訟ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲シ、且吟味スベキヲ要スルコト似タリト雖モ、訴



訟法中此訴訟ノ爲メ別段ノ條規アルヲ見レハ、此訴ノ原質ハ全ク尋常民事ノ訴訟ト同一ニハ看做スベカラサルナリ、本條ハ前章離婚ノ訴ノ爲メ特ニ設ケタル精細ノ方法ニ依ラサルコト示サント欲セシノミ、抑夫婦分居ノ訴ハ尋常民事ノ訴訟法ト相異ナル點左ノ如シ、

第一、夫婦分居ヲ訴フルノ原告者ハ、己レノ述フル原由ヲ簡易ニ記シタル願書且證據トスル所ノ書類ヲモ之ニ添附シ、己レノ住所ノ民事裁判所ノ上席人ニ出スヲ要ス、裁判所ノ上席人ハ願書ヲ檢視シタル上、豫定ノ日夫婦己レノ面前ニ出席スベキ旨ノ言渡書ヲ以テ之ニ答へ、而シテ本日上席人ハ代書代人ヲ伴行スルコトナク出席スル所ノ夫婦ヲシテ和解ヲ爲サシムルカ爲メ、自ラ相當ト思料スル説諭ヲ加へ、若シ和解ヲ爲サシムルコト得サル時ハ、雙方ノ者ヲ民事裁判所ニ出席スベキ旨ヲ更ニ申渡シ、且訴訟中婦ノ轉居スヘキ家宅ヲ定メ、夫ヨリ婦ノ日用ニ供スベキ品件ヲ渡スベキ事ヲ申渡スヘシ、(訴訟法第八百七十六條ヨリ第八百七十八條)

第二、夫婦分居ノ訴ノ告白ヲ受ケタル裁判所ハ、時宜ニ因リ訴訟中夫ヨリ其婦ニ給ス可

キ養料ヲ定メ、或ハ尋常多クハ夫ノ管督ニ任セ置ク所ノ子モ、其母ニ引渡スベキコトヲ申渡シ得、

第三夫婦ノ分居ハ固ヨリ雙方相互ノ承諾ノミヲ以テ爲スベカラサルニ因リ、願書中ニ記スル所ノ事跡ハ、決シテ雙方ノ自狀若クハ誓言ヲ以テ證據ト爲スベカラス、然レモ尊屬及卑屬ノ親ヲ除クノ外、其他親族及婢僕ノ證人タルコトニ付故障ヲ述フベカラス、

訴訟中夫婦和解ヲ爲ス時ハ分居ノ訴ヲ消散ス(第二百七十二條ヨリ第二百七十四條迄)凡檢事ハ世治ニ管シタル諸件ノ如ク、夫婦分居ノ訴コト付テハ必ス其意見ヲ陳述スベシ、

第三百八條 婦姦通ヲ爲シタルコト付キ夫ト居テ分ツ可キ言渡ヲ受ケシ時ハ檢察官ノ申立ニ因リ其言渡ト共ニ三月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁錮スルノ言渡ヲ受ク可シ(民三〇九、三一、刑三三六、)

姦通ヲ爲シタル婦ハ、三ヶ月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケ、姦夫ハ同一ノ刑ト百「フランク」ヨリ二千「フランク」迄ノ罰金ノ言渡ヲ受ク、但シ損失ノ償ヲ出サシムベキノ言渡ニ相觸ル、コトナシ、(刑法三百三十八條)然レモ此罪



犯ハ一般ノ規則外ニアリテ、夫ノ訴ヘアルニアラサレハ檢察官ニ於テ告訴鞫問スルヲ  
ヲ得ス、(刑法第三百三十六條)蓋シ夫ハ其家族ノ爲メ、其婦ノ醜行ヲ秘隱スルヲ付屢  
々重大ナル道理ヲ有シ得ルヲアレハナリ婦姦通ノ爲メニ懲治刑ノ言渡ヲ受ケタル時  
ハ、夫其婦ト居ヲ分ツベキ民事上ノ訴ヲ爲スノ原由トナシ得ベキハ勿論ナリト雖モ、夫  
ハ姦通ノ婦ニ對シ刑事ノ訴ヲ爲スヲナク、直ニ民事上分居ノ訴ヲ爲シ得、然ル時審司ハ  
姦通ノ爲メ夫婦分居ノ言渡ヲ爲シ、同時ニ尋常ノ權限外ニ涉リ、婦ニ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ  
爲スベシ、夫婦共住ノ家ニ娼婦ヲ蓄ヘシ所ノ夫ハ、其婦ノ訴ヲ以テ刑法上ノ鞫問ヲ受ケ、  
百「フランク」ヨリ二千「フランク」迄ノ罰金ノ言渡ヲ受ケ得ベシト雖モ、其蓄ヘラレシ  
所ノ娼婦ハ、姦通ノ刑ヲ受クルヲナシ、

第三百九條 夫其婦ヲ再ヒ引取ル可キ承諾ヲ爲スニ於テハ前條ニ記シタル刑ノ言渡ノ効ヲ  
取消ス可シ(刑三三七、)

夫其婦ヲ引戻サントスル時ハ、其時ヨリ婦ノ受ケタル刑ヲ恩赦スルノ特權ヲ與フル特  
別ナル本條ノ規格ハ、刑法第三百三十七條ニ揭示シタリ、然レモ其婦若シ己レノ爲メ及

夫ノ爲メ、既ニ有スル所ノ權利ノ如クナリシ、分居ノヲ中止スルヲ欲セザル場合ニ於  
テハ、夫ノ恩赦ヲ擯斥スルヲ得可シ、

第三百十條 婦ノ姦通ヲ除クノ外凡ソ他ノ原由ニ付キ言渡シタル夫婦ノ分居三ケ年間引續  
キタル時ハ當初被告タリシ夫又ハ婦裁判所ニ離婚ヲ訴ヘ得可シ其時裁判所ハ原告人ヲ呼  
出シタル上原告人直チニ分居ヲ止ムルヲ承諾セサルニ於テハ離婚ヲ許ス可シ

婦ノ姦通ヲ除クノ外、凡ソ他ノ原由ニ付言渡シタル夫婦ノ分居、三ケ年引續キタル時ハ、  
當初被告タリシ夫、又ハ婦、裁判所ニ離婚ノ訴ヲ爲スヲ得可シ、其時裁判所ハ原告人ヲ  
呼出シタル上、原告人直チニ分居ヲ止ムルヲ承諾セサルニ於テハ離婚ヲ許ス可シ、  
離婚ヲ廢シテヨリ以後本條ハ適施スル所ナシ、

第三百十一條 夫婦ノ居ヲ分ツ時ハ必ス亦其財產ヲ分ツ可シ(民一四四五、一四四七、一四  
五一、一五一八、訴八七二、八八〇、商六六、)

分居ハ夫婦相分別シテ住居スベキノ權利ヲ與ヘ、婦ハ其財產ノ管理ヲ再有シ、且其入額  
ヲ所得トナスト雖モ、不動産ノ讓渡シ、若シハ之ヲ書入質ト爲スカ如キ管理ノ分限ヲ越



エタル處置ヲ爲スニ付テハ、夫若クハ裁判所ノ許可ヲ得サル可カラズ、幼年ノ子ハ裁判所ニ於テ分居ヲ訴フルノ原告ノ夫、若クハ婦ニ多クハ管護セシムト雖モ、被告ノ夫若クハ婦ハ、其資力ニ應シ其子ノ養育ノ費用ヲ出スヘシ、夫婦ノ分居ハ婚姻ヲ解クコトナク、唯夫婦ノ交情ヲ薄ウスルノミノモノナレハ、相互ニ眞實ニシテ養料ヲ給スベキノ義務ハ絶エス保存シ、且夫ハ分居以後受胎シタル子ノ父ト思度セラレ、然レモ第三百十三條ニ據リ夫婦分居ノ訴ヲ爲スノ初メ、民事裁判所ノ上席人ヨリ婦ハ別宅ニ轉住スベキコトヲ言渡シタル日ヨリ十月ノ後ニ生レタル時ハ、己レノ子ニ非サルコトヲ述フルノ權アリ、分居ヲ言渡サレタル夫若クハ婦ハ、他ノ一方ノ者ヨリ後ニ生存スルモハ、一、アレシビユツト、夫婦中後ニ生存スル者其財産分派ノ前ニ財産若クハ金高ヲ豫メ己レニ引取ル可キコトノ權利ヲ失ヒ、(第一千五百十八條)且婚姻ノ契約、若クハ結婚ノ後一方ノ者ノ與ヘタル所ノ利益ヲ失フナリ、然ルニ分居ヲ訴ヘ其言渡シテ得タル者ハ己レノ受クヘキ利益ハ總テ之ヲ保有スヘキコトハ、第二百九十九條及ヒ確定シタル裁判事例ニ因テ明カナリ、若シ雙方相互ノ惡事ノ爲メ分居ノ言渡シアリシ時ハ、各其一方ノ者ヨリ受ケタル贈遺

ヲ失フ、然レモ分居ヲ得タル夫若クハ婦ニ、其夫若クハ婦ヨリ給スヘキ養料ハ、之ヲ給スベキ一方ノ者前ニ死去セリモ、其相続人ヨリ引續キ給セサルベカラサルコトハ、第十二條ニ引說シタル大審院ノ裁決ニ因テ明カナリ、夫婦再ヒ同一ノ居所ニ復住スル時ハ身體ノ分居ハ止ムト雖モ、第一千四百五十一條ニ掲タル法式ヲ行ハサル内ハ、財産ノ分別ハ猶ホ其效ヲ存ス、



○第七卷父母タル事及ヒ子タル事(千八百三年三月二十三日決定四月二日下達)

佛語ニテ「パテルニテ(父母タル事)及ヒ「ヒリアーシヨ」(子タル事)ト云フ詞ハ、親族ノ關係中ノ相反對シタル二箇ノ名稱ナリ、父母タルトハ人ノ父母タルノ分限ナリ、子タル事トハ人ノ子女タルノ分限ナリ、父母タル事ニ三種ノ別アリ、子タルトモ亦三種ノ別アリ、即チ公生ノ子ノ父母タル事、私生ノ子ノ父母タル事及ヒ養子ノ父母タル事、此卷ハ公生ノ子ノ父母タル事、及ヒ私生ノ子ノ父母タル事ヲ掲ケ、養子ノ父母タル事ハ次卷ニ掲ケ、此卷ヲ分テ三章トナシ、第一章ニ公生ノ子タル事ヲ掲ケ、第二章ニ公生ノ子タル事ノ證據ヲ掲ケ、第三章ニ私生ノ子タル事ヲ掲ケ、

○第一章 公生ノ子即チ婚姻中ニ生レシ子タル事

公生ノ子トハ、假令夫ノ死去シタル後ニ生レタリトモ、夫婦結縁間即チ婚姻中受胎シタル所ノ子ナリ、婚姻中生レシ子タリトモ、婚姻ヲ行フ前ニ受胎シタル者ハ公生ノ子ニアラス、然レモ夫我子ニ非スト申述サルニ於テハ之ヲ公生ノ子ト看做ス、

第三百十二條 婚姻中ニ受胎セシ子ハ其母ノ夫ヲ以テ父トス

然レモ其子ノ生レシ前三百日ヨリ百八十日ニ至ル迄ノ時間夫其家ニ在ラス又ハ事故アリテ其婦ト同室スルヲ得サルノ證アル時ハ夫其子ヲ以テ我子ニ非スト爲スヲ得可シ(民三一三ヨリ三一六、三二五、七二五、九〇六、)

母ノ母タル事ハ、其懐胎及出産ノ如キ顯然タル事實ヲ以テ確證スヘシ、故ニ羅馬律ニ於テモ母ハ常ニ儘カナリ(マテル、サン、ベルセルタ、エスト)ト云シナリ、之ニ反シテ父ノ父タル事ハ顯然確證スヘキヲナシ、因テ只其婚姻中受胎シタル子ノ父ハ母ノ夫也(パテル、イス、エスト、ケム、ニコアナチ、デモンストラント)ト思度スルノミ、此思度ハ夫婦同居ノ事實ト、夫婦相互ニ眞實ナル可キ嚴格ナル明約トニ根據シ、以テ親族ノ公正ナル關係ノ因テ起ル基本トス、故ニ此思度ハ左ノ三件ノ具備スルヲ必要トス、第一婚姻ノ成立、第二婚姻中受胎シタル子、第三子ノ父ニ肖タル子、然ルモ婚姻中ニ受胎シタル子ヤ否ヤハ如何シテ之ヲ證スル乎ト云フニ、正實ナル醫師ノ驗査ニ因ルニ、妊娠ノ期限ハ短クモ百八十日ヨリ少ナカラス、長クモ三百日ヨリ多カラサルモノトス、故ニ受胎ハ必ス最短期限ト、最長ノ期限トノ間ノ百二十日中ニアルベシ、之ニ因テ立法者醫師ノ驗査ト



子ノ資益及ヒ母ノ譽榮トキ參考シ、以テ婚姻ヲ行ヒシ後百八十日ノ餘ヲ過キテ生レタル、子及夫ノ死去シテ後三百日以内ニ生レタル子ハ、婚姻中ニ受胎シタル者ト看做シ、以テ公生ノ子トス、

婚姻中ニ受胎シタル子ノ父ハ母ノ夫ナリト思度スルコトハ、甚ク重大ナル力アリ、故ニ夫ニ於テ我子ニ非スト爲シ得ベキ原由トナル三箇ノ場合ニアラサレハ、之ヲ我子ニ非ストナスベカラス、本條コトハ此三箇ノ場合ノ一箇ノミヲ示ス、即チ妊娠ノ最長ノ期限ヨリ最短ノ期限ニ至ル迄、即チ子ノ出產ノ前第三百日ヨリ第百八十日ニ至ル迄ノ間、夫婦同室スルヲ得サリシ事故アリシ場合ナリ、事故トハ夫婦中一方ノ者禁錮ヲ受ケ、若クハ夫不慮ノ災害ヲ受ケタルコト因リ、同室スルヲ得サリシ等ヲ云フ、此等ノ事實ノ信偽輕重ヲ鑑定スルハ全ク審司ノ專斷ニ任ス、

第三百十三條 夫ハ己レノ身體ノ虛弱ナルヲ述ヘテ其子ヲ我子ニ非スト爲ス可カラス又婦ノ姦通ノ原由ト爲シ其子ヲ我子ニ非スト爲ス可カラス但シ婦其子ノ出產ヲ夫ニ掩蔽セシ時ハ夫其子ノ父ニ非サルヲ證ス可キ諸件ヲ述フルヲ得可シ

(千八百五十年十二月六日左ノ如ク追加ス) 夫婦ノ居テ分ツ可キ事ヲ裁判所ヨリ言渡シタル時又ハ其言渡ヲ得ント訴ヘ未ダ之ヲ得サル時ト雖モ訴訟法第八百七十八條ニ記スル所ニ循ヒ裁判所上席人ノ言渡ヲ爲タル時ヨリ三百日ノ後ニ生レシ子又ハ裁判所ニテ其訴ヲ允許セサルコトノ確定シタル後或ハ夫婦ノ和解ヲ爲シタル後百八十日ニ至ラサル時間ニ生レシ子ハ夫我子ニ非スト爲スコト得可シ然モ其事實ニ於テ夫婦既ニ和解シタル時ハ夫其子ヲ以テ我子ニ非ストスルノ訴ヲ爲スコト許サス(刑三三六、民三〇六、三〇七、)

夫ハ己レノ身體ノ虛弱ナルヲ以テ、婚姻中ニ受胎シタル子ヲ我子ニ非スト述フヘカラス蓋シ身體虛弱ノ確證ハ之ヲ得ルコト甚難ク、強テ之ヲ得ントセハ、必ス醜惡ナル論辨ヲ提起スヘケレハナリ、又結婚ノ前受ケシ不慮ノ災害ニ因リ同室スルヲ得サリシコトヲ口實トシテ、我子ニ非スト爲スヲ得ス、何トナレハ其夫同室スルヲ得サル事故ヲ知リナガラ婦ヲ娶リシハ、其婦ニ對シテ詐偽ヲ行ヒタルコトナレハ、其中述ヲ採用セザルナリ、本條ハ婚姻中ニ受胎シタル子ヲ、夫ニ於テ我子ニ非スト爲ス第二及ヒ第三ノ原由ヲ示ス、第二ノ原由ハ、婦姦通ヲ爲シ、且子ノ出產セシコト其夫ニ掩蔽セシコト因テ生ス、但シ



婦姦通ノ一事ヲ以テ我子ニ非スト爲スニ足ラス、何トナレハ假令婦姦通ヲ爲シタリ也、夫其婦ト斷ニス同室シタル時ハ、其子ハ夫ノ胤ナルコトアリ得レハナリ、又婦其子ノ出產ヲ掩蔽セシコノミヲ以テ我子ニ非スト爲スニ足ラス、何トナレハ之ヲ以テ其子ハ果シテ姦通ヨリ生ゼシコノ證據ト爲シ得ザレハナリ、之ニ因テ夫ハ其婦ノ姦通ト婦ニ於テ、其子ノ出產ヲ掩蔽セシコトノ兩事共ニ存スルニ非ザレハ、我子ニ非スト爲スヲ得ス、但シ此兩事ノ證據ハ夫婦別居シテ互ニ不和ナル景狀アリシコト、婦ノ顯ハニ醜行ヲ爲セシコト、殊ニ受胎ノ時期ニ姦通ヲ爲セシコトノ如キ、夫其子ノ父ニ非ラサルコトヲ確證スルニ足ルヘキ事跡ヲ示スニ非ラサレハ、其申述ハ通ラサルヘシ、第三ノ原由ハ千八百五十年十二月六日ノ法律ヲ以テ之ヲ追加シタリ、即チ夫婦分居ノ訴訟中若クハ夫婦ノ分居ノ言渡アリシ後受胎シタル時ノコトナリ、抑夫婦ノ分居ハ婚姻ヲ解クコトナク、母ノ夫即チ父タルコトノ思度ヲ保存スヘシト雖也、夫ニ於テ分居ノ間ニ受胎シタル子ハ、我子ニ非スト申述ル時ハ、此思度ヲ全ク消滅セシム、然レハ分居中猶ホ互ニ證人ヲ伴行セス相往來シ、婦夫ノ住所ニ到リシ時、夫之ヲ款接セシコトヲ證スルニ於テハ、夫ノ申述ヲ斥ケシメ得、

第三百十四條

婚姻ヲ結ヒシ日ヨリ百八十日ニ至ラサル時間ニ生レシ子ハ左ノ場合ニ於テ夫我子ニ非スト爲スコト得ス

第一 夫婚姻ヲ爲ス以前ニ婦ノ懐胎セシコトヲ知リタル時

第二 夫其子ノ出產ノ證書ヲ記スル立會ヲ爲シ且其出產ノ證書ニ姓名ヲ手署シ又ハ

姓名ヲ手署スルコトヲ知ラサル申述ヲ附記シタル時

第三 其子ノ生存シ能ハサル時(民五六、三一、三一一、三三一、七二五、九〇六、一

三五三)

結婚ノ日ヨリ百八十日以内ニ生レシニ因リ、婚姻中受胎シタル子ノ父ハ夫ナリ、トノ思度ヲ受ケザル所ノ子ト雖也、夫我子ニ非スト申述ヘザルニ於テハ、公生ノ子ト看做ス、然レハ原則ニ於テ夫ハ、之ヲ我子ニ非スト述ルヲ得、而シテ其申述ヲ立ントスルニハ、身上證書ノ抄録ヲ出シ、婚姻ヲ行ヒシ日ト子ノ出產ノ日トノ間ニ百八十日ノ猶豫アラザリシコトヲ證スルヲ以テ足レリトス、然ルニ此原則ハ三箇ノ場合ニ於テハ例外トス、第一夫結婚ノ前既ニ婦ノ妊娠ナルコトヲ知テ之ヲ娶リシ時ハ、後チ其子ヲ我子ニ非スト述フルヲ



得ス、蓋シ其婦ヲ娶リ其子ヲ公生ノ者ト爲シ、密通ニ因リ懐胎シタル婦ノ名譽ヲ保全セ  
 ント欲セシコナルヘシト思考スレハ也、結婚ノ前夫其婦ノ妊娠ナルコト知リシヤ否ヤ  
 ハ、其書翰言語及其婦ノ妊娠ナルコト當時既ニ顯然タリシ事實ヲ以テ證スベシ、第二其子  
 ノ出産ノ證書ニ夫ノ手署アルカ、若クハ手署スルコト知ラサル申述ヲ附記シタル時ハ、  
 之ヲ以テ其夫ハ其子ノ父ト看做シ、我子ニ非ストノ申述ヲ採用セス、然レモ出産ノ證書  
 ナ記成スル席ニ出會セシコトノミヲ以テ、夫ノ申述ハ立ザルモノト爲スニ足ラサルベシ、  
 第三結婚ノ日ヨリ百八十日以内ニ生レタル子ハ、化機未ダ十全ナラザルニ因リ生存セ  
 能ハスト醫師明言セシ時、實ニ成果ノ定期ニ前テ生レタル其子、結婚前ニ受胎シタルモ  
 ノナルヤ否ヤヲ確知スルコト多クハ至難ニシテ、且生存シ能ハザル子ハ民事上ニ於テモ  
 何レノ權利ヲモ有スルコトナキ (第七百二十五條見合セ)ニ因リ、夫ニ於テ之ヲ我子ニ  
 非スト申述フルノ利益更ニナク、只ニ其結婚ノ前其婦ノ犯シタル過ヲ擧テ其婦ヲ辱カ  
 シムルニ過キス、之レカ爲メ夫婦ノ分居ヲ訴フベキ原由トモ爲スヲ得ザルカ故ニ、其中  
 述ヲ採用セザルモノトス、

第三百十五條

婚姻ノ解ケシ時ヨリ三百日ノ後ニ生レシ子ハ之ヲ公生ニ非ストスルノ訴ヲ  
 爲スコト得可シ(民二二七、三一二、三一六、三一七、)

夫ノ死去シテヨリ三百日ノ後ニ生レタル子ハ、夫ノ血胤ニ非スト雖モ、其子果シテ公生  
 ノ者ニ非ラサル旨ヲ申立ル者ナキニ於テハ、公生ノ者タル庇蔭ヲ受ク、然レモ夫ノ親族  
 ハ何レノ時期ヲ論セス、其子ノ公生ニ非サルコトヲ申立テ得、其申立ハ身上證書ノ抄録ヲ  
 示シ、夫ノ死去セシ日ヨリ子ノ出産ノ日迄ノ間、三百日餘ヲ經過セシコトヲ證スルノ一事  
 ノミヲ以テ足レリトス、

夫死去ノ前受胎シ死去ノ後生レテ生存シ得ベキ子ハ、夫ノ遺物及遺囑ノ贈遺ヲ受クル  
 ノ權アリ、然レモ特ニ子ノ金錢上ノ利益ノ爲メ妊娠ノ時間ハ、必ス三百日ナリシコト爲  
 ザルベカラザルヤト云フニ然ラズ、金錢上ノ利益母ノ名譽ト子ノ公生ナルコトニ相觸  
 レザル時ハ、裁判所ハ醫師ノ監定ニ因リ、例ヘハ夫ノ死去シタル日ヨリ二百九十八日目  
 ニ生レタル子ハ、死去ノ時未ダ受胎セス、因テ相續人タラズト判決シ得ベシ、(本條ニ付  
 テハ論說頗ル多シ、一説ニ妊娠ノ最長ノ期限ヲ三百日ト定メシ上ハ、婚姻ノ解ケシヨリ



三百日ヲ過キテ生レシ子ハ、固ヨリ公生ニ非ス、然ルニ本條ニ公生ノ子ニ非ザルノ訴ヲ爲スヲ得ヘシト掲ケシハ、其子ヲ公生ニ非スト申立ル者ナクシテ、直ニ公生ノ子タルノ分限ヲ失ハシメンコトヲ恐テナリ、然ルチ若シ婚姻ノ解ケシ日ヨリ後三百日内外ニ生レタル子ノ公生ナルヤ否ヤハ、審司之ヲ判斷スルノ權アリトセハ、往古ノ如ク恣ニ妊娠ヲ伸縮シ、其期限ヲ定メシ法律ノ精神ニ背カンコトノ恐レアリト)

失踪公告ノ申渡ヲ以テ、最終ノ消息アリシ期日ト定メタル日ヨリ、三百日ノ後生レタル子ハ、夫婦分居若クハ夫ノ死去ノ後ニ於ケルカ如ク、失踪者ノ子ニ非スト述ベ得ヘキ手ノ間目アリテ論說多カリシカ、千八百六十一年十一月十八日「ドーエー」上等審院ノ裁決ニ於テ、失踪者ノ家出以前ニ取結ヒタル婚姻ハ、失踪者ノ死去シタルコトノ確報アル迄ハ保續ス、故ニ其内ニ受胎シタル子ハ、公生ノ者タルノ條理アリトノ大趣意ヲ以テ、失踪者ノ最終ノ消息アリシ日ヨリ三百日ノ後ニ生レタル子モ、敢テ失踪者ノ子ニ非スト述フベカラスト判決シタリ、(其文略之)

第三百十六條 夫其子ヲ我子ニ非ストニルノ訴ヲ爲シ得可キ場合ニ於テ夫其子ノ出產ノ地

ニ在ル時ハ出產ノ時ヨリ一月内ニ其訴ヲ爲ス可シ

若シ夫其子ノ出產シタル地ニ在ラザル時ハ歸來ノ時ヨリ二月間ニ其訴ヲ爲ス可シ

若シ婦其子ノ生レシコトヲ夫ニ掩蔽セシ時ハ夫其事ヲ知リタル時ヨリ二月間ニ其訴ヲ爲ス可シ(民三二二、三一三、三一七、三一八)

子ノ身上ハ久シク不定ニ差置クコトヲ得ス、故ニ夫我子ニ非スト爲スノ訴ハ、必ス本條ニ掲ケタル期限内ニ爲サシメ、若シ此期限ヲ過クル時ハ其訴ヲ聽サス、出產ヲ隱蔽シタル所ノ子ヲ、夫ノ名ヲ以テ身上證書ニ登記セスシテ、僞名若クハ父母共ニ知レサル子トシテ記載シタル時ハ、夫其詐僞ヲ發見シタルヨリ二ヶ月内ニ、其訴ヲ爲ササルベカラズヤノ間目アリ、大審院ハ是迄數回ノ裁決、就中千八百五十四年二月十四日ノ言渡ヲ以テ、本條ノ規則ハ右ノ間目ノ場合ニ適施スベカラズ、何トナレハ其子ハ公生ノ子タルノ景狀ヲ有セサレハナリ、故ニ夫ハ詐僞ノ訴ヲナスベカラズ、若シ他日其子ニ於テ其出產ノ證書ニ因ラズシテ、公生ノ子タルノ分限ヲ求ムルノ訴ヲ爲スコトアル時ハ、各種ノ方便ヲ以テ此求メテ斥ケ得ベシ、(第三百二十五條見合セ)然レモ若シ後日ニ至ラハ、自己若ク



ハ己レノ相續人ニ於テ、右ノ求メテ斥クル爲メノ方便ヲ失フノ恐レアリトスルモハ、何時コテモ隨意ニ訴テ起シ、後日其子ヨリ公生ノ子タル分限ヲ求ムルノ訴ヲ爲シ得サラシメ得ベシト判決シタリ、(此判決ニ付巴里上等審院ノ言渡アレヒ略之)

第三百十七條 若シ夫其子ヲ我子ニ非スト爲スコトヲ訴ヘ得キ定期内ニ其訴ヲ爲サスシテ死去セシ時ハ其子其死者ノ財産ヲ所有ト爲シタル時又ハ遺物相續人等其死者ノ財産ヲ所有スルコト付キ其子ノ爲メニ故障ヲ受ケシ時ヨリ二月内ニ其遺物相續人等其子ノ公生ニ非サルコトヲ訴出スルコト得可シ(民三一六、三一八、七二四、一〇〇四、一〇〇九、一〇一一、二)

若シ夫其子ヲ我子ニ非スト訴ヘ得ヘキ期限内ニ死去セシ時ハ、其理由ノ如何ニ關ハラズ其遺物相續人、若クハ相續人ニ代ル所ノ財産全部ノ遺囑贈遺ヲ受ケシ者、及財産中別段指定メザル一部ノ遺囑贈遺ヲ受ケシ者、續テ其訴ヲ爲スノ權利ヲ有スベシ、右諸種ノ遺物相續人ニ於テ、此訴ヲ爲スニハ二ヶ月ノ定期アリ、此定期ハ其子ニ於テ其父ト述フル所ノ人ノ財産ヲ占有スルカ、若クハ占有セント求ムル時ヨリ起算ス、而シテ諸種ノ

相續人ハ各自ニ右ノ訴ヲ爲シ得、蓋シ遺物ヲ相續スル數人中、惡意若クハ懈怠ニシテ其訴ヲ爲サ、ル者アル時、之ヲ爲サント欲スル者ヲ妨害スルコト勿ラシメンカ爲メナリ、父ノ遺物相續權ヲ拋棄シタル子ト雖モ、或ル子ニ於テ其父ノ子タリト述ル者アル時、之ヲシテ宗系ノ他ノ遺物相續ヲ爲サシメサルカ爲メ、其父ノ子ニ非サルコトヲ訴フルニ付資益ヲ有シ得ベシ、是其父ノ遺物相續ノ權ヲ拋棄シタルモ、某ハ父ノ子ニ非スト訴フルノ權利ヲ保有スル所以ナリ、而シテ此訴ハ假令モ現存スル所ノ母ノ姦通ニ根據スルモ妨ケナシトス、何トナレハ其訴ヲ起スハ固ヨリ其母ニ對スルニアラス、畢竟姦通ヨリ生レタル子ニ對シル爲スモノナレハナリ、

第三百十八條 夫又ハ其遺物相續人等二月ノ期限内ニ裁判所外ニ於テ其子ヲ子ト爲サ、ルコトヲ記シタル證書ハ其記シタル時ヨリ一月内ニ其子ノ別段ノ後見人ニ對シ其母ノ面前ニテ訴訟ヲ爲サ、ルニ於テハ其證書ノ効ナカル可シ(民三一六、三一七、四〇五、四〇六、四五九、二二四五、訴五九、六〇、)

裁判所外ニテ記シタル證書トハ、凡ソ訴訟外ニ於テ作りタル證書也、本條ノ場合ニ於



テハ多クハ證書人之ヲ記ス、而シテ此證書ハ第三百十六條及第三百十七條ニ定メタル期限内ニ作ルヲ要シ、且其子ノ子ニ非サルヲ訴フヘキ旨ヲ記載スルヲ要ス、此證書ハ其子ノ子ニ非サルヲ訴ント欲スル者ニ其證憑ヲ採集スル爲メ、更ニ一ヶ月ノ延期ヲ與フルノ効アリ、何レノ場合ニ於テモ訴ハ、其事ノ爲メ別段ノ後見人ニ對シテ爲スヲ要ス、而シテ此後見人ハ第四百七條ノ規則ニ從ヒ、親族會議ニ於テ任スヘキヤ否ヤノ論說紛紜タリ、法學者中多クハ父ノ父タルコトノ不定ナル斯ノ如キ場合ニ於テ、後見人ハ親族會議ニテ任スベキニアラス、裁判所ニテ任スベキモノト思考セリ、然ルニ大審院ハ千八百六十四年五月九日ノ裁決ヲ以テ、巴里上等裁判所ニ於テ本條ノ別段ノ後見人モ、第四百七條ニ定メタル規則ヲ以テ、親族會議ニテ任スベキコト判決シタル言渡ヲ固定シテ、正シク法律ニ適シタルモノトナセリ、(其文畧之)

子ノ母ハ其子ヲ子ト爲サ、ル訴訟ノ席ニ呼出サル、蓋シ母ハ決シテ原被トナルニアラス、只其名譽及ヒ愛情ヲ大ニ損害セラル、コアルヲ以テ己レノ申述ヲ爲スヲ要ス、

○第二章 公生ノ子タルノ證

嚴ニ原則ヲ推スルハ、公生ノ子ナリト申述ル者ハ、左ノ三件ヲ證セザルベカラス、第一己レノ父母ハ互ニ夫婦ナリシコト、第二其夫婦ノ間ニ子ヲ擧ケシコト、第三其子ハ即チ自己ナルコト、然ルニ法律ハ此原則ヲ寬ニシ、第一身上證書ノ簿冊ニ記シタル出生ノ證、第二公生ノ子タルノ現狀、第三定規ニ循ヒタル證人ノ申述、トノ三箇中ノ一個ヲ以テ公生ノ子タルコトヲ證スルヲ聽ルス、(親子タルコト公生ノ子タルコト同視スベカラス、親子タルコトハ夫婦ノ間ニ擧ケタルト否トニ關ラサルモノニテ、唯其子ノ公生ナルト否トノ別ルノミ、故ニ公生タルコトハ親子タルコトニ付テノ關係ニ過キサルナリ、)

第三百十九條 公生ノ子ノ子タル事ハ身上證書ノ簿冊ニ記シタル出生ノ證書ニ因テ之ヲ證ス(民四〇、四一、四五、五七、一九七、三二二、一三一九、刑一四五ヨリ一四七、三四五、三六三)

出生ノ證書中ニ記シタル母ノ姓名ハ、假令相違アリトモ、其人ニ相違ナキニ於テハ、其子ハ公生ナル母ノ出生シタルコトヲ證シ、且又第三百十二條ニ掲ケタル婚姻中ニ受胎シタル子ノ父ハ、其母ノ夫ナリトノ思慮ニ依リ、母ノ夫ハ即チ父ナルコトヲ證ス、千八百六十



四年一月十一日巴里上等審院ノ裁決ニ因レハ、假令其子出產ノ證書中ニ、夫ニ非サル他人ヲ其子ノ父ナリト記シタリシ時ト雖モ、右ニ記シタル母ノ夫ハ即チ父ナリトノ思度ヲ保存シ得、(裁決畧之)然モ身上證書ノ簿冊ハ、公ケニ人皆其摘撮書ヲ求ムルノ權利アル(第四十五條見合セ)故、出產ノ證書ノ摘撮書ヲ示ス所ノ者ハ、書類若クハ證人ヲ以テ、自己即チ其出產ノ證書中ニ記シタル者ニ相違ナキヲ證セサレハ、其公生ノ子タルヲ證スルニ足ラス、

第三百二十條 其證書ナシト雖モ公生ノ子タル景狀ヲ引續テ現ニ有スルヲアル時ハ公生子ナリト爲スニ足レル證アリトス(民四六、一九五、一九六、三二二、三二二、) 身上證書ノ簿冊ニ記シタル出產ノ證書ノナキ時、公生ノ子タルヲ證スル爲メニハ公生ノ子タル景狀ヲ引續テ現ニ有スルヲ以テ足レリトス、且此景狀ヲ現有スルハ、出產ノ證書ヨリ却テ確實ノ證憑トナルヲ多シ、何トナレハ之ヲ以テ公生ノ子ナリト述ル者ノ相違ナキヲ容易ニ證シ得レハナリ、又此景狀ハ公生ノ子ナリト言做ス者ニ於テ、他ノ證憑ヲ示スニ及ハスシテ、人ヲシテ其公生ノ子タルヲ思度セシメ、若シ之ヲ非トスル

キハ、原告人トナリ其證憑ヲ出スヲ要セシム、蓋シ公生ノ子タル景狀ヲ現ニ有スルヤ否ヤノコトハ、物權ニ關シタル事件ト甚タ其類スレハナリ、抑物權ニ關シタル事件ニ付テハ、現ニ占有スルヲ以テ、占有者ノ爲メ占有ノ理アリト思度シ、之ヲ非トスル者ハ必ス其非トスル所以ノ證憑ヲ示スヲ要ス、

第三百二十一條 子ト其子ノ所屬ナリト言做シタル家族トノ間ニ互ニ親子タル關係ヲ證ス可キ數件ノ具ハル時ハ公生ノ子タル景狀ヲ有スル者ト看做ス可シ但シ其數件中ニテ最重要ナルモノハ

子其父ナリト言做タル者ノ姓ヲ常ニ帶用スル事

父其子ナリト言フ者ヲ現ニ我子ト爲シテ取扱ヒ且其教育產業ノ管督ヲ爲セシ事

他人常ニ其子ヲ公生ノ子ナリト認メシ事

其親族モ亦之ヲ公生ノ子ナリト認メシ事(民二〇三、三二〇、)

本條ニ掲ケタル公生ノ子タル景狀ト爲ス重モナル元素ハ、羅馬律ニ於テ左ノ如ク言顯シタリ、子ハ其父ト言做ス者ノ名ヲ帶用セシ、(ノマン)父モ其子ノ如ク取扱ヒシ、



(トラクヂニス)世<sup>〇</sup>人<sup>〇</sup>モ<sup>〇</sup>其<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>ヲ<sup>〇</sup>公<sup>〇</sup>生<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>子<sup>〇</sup>ノ<sup>〇</sup>如<sup>〇</sup>ク<sup>〇</sup>視<sup>〇</sup>察<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>タ<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>シ<sup>〇</sup>ト<sup>〇</sup>、(フアナ)此三個ノ元素ノ有無ハ證人ヲ以テ之ヲ證シ、以テ出產證書ニ代フベシ又ハ出產證書ノ疵癥ヲ補フベシ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、此元素ハ子ニ公生ノ者タル分限ヲ與フルヲ肯セサル者ノ所爲ニ出ルヲ見ルニ足ルベシ、是殊ニ本條ノ本旨ヲ強ムル所ナリ、

第三百二十二條 何人ニ限ラス出產ノ證書ニ記スル所ト現ニ有スル景狀トニ反シタル身上ナリト自カラ述フルヲ得ス

又出產ノ證書ニ記スル所ト現ニ有スル景狀トニ反シタル身上ナリト他人ヨリ論辨ス可カラス(民一九六、一九七、三一九、三二一)

公生ノ子タルノ景狀ナク、出產ノ證書ノミニ公生ノ子ト記セシ時、及出產ノ證書ニ公生ノ子ト記サス、公生ノ子タルノ景狀ノミアル時ハ、其子ハ、公生ニアラストノ訴ヲ爲シ得ベケレトモ、證書景狀共存スルキハ、其子若クハ他人ヨリ、之ニ反シタルヲ言做テ爲スヲ得ス、然レモ本條ノ場合ニ於テ、其子又ハ他人ニ於テ、其父母ハ嘗テ結婚セシ者ニ非サルヲ證スルカ、若クハ某ノ子ニ非サルヲ訴ヘテ、其子ノ公生ナリトノ思度ヲ消

滅セシメ得ヘシ、

第三百二十三條 若シ出產ノ證書ナク且引續テ現ニ公生ノ子タルノ景狀ヲ有スルヲナキ時又ハ姓名ヲ誤リ或ハ分明ナラサル父母ノ生ミタルモノト爲シテ其子ノ出產ノ證書ヲ記シタル時ハ證人ヲ以テ公生ノ子タルノ證ヲ立ツルヲ得可シ

然レモ書面ニ據リテ其證ノ端緒アル時又ハ其景狀ヲ思度スルニ其證ヲ立ルヲ許スニ足ル可キ證據アル時ニ非サレハ證人ニ因リ其證ヲ立ルヲ許サス(民四六、三二四、三二五、一三四七、一三四九、一三五三、訴二五二、二五三)

公生ノ子タルハ、身上證書ノ簿冊ニ記シタル出產ノ證書(第三百十九條見合セ)ト、引續テ公生ノ子タル景狀アルヲ(第三百二十條見合セ)トノ二個ノ方便ヲ以テ之ヲ證シ得ヘキニ、本條ニ因レハ證人ノ申述ヲ以テモ亦公生ノ子タルヲ證シ得、抑證人ノ申述ハ必ス確實ナリト保證シ難キモノトス、何トナレハ一個ノ訴訟ニ付大ナル利益ヲ有スヘキ者、或ハ偽證人ヲ出スノ恐レアレハナリ、然レモ此恐レアルニ因リ證人ノ申述ヲ聽サ、ルキハ、其子ノ公生タル權利ハ、其出產ヲ申述ヘサル親族ノ懈怠、若クハ身上證書ノ



簿冊ヲ破毀シタルカ如キ、他人ノ罪犯ニ因テ失フアルヘシ、然リト雖モ又證人ノ申述ヲ以テ容易ニ證憑ト爲スルハ、親族ノ譽榮安逸ヲ保護スルコトナキニ至ルベシ、之ニ因テ立法者子ノ公生ナルコトニ付テ證人ノ申述ハ、書面ニ據テ其證ノ端緒アルカ若クハ公生ノ子タル景狀ト爲スベキ憑據アルカ、又ハ某ノ婦出產シタル事實明白ニシテ、今爰ニ公生ノ子タル分限ヲ求ムル所ノ者ト、同年齡同姓同髮ナルカ、其他ノ徵候アルカ如ク公生ノ子タル證ヲ立ルヲ聽ルスニ足ルベキ憑證アルニ非サレハ、之ヲ聽スヘカラサルコトナシ、而シテ證人ヲ以テ證據ヲ取ルニ個ノ危險ヲ防キタリ、

第三百二十四條 其證ノ端緒ハ家記又ハ父母ノ私ノ簿冊及ヒ書類又ハ其訴訟ニ管シタル者ノ公私ノ證書又ハ既ニ死去シタリト雖モ若シ生存スル時ハ其訴訟ニ管ス可キ者ノ公私ノ證書等ニ因テ之ヲ得可シ(民四六、三二三、三四一、一三四七、)

書類ニ據リテノ證憑ノ端緒トハ、凡ソ原告人ノ訴ル所ニ反シテ資益ヲ有スル者ノ記シタルモノニテ、其訴フル所正實ナルベシト思料シ得ベキ書類ヲ云フ、(第千三百四十七條見合セ)故ニ不規則ナル出產ノ證書又ハ父母其他ノ親族ノ記シタル書翰及ヒ其他ノ

書類モ總テ證據ノ端緒ト爲シ、以テ公生ノ子タルコトニ付證人ノ申述ヘテ採用シ得可シ、然レモ第四十六條ニ掲ケタル場合ト違ヒ、書類ヲ以テ證據ノ端緒ト爲シ、若クハ公生ノ子タル景狀アリト思度スルニ足ルベキ憑據ヲ示シテ、公生ノ子タル分限ヲ求ムル所ノ者ハ、必ス身上證書ノ簿冊ノ管テ非サルコト、若クハ其簿冊ノ紛失シタルコトヲ證スルヲ必要トセス、

第三百二十五條 之ニ反スル證ハ公生ノ子ナリト言フ者其母ト言做シタル者ノ公生ノ子ニ非サル事又ハ母ニ付テノ確證アリト雖モ其母ノ夫ノ公生ノ子ニ非サル事ヲ證スルコト足ル可キ諸件ヲ以テ之ヲ得可シ(民三一、三二、三一六、三一七、三二三、訴二五六、)

某ノ婦ヲ公生ノ母ナリト言做シ、以テ其言做ニ適ヒタル裁判言渡ヲ得タル者ハ、之ニ因テ其婦ノ夫ニ對シテモ、公生ノ子タル景狀ヲ有シタル者ト爲ス可キ乎ノ論說甚ク多シ、抑人ノ身上ハ分割スベカラサルモノナリト雖モ、余輩以爲ラク子其母ナル婦ニ對シテ得タル言渡ハ、其訴訟ニ預ラザリシ所ノ夫ニ對シテ決シ何レノ効ヲモ生セサルベシ(第千三百六十五條及第千三百五十一條見合セ)。故ニ此場合ニ於テ、夫ハ第三百十二條及第三



百十三條ニ掲ケタル原由ノ一個ニ基キ、其婦ニ對シ裁判言渡ノアリシヨリ二ヶ月内ニ、其子ハ我子ニ非ストノ訴ヲ爲スヲ要セス、或ハ之ヲ訴ヘ、或ハ其子己レニ對シ子タルノ分限ヲ求ムルヲ俟ツモ隨意タルベシ、蓋シ何レノ場合ニ於テモ、夫ハ其子ノ父ニ非サルヲ證スルニ足ルベキ各種ノ方法ヲ以テ、其子タルノ分限ヲ求ムルノ訴ヲ斥ケ得ベシ、

第三百二十六條 公生ノ子タルノ景狀ニ付テ、訴訟ヲ裁判スルコトハ民法裁判所ノ管轄トス  
 (民九九、一〇〇、一九八、一九九、三二七、三二八、訴八三)

公生ノ子タル景狀ヲ求ムルノ訴ハ、動産ノ物權ノ訴ト爲スヲ以テ、必ス父母若クハ他ノ被告人ノ住所ノ民法裁判所ニ向テ之ヲ爲スヲ要ス、(若シ刑法裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルノ權アリトセハ、身上證書ノ官吏若クハ子ノ出産ノ申述ヲ爲シタル者ニ於テ、出産ノ證書ヲ贋造シタル者トシテ訴フルコト望ムベシ、而シテ刑法裁判所ハ證人ヲ以テ證據ヲ立ルヲ聽スニ付、書類ヲ以テ證據ノ端緒ト爲スヲ要スル、第三百二十三條ノ規則ヲ避ルニ至ラン、)

第三百二十七條 出産ノ證書ヲ枉害シタル罪ニ付テノ刑事ノ訴訟ハ公生ノ子タルノ景狀ニ

付キ起リシ民事ノ訴訟ノ確定ノ裁判アリシ後ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ(民五二、五三、一九八、一九九、治三、二二、刑三四五、)

公生ノ子若クハ私生ノ子ノ身上ノ證ヲ妨ケ若クハ亡ハントスル所爲ハ、或ハ監役ノ刑ヲ以テ罰スベキ重罪犯、或ハ禁錮ノ刑ヲ以テ罰スベキ輕罪犯トス、(刑法第三百四十五條以下見合セ)蓋シ刑事ニ付テハ證人ヲ以テ證據ヲ立ルヲ聽ルスト雖モ、民事訴訟ノ子タルコトニ付テハ之ヲ聽サス、此相反シタル兩原則ヲ酌量シ本條ニ於テ立法者一般ノ規則 (治罪法第四條見合セ) ニ外レ、子ノ身上ノコトニ付テハ、其身上ノ證ヲ枉害シタル罪犯ニ對テ刑事ノ訴ヲ爲スノ前、先ツ子タルノ景狀ニ付起リタル、民事訴訟ノ裁判ヲ爲スベキコト定メタリ、之ニ因テ子ノ身上ノコトニ付テハ、其子沈黙シテ何レノ訴ヲモ爲サ、ル時ハ、檢察官ニテ刑法上ノ訴ヲ爲スヲ妨ク、然レモ本條ハ婚姻ノコトニ付適施スベキニ非ス、蓋シ婚姻ハ世治ニ管シ公ケニシテ且端嚴ナル所爲ナレハ、凡ソ民法上ノ訴訟ニ係ラス、刑法上ノ訴訟ノ成果ヲ以テ之ヲ證スルコト得、

第三百二十八條 子其父母ノ公生ノ子ナリト述フル訴訟ヲ爲スニ付テハ期限ナシトス(民



三二九、三三〇、二二二六、)

凡ソ權利ハ定期ノ時間ヲ經過スレハ之ヲ得免シ、(第二千二百十九條見合セ)其期限ノ最モ長キモ三十年ニ過キス(第二千二百六十二條見合セ)然レモ一般ノ道德及世治ノ爲メ且人ノ身上ハ賣買スベカラス又之ヲ評價スベカラサルニ因リ、人ノ身上ノコトハ全ク特別ニシテ、子其子タルヲ求ムルノ權利ニ於テ期限ナク、且此期限ハ明許又ハ默許シテ、和解拋棄ヲ爲シ得ベキモノニ非ストス、然レ遺物相續ノ權利ノ如キ人ノ身上、即チ血屬タルノ分限ニ附從シタル金錢上ノ利益ハ和解シ得ヘク、且公生ノ子タル分限ヲ求メサル所ノ者ニ對シテ、期滿得免ノ効ヲ生シ得、

第三百二十九條 子未ダ公生ノ子タルノ訴訟ヲ爲サシテ死去シタルコト於テハ其子ノ未ダ幼年ニテ死去シタル時又ハ丁年ニ至リシヨリ五年内ニ死シタル時ニ非レハ其子ノ遺物相續人ヨリ其訴訟ヲ爲スコト得ス(民三一七、三一八、三二八、三三〇、三八八、七二四、)

子ナリト述ル訴訟ハ、其子ノ爲メニ期限ナシ(第三百二十八條見合セ)ト雖モ、其子ノ遺物相續人ニ至テハ、假令ヒ其子ノ子タリモ期限アリ、蓋シ其子ノ子タリモ、概シテ之

ヲ遺物相續人ト爲セハナリ、故ニ滿二十六歳ニ至リシ者、嘗テ公生ノ子タルノ訴訟ヲ爲サスレテ死去セシ時ハ、其權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス、因テ其相續人其者ニ代リ、公生ノ子タルノ訴訟ヲ爲スモ受理セス、若シ其者滿二十六歳ニ至ラスシテ死去セシ時ハ、其公生ノ子タルノ分限ヲ求ムルノ權利ハ、其遺物相續人ニ繼傳シ以テ三十年間之ヲ行ヒ得、(第二千二百六十二條見合セ)

第三百三十條 若シ子其父母ノ公生ノ子タル訴訟ヲ爲シ其訴訟ノ未ダ裁判アラサル中ニ死去シタル時ハ其子ノ遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ爲スコト得可シ但シ其子既ニ其訴訟ヲ止ムルコトヲ申述ヘ又ハ最終ニ其訴訟ノ手續ヲ爲シタルヨリ三年ノ時間更ニ其訴訟ノ手續ヲ爲サ、ル時ハ其遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ爲スコカラス(民三一七、三一八、三二八、三二九、七二四、訴三九七、三九八、三九九、四〇〇、四〇一、)

若シ子公生ノ子タルノ訴訟ヲ爲シ、其訴訟中ニ死去セシ時其子ハ何レノ年齢ナリシヤチ問ハス、其子ノ遺物相續人、及財産ノ全部又ハ財産中別段指定メサル一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ケシ者、繼續シテ其訴訟ヲ爲スヲ得、然レモ其子別段其訴訟ヲ止ンコトヲ述ヘシ



カ、若クハ訴訟ヲ爲シ初テヨリ三ケ年ノ餘モ打捨テ置キシカノ時ハ、其子ノ爲メニハ元ヨリ何ノ害ニモナラサレド、滿二十六歳ニ至リシ後死去シタル時ハ、其相續人ヨリハ其子ノ身上ニ付、訴訟ヲ爲スノ權ナキモノトス、

○第三章 私生ノ子

未タ婚姻ノ式ヲ行ハサル前ニ受胎シタル子ヲ私生ノ子ト稱ス、私生ノ子ニ三種アリ、第一尋常ノ私生ノ子、第二姦通ノ子、第三亂倫ノ子、尋常ノ私生ノ子トハ、其受胎ノ時其父母ニ於テ法ニ適シタル婚姻ヲ取結ヒ得ベキ者ノ子ヲ云ヒ、姦通ノ子トハ、其受胎ノ時其父母ノ内一方ハ必ス他人ニ配偶セシ者ノ子ヲ云ヒ、亂倫ノ子トハ、其父母法ニ適シタル婚姻ヲ取結フノ障礙トナルヘキ級内ノ血屬若クハ姻屬ナル者ノ子ヲ云フ、

○第一款 私生ノ子ヲ公生ノ子ト爲ス事

公生ノ子ト爲スコトハ、私生ノ子ニ公生ノ子タルノ權利ヲ授クルコトニシテ、其父母相互ニ結婚スルコト非サレハ能ハス、且尋常ノ私生ノ子ニ限ル、

第三百三十一條 私生ノ子ハ亂倫姦通ニ因リ生レシ者ヲ除クノ外其父母後ニ婚姻ヲ結フ前

ニ之ヲ法律ニ從ヒ我子ナリト認メ或ハ婚姻ノ證書ヲ以テ之ヲ我子ナリト認メタル時ハ其父母ノ婚姻ヲ結ヒタルニ因リ公生ノ子タルコトヲ得可シ (民六二、二〇一、二〇二、三一四、三三四、三三五、三四〇、三四一、)

凡ソ婚姻ヲ行ヒシヨリ日數百八十日以内ニ生レタル子ハ、其母ノ夫ニ於テ之ヲ我子ニ非スト爲サ、ルニ於テハ、法律上ニ於テ當然之ヲ公生ノ子ト看做スカ故ニ、別段之ヲ公生ノ子ト爲スノ式ヲ行フニ及バサルモノトス (第三百十四條見合セ) 故ニ婚姻シタル者ノ間ニアラズシテ擧ケタル尋常私生ノ子ニ非サレハ、公生ノ子ト爲スノ式ヲ行フコトナシ、尋常ノ私生ノ子ハ、其父タル者及母タル者、結婚ノ前若クハ結婚ノ後ニ之ヲ我子ナリト認メタルニ於テハ、其父母ノ婚姻ノ式ヲ行ヒシヲ以テ、當然之ヲ公生ノ子ト爲ス可シ、凡私生ノ子ヲ法律ニ從ヒ我子ナリト認ルコトハ、其父母タル者公生ノ證書ヲ以テ我子ナリト申述ルカ、(第三百三十四條見合セ) 儻クハ裁判官渡テ以テ之ヲ證ス、結婚ノ禁アルコトヲ知ラスシテ、夫婦又ハ一方ノ者正意ヲ以テ取結ヒタル婚姻 (マリアーシユビュタチフ) 中ニ擧ケシ子ハ全ク民法上ノ効ヲ生ス、(第二百一條見合セ) ト雖モ此婚姻ヲ以



テ我子ナリト認メシ子ヲ決テ公生ノ子ナリト爲スヲ得ス、又凡ソ私生ノ子、其父母婚姻ヲ行フノ時マテコ我子ナリト認メラレサルキハ、公生ノ子タルヲ得ス、蓋シ法律ニ於テ私生ノ子ヲ舉ケシ者、結婚ヲ行フ時迄ニ我子ト認メタルヲ以テ之ヲ公生ノ子ト爲スヲ准スハ、必竟立妾ノ陋俗ヲ廢止センカ爲メナレハナリ、

二婦ヲ娶リ二夫ニ嫁スヲ、及亂倫ノ如キ、元ヨリ取消トナルベキ疵癥ヲ帶ビタル婚姻中ニ舉ケシ子ト雖モ、其父母右ノ疵癥アルヲ知ラス正意ヲ以テ結婚セタルニ於テハ、公生ノ子ト同一ノ權利ヲ享有シ得ベシ、然レモ嘗テ結婚セシコトナク、全ク亂倫姦通ニ因リ舉ケタル子ハ、其父母結婚ス可カラサルノ仔細ヲ知ラスト雖モ、決シテ其子ヲ以テ公生ノ子ト爲スヲ得ス、又退テ結婚セテ之ヲ公生ノ子ナリト爲スヲ得ズ、故ニ一人ノ處女ト婦アル男ト姦通シ、若クハ結婚ス可カラザル親族互ニ私通セテ舉ケシ子ハ、決シテ之ヲ公生ノ子ト爲スヲ得ザルベシ、然レモ或ル説及ヒ多クノ裁判事例ニ據レハ、異父又ハ異母兄弟姉妹及ヒ伯叔父姑ト姪トノ交通ニ於テ舉ケシ子ハ、皇帝ノ免除ヲ得テ結婚セタルキハ、之ヲ公生ノ子ト爲スヲ得ベシトセリ、即チ千八百六十四年一月十四日「アミヤ

ン」上等審院ニ於テ此意ヲ以テ判決セシコト左ノ如シ

亂倫ノ罪アリト雖モ後其者結婚スルヲ得タルニ於テハ其不正全ク消滅ス、故ニ其結婚前ニ舉ケシ子ヲ認メ及之ヲ公生ノ子トスルニ付テモ、亦同様ト爲サ、ルヲ得ス、皇帝ノ免除ナル者ハ其効遡テ既往ニ及フ可カラス、將來ニノミ及フベシト言難シ、又男女不正ヲ犯シテ子ヲ舉ケシト雖モ、其不正ノ罪ハ元來法律上ノ禁制ニ原クモノナレハ、其免除アル以上ハ乃チ其不正ノ罪モ從テ消滅ス、然ラハ當初不正ノ交通ヨリ起リシ不幸ノ結果ヲ、其子ニ及ボスハ不正當ナルベシ、固ヨリ立法者ハ父母ヲ同クスル數子其出產ノ前後ニヨリ、甲ハ亂倫ノ子タルノ恥辱ヲ受ケ乙ハ公生ノ子タルノ利益ヲ受ルカ如キ、不公平アルヲ欲スベキニ非ス云々、然ルニ千八百六十四年一月十四日「ゾーエー」上等審院ノ判決、千八百六十六年二月十五日「ギジョン」上等審院ノ判決、同三月十三日「コルマル」上等審院ノ判決ニ因レハ、本條ノ文面上ニ於テ、凡ソ亂倫ノ子ハ公生ノ子ト爲スヲ得ズトセリ「ギジョン」ノ判決ニ載セタル理由ハ左ノ如シ



凡ソ子ヲ公生ノ者ト爲ス事ハ、必竟人定ノ規律ニ因ルコトナレハ、社會ハ其亂倫姦通ニ因リ法律ヲ侵シ醜俗ヲ露ハス所ノ者ニ、民事上一家族ノ榮譽ヲ有セシメザルノ權利及義務アリ、又若シ亂倫姦通ノ醜行アルモ、後皇帝ノ免除ヲ得レハ其恥辱ヲ消シ、其醜行ニヨリ擧ケシ子ノ不幸ヲ掩フコト得セシムルキハ、却テ醜行ヲ增長セシメ、殊ニ婦女亂倫姦通ニ誘導セラレ、其之ニ抵抗スルノ具ト、其子ニ終身ノ恥辱ヲ負ハシムルコトノ恐レヲ失却セシムルニ至ルベシ、又法律ニ於テ亂倫姦通ニ因リ擧ケシ子ニ、己レノ子タルノ名ヲ與フルコトヲ禁スルハ、實ニ大ナル責罰ナリト云フ可シ、若此禁制ノ力ヲ弛ムルキハ、社交上ニ於テ大ナル禍害ヲ醸ス可シト云々、

大審院ニ於テハ、千八百六十七年六月二十二日三回ノ判決ヲ以テ、「アミヤン」上等審院ノ判決ヲ固定シテ、「ゾーエー」及「コルマル」兩審院ノ判決ヲ破毀セリ、其理由左ノ如シ、

民法第三百三十一條ニ掲グル所ノ規則ハ、姦通ヲ以テ擧ケシ子ニ就テハ一般ノ規則ニシテ、何レノ場合ニモ廣ク通用ス可シト雖モ、亂倫ノ子ニ至テハ之ト同カラズ、又民法第五百二十二條及第六十三條ニ記シタル場合ニ於テ、皇帝ヨリ結婚ノ免除ヲ得タル者ト得ザル者トハ、決シテ之ヲ同視ス可カラズ、且新律ニ於テモ亦舊律ニ於ケルガ如ク、此免除ヲ得ザル者ニ許サズリシ權利ヲ、(公生ノ子ト爲スノ權利) 此免除ヲ得タル者ニ波及シテ之ヲ許サズリシコトアルヲ見ズ、又第三百三十五條ニ依テ之ヲ駁スル者アレモ、亦至當ナラス、何トナレハ我子ナリト認メ及ヒ之ヲ公生ノ子ト爲スノ利益ヲ得セシムルハ、亂倫ノ子ノ爲ニアラス、免除ノ特恩ニ因リ本原ノ疵癥ヲ除去シテ、潔白ナルモノト爲シタル婚姻ノ結果ノ爲メナレハナリ、

又此ノ如ク該條ヲ解スルキハ、親族ノ交際ヲ純正ニ保クシムルノ目的ナル第三百三十一條ニ背クト云フヲ以テ駁スル者アリ、然レモ此旨意ノ如キハ彼ノ免除ヲ與フルノ際ニ當テ、十分ニ之ヲ保存スルヲ得可シ、又免除ヲ得タリトモ其子ノ不幸ヲ消滅スルコトナク、特ニ其免除ヲ得タル者ノミチ寛恕スト云フノ説ハ最モ非ト云ヘシ、

予輩以爲ラク右ニ記スル大審院ノ判決ニ掲ケタル理由ハ、本條及第三百三十五條ニ背クカ如シ、蓋シ本條ノ旨意ヲ察スルニ、亂倫ノ子モ姦通ノ子モ總テ包括シ均シク同



様ノ道理アリテ、審司ト雖モ法章ニ明文ナキヲ猥ニ彼此ノ區別ヲ爲スノ權ナシ、又皇帝ノ免除ハ決シテ既往ニ及フ可キモノニアラス、必竟結婚ノタメニ現存スル障礙ヲ除去スルニ止ルノミ、又爰ニ一ノ緊切ナル道理アリ、恐クハ大審院ニ於テ誤テ此理ヲ認サリシモノナラン、即チ本條ニ於テハ凡ソ亂倫姦通ニヨリ舉ケシ子ハ、追テ結婚セタルヲ以テ之ヲ公生ノ子ト爲スヲ得ズトアレハ、結婚セシニヨリ亂倫ノ子ヲ追テ公生ノ子ト爲スヲ得サルコトハ固ヨリ明カナリ、何トナレハ結婚ノ禁アルコト知ラズシテ、正意ヲ以テ爲シタル婚姻中ニ舉ケシ子ハ、尋常ノ私生ノ子トハ爲シ得ベシト雖モ、之ヲ公生ノ子ト爲シ得ザルコトハ殆ント疑テ容ルベカラス、況ンヤ亂倫姦通ノ子ハ之ヲ公生ノ子ト爲スヲ得ザルコト、衆記ノ如ク固ヨリ確的ナリトス、蓋シ姦通セタル夫若クハ婦ハ、其配偶者ノ死後ニ非ザレハ正當ナル婚姻ヲ取結フヲ得ズ、又亂倫ノ罪アル血屬又ハ姻屬ノ者ハ、皇帝ノ免除ヲ得ザレハ正當ノ婚姻ヲ取結ブヲ得ズ、因テ本條ニ於テ假令ヒ免除ヲ得テ結婚スト雖モ、之ヲ以テ亂倫ノ子ヲ公生ノ子ト爲スヲ得ザルモノトナシタルハ他ニ非ス、只此一個ノ場合ノ爲メノミナリ、故ニ大審院ノ説ハ之

ヲ法律ノ精神ト其文章ニ背キ、法ニ反シテ法ヲ成スモノナリト謂ハサルヲ得ズ、

第三百三十二條 私生ノ子卑屬ノ親ヲ遺留シテ死去シタル時ハ其死去ノ後ニ至リ亦之レヲ公生ノ子ト認ムルコトヲ得可シ此場合ニ於テハ其死去セシ子ノ卑屬ノ親ノ爲メ權利ヲ生ス可シ(民三三一、三三三、)

本條ニ從ヘハ私生ノ子公生ノ卑屬ノ親ヲ遺留シタル時ハ、死去ノ後某ノ子ト認メラレ、且公生ノ子ト爲サル、コトヲ得、然ル時ハ此認メ及公生ノ子ト爲シタルコトハ其卑屬ノ親ノ所益トナル、然レモ卑屬ノ親ヲ遺留スルコトナク死去シタル私生ノ子ノ父母モ亦、其子ヲ我子ナリト認メ、之ニ因テ其子ノ遺物ヲ相續シ得ベキ手ノ論說頗ル多シト雖モ、到底之ヲ認メ得ベシトノ說穩當ナルベク殊ニ其子ノ出產ノ證書中ニ、母ト記シタル母ノ爲メニハ尤モ然ルベシ

第三百三十三條 私生ノ子其父母後ニ婚姻ヲ結ヒシニ因リ公生ノ子タルヲ得タル時ハ父母ノ婚姻ニ因リ生レタル者ト同一ノ權利ヲ有ス可シ(民七三一、七三四、九一三、九一四、九六〇、九六七、)



私生ノ子ヲ公生ノ子ト爲スコトハ、決シテ既往ニ及ホスノ効ナシ、其子ハ恰モ其父母ノ婚姻ヲ行ヒタル時ニ受胎セシ者(婚姻ノ時ヨリ前ニ生レシモノト雖モ、婚姻ヲ行ヒタル時生レシ者)ト看做ス、之ニ因テ眞ノ受胎ノ時ト其父母ノ婚姻ヲ取結フ迄トノ間ニ開始シタル遺物ヲ相續スルコトニ付、何レノ權利ヲモ得ント訴フルコト得ス、(又法律上我子ナリト認メラレタル私生ノ子ノ父、其子ノ母ニ非サル他ノ女ト結婚シテ一子ヲ擧ケタル後、夫トナリ、私生ノ子ノ母ヲ娶リシ時、其子ハ前婚ノ子ヨリ年齢ハ長シタリト雖モ、法律上ニ於テハ第二ノ子タルヲ免カレス、然レモ此情狀ハ今日ノ相續法上ニ付テハ利害ナシ、何トナレハ民法上ニ於テハ、兄弟姉妹長幼ノ別ナケレハナリ、(第七百四十五條見合セ)然レモ貴族等ノ爵號ノ如キ嫡男相續ノ權ニ付テハ猶ホ其効ヲ存ス、)

○第二款 私生ノ子ヲ我子ナリト認ムル事

第三百二十四條 私生ノ子ヲ其出產ノ證書ヲ以テ我子ナリト認ルコトナキ時ハ別ニ公正ノ證書ヲ以テ我子ナリト認ルコト得可シ、(民五七、六二、一五八、一五九、二六一、二六二、三三一、三三五、三三六、七五六、一三一七、)

父母私生ノ子ヲ我子ナリト認ムルト否トハ、隨意タリト雖モ、其子ノ願ニ因テ裁判所ノ言渡ヲ受ルルハ、之ヲ我子トセサルヘカラス、又隨意ノ認メモ公生ノ證書ヲ以テスルコト非サレハ、正當ニ我子ト爲スヲ得ス、蓋シ我子ト認ムル所ノ者、強壓詐偽ニ因ラス、自由ノ本心ヨリ出タルコトヲ明ラカニスル爲メ、必ス官吏ヲシテ證人ノ面前ニ於テ、其認メノ證書ヲ記サシムルヲ要ス、又名代人ヲ以テ其認メヲ爲スヲ得、然レモ之カ爲メニハ、必ス特別ニ且公正ノ證書ノ式ヲ以テ記シタル、委任狀ヲ與フルヲ要ス、

本人自筆ノ遺囑書ヲ以テ爲シタル認メハ取消トス、千八百六十二年大審院ニ於テ、斯ノ如キ遺囑書ハ私書ニシテ公正ノモノト爲ス可カラスト判決シタリ、(其文畧之)

秘密ノ遺囑書モ亦然リ、何トナレハ其遺囑書ヲ證書人ニ渡シタルコトノ一事ノミ公生ナルヲ以テナリ、私生ノ子ノ認メハ、身上證書ノ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲シ、身上證書ノ官吏ハ、之ヲ身上證書ノ簿冊ニ記入ス、又證書人若クハ治安裁判官ノ面前ニ於テモ爲スコト得、但治安裁判官ノ面前ニ於テスルハ、其書記役ノ連席ヲ要ス、又一個人ノ訴訟中民事裁判所ニ於テモ爲スコト得、私生ノ子己ニ代ルベキ公生ノ子ヲ遺留シ死去シタル



後タリヒ、之ヲ認ムルヲ得、抑幼者ハ概シテ義務ヲ契約スルノ權力ナシト雖ヒ、其私  
生ノ子ヲ認メ得、隨テ父タルヲヨリ生スル義務ヲ擔任スルヲ得、蓋シ畢竟此認メテ爲  
スニ因リ、一個ノ准契約ト成ル所ノ己レノ過失ノ一部分ヲ償ヘハナリ、

第三百三十五條 亂倫及ヒ姦通ニ因リ生レシ子ハ我子ナリト認ルヲ得ス(民一五九、三三  
一、三三四、三四二、七六三、九〇八、)

亂倫若クハ姦通ニ因リ生レシ子ヲ、我子ナリト認ムルヲ許サ、ルハ、蓋シ姦通亂倫ノ  
醜惡ナリシコノ思念ヲ永續セシメスシテ、之ヲ忘却セシメンコトヲ要スレハナリ、故ニ兄  
又ハ弟ニ於テ、一個ノ私生ノ子ヲ我子ナリト認メタル時、其姉又ハ妹ニ於テ亦其子ヲ我  
子ナリト認メント欲スルキハ、豫メ裁判所ニ訴ヘテ、其兄又ハ弟ニテ爲シタル認メノ取  
消ヲ言渡サシメサルベカラス、又一個人ノ男其既ニ婚姻シタルコトヲ秘匿シテ、身上證書ノ  
官吏ヲ欺キ更ニ他ノ女ト婚姻ヲ行ヒ、其女ノ受胎シタル子ヲ我子ナリト認ムルコトアリ  
ヒ、此認メハ全ク取消トス、故ニ其子ニ於テモ(第七百六十二條見合セ)此認メアリシコ  
トヲ以テ、養料ヲ得ント求ルヲ得ス、又其子ノ受ケタル遺囑ノ贈遺(第九百八條見合セ)ハ、

効ナキモノト爲サシムルカ爲メ、其子ニ對シテ此認メノアルコトヲ以テ抵拒スベカラス、  
本條ニ於テ姦通亂倫ノ子ノ認メハ取消ナリト明言シ、第三百四十二條ハ子ニ於テ人ヲ  
指シテ父若クハ母ト訴ルコトニ付、亂倫若クハ姦通ノアリシ事蹟ヲ發覺スベキニ於テハ、  
此訴ヲ爲スヲ禁ス、因テ此兩條ヲ照合シテ考フル時ハ、曾テ法律ニ循ヒ認メラレタル姦  
通亂倫ノ子アルコトナク、第七百六十二條ニ姦通亂倫ノ子ニ養料ヲ給セシムルコトハ、行ハ  
レサルカ如シト雖ヒ、婚姻中ニ受胎シタル子、其母ノ夫ニ於テ我子ニ非スト爲シタル時  
ハ、法律上之ヲ姦通ニ因リ生レタル子ト認ム、又ニ夫ニ嫁シニ婦ヲ娶ルコト、若クハ亂倫  
ノ爲メ取消サレシ婚姻、元ト雙方ノ故造ヲ以テ取結ヒタルモノナル時ハ、其婚姻ニ因リ  
生レタル子ハ、姦通若クハ亂倫ノ子タルコト判然タリ、

第三百三十六條 母ノ申述及ヒ承諾ナク父ノミコト私生ノ子ヲ我子ナリト認メタル時ハ其  
父ノミコト付キ之ヲ認メタルノ効アリトス(民三五、三四〇、三四一、)

子ノ認メハ第一千百六十五條ノ、凡ソ契約ハ之ヲ結ヒタル雙方ノ間ノ外、其効ヲ生スルコ  
トナク、又利益ヲ生スルコトナシ、ト云フ原則ニ據リ、認ムル者ト認メラレタル者トノ間ニ



ノミ其効ヲ生ス、故ニ母ノ申述及承諾ナク、父ノミ認メタル子ハ、父ニ對シテノミ其効ヲ生ス、本條ハ之ヲ起草セシ時ノ論說ニ週リテ視レハ、一個ノ男ハ母ノ承諾ナク私生ノ子ヲ認メ得、又母ハ其承諾ナク爲シタル認メニ付訴ヲ起シ、其子ヲ認メシ者ハ、其子ノ父ニ非サルコトヲ證シ得、ト云フ意味ニ基キタルモノナリ、故ニ若シ一個ノ男私生ノ子ヲ認ムル時、己レト結婚スルコトヲ禁セラレタル級内ノ親ナ、其子ノ母ナリト申述フルニ於テハ、其認メハ取消トス、

母モ亦公生ノ證書ヲ以テスルニ非サレハ、私生ノ子ヲ正當ニ認メ得ス、又名代人ヲ以テ其子ヲ認メ得ベシト雖モ、委任狀ハ特別ニシテ且公正ノモノタルヲ要ス、(第三百三十四條見合セ)若シ母ノ承諾ナク子ノ出産ノ證書中、若クハ父ノ爲シタル認メノ證書中ニ、母ト記セシトモ、此記シタルコトノミコテハ、母ノ爲メ民法上何レノ効ヲモ生スルコトナシ  
第三百三十七條 夫又ハ婦其配偶者ト婚姻ヲ結タル以前ニ其配偶者ニ非サル者ニ因リ擧ゲタル私生ノ子ヲ其婚姻ノ後我子ナリト認メタリト雖モ其配偶者又ハ其婚姻ニ因リ生レシ子ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ

然レ其婚姻ヲ解キシ後其婚姻ニ因テ生レシ子ノ生存スルコトナキ時ハ前項ニ記スル私生ノ子ノ爲メ之ヲ認メタルノ効ヲ生ス可シ(民二二七、)

夫若クハ婦ハ其結婚ノ前、其配偶者ニ非サル他人ト、私通シテ擧ケタル子ヲ認ムル時ハ、其配偶者ニ對シ大ナル感觸ヲ來タシ、以テ夫婦中ニ紛擾ヲ生スルノ原因ト爲リ得、故ニ立法者右ノ認メヨリ生スヘキ弊害ヲ防ント欲シ、配偶者及其配偶者トノ結婚ニ因リ擧ケタル、公生ノ子ノ權利ヲ害スルコトヲ定メタリ、本條ハ裁判上ノ認メニモ亦隨意ノ認メノ如ク之ヲ適施スベシ、何トナレハ千八百六十一年十二月十六日大審院ニ於テ判決(其文略之)シタル如ク、何レノ法律ノ章條及精義ニ於テモ、裁判上ノ認メト隨意ノ認メトニ、何レノ區別ヲモ爲スコトナケレハナリ、又本條ノ規格ハ、公正ナル遺囑書ヲ以テ爲シタル認メニモ適施スベキモノト見ユ、何トナレハ此認メハ、遺囑者ノ死後ニ至ラサレハ其効ヲ生スルコトナシト雖モ、猶モ婚姻中ニ爲シタルモノナレハナリ、  
若シ夫若シクハ婦其結婚ノ前一個ノ私生ノ子ヲ認メタル時、若クハ夫婦其結婚ノ前擧ケタル私生ノ子ヲ其婚姻中ニ認ムル時、其子ニ養料ヲ給スベキ義務ハ、共通財産ノ一個



ノ負債トス、若シ夫若クハ婦其結婚ノ前、其配偶者ニ非サル他人ト私通シテ舉ケタル子ヲ、結婚ノ後ニ認ムル時ハ、其子ニ養料ヲ給スベキノ義務ハ、其夫若クハ婦ノ一身ニ止リ、決シテ共通財産ノ擔當スベキ所トナルコトナシ、(千八百六十一年十二月十六日大審院ノ判決ニ據ル)

第三百三十八條 私生ノ子ハ父母ノ子ナリト認メラレタリト雖モ公生ノ子ニ等シキ權利ヲ求ム可カラズ私生ノ子ノ權利ハ遺物相續ノ卷ニ之ヲ記ス(民一五八、三八三、七五六、ヨリ七六六、九〇六、)

舊法制ニ於テハ、相續上ニ付私生ノ子ニ、何レノ權利ヲモ與ヘシコトナカリシニ、共和政治第二年一個ノ法律ヲ以テ、私生ノ子ニモ公生ノ子ト同一ノ權利ヲ與ヘタリ、「ナポレオン」法典ハ此兩法制ノ偏重ヲ避ケ第七百五十六條以下ニ於テ、適宜ニ規定セシ權利ヲ私生ノ子ニ與ヘタリ、

第三百三十九條 父又ハ母ノ私生ノ子ヲ我子ナリト認ルコト及ヒ私生ノ子ヨリ之ヲ求ムルコトハ之ニ管シタル者ヨリ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

凡ソ私生ノ子ノ認メノ故障ヲ述フルコトニ付キ、金錢上ノ資益若クハ道德上ノ資益アル者ハ、裁判所ニ向テ其故障ヲ述フルコトヲ許ス、但シ故障ヲ述ル者ニ於テ、其認メハ法式ニ違フカ、詐偽若クハ強迫ヲ以テ爲スカ、事實ニ反シタルカ、凡テ己レノ期望ヲ達スヘキノ證據ヲ出サ、ルベカラス、而シテ被告人ノ認メヲ非ト爲ス時ハ、其公生ノ子ト爲スコトヲモ共ニ非ト爲サシム、抑認メノ故障ヲ述フルコトニ付資益ヲ有シ得ベキ者ハ、重キニ其認メラレタル子及之ヲ既ニ認メシ者、若クハ認メント欲スル者ナリ、

同一ノ私生ノ子ヲ認メタル二人ノ間ニ、爭論ヲ生スル時ハ、裁判所ニ於テ其子ノ爲メ最モ眞實ナリト思度シ得ベキ景狀アル者ノ子ト定ムベシ、若シ裁判所ニ於テ二人ト等シク眞實ナリト思度スルモ、其子ノ資益ヲ慮リ、二人ノ内最モ名望富有ノ者ヲ、父若クハ母ト定ムベシ、

第三百四十條 私生ノ子人ヲ指シテ我父ナリト訴出スルコトハ之ヲ禁ス然レモ母ノ誘拐セラレタルト受胎シタルト其時日ノ符合シタル時ハ之ニ管シタル者ノ訴ニ因リ誘拐者ヲ以テ其子ノ父ト爲スコトヲ得可シ(民三四二、治三、刑三四一、ヨリ三四四、三五四、ヨリ三五七、)



佛國ノ舊法制ニ於テハ、私生ノ子人ヲ指シテ我實父ナリト訴出スルコトヲ許シタリ、然レ  
 凡畢竟法律上何レノ證據ヲ以テ實父ナリト思度スベキ定規モナカリシ故、動モスレハ  
 證據モナキ醜體ヲ顯ハスコト多カリシニ因リ、本條ニ於テ凡ソ人ヲ指シテ我父ナリト訴  
 出スルコトヲ禁スルヲ以テ、原則ト定メタルハ穩當ト謂ハサルヲ得ス、然レモ右ノ原則ハ  
 母ノ誘拐セラレタル場合ニ於テハ取除トス、強姦誑通モ亦誘拐ヲ以テ論ス、(誘拐ハ詐  
 僞謀計ニ出ルモ強迫ニ出ルモ其區別ナク、亦誘拐サレタル女ハ丁年ナリシト幼年ナリ  
 シトノ區別ナシ)故ニ第三百十二條ニ定メタル思度ニ循ヒ、母ノ誘拐サレタル時期若  
 クハ強姦誑通ノ時期ト、受胎ノ時期ト符合スルモハ、裁判所ニ於テ其母ノ素行ヲ觀察シ、  
 誘拐者即チ私生ノ子ノ父ナリト判決スルコトヲ得ベシ、  
 公正ナラサル書翰、若クハ他ノ書類中ニ一個ノ私生ノ子ヲ自ラ我子ナリト認ムルモ、固  
 ヲリ法律ノ定メタル定規ニ因ラス、私ニ爲ス認メナル故取消トス、然レモ心意上ノ務メ  
 チ充ルカ爲メ、私生ノ子ノ母ニ負ハシメタル損害ヲ償ヒ、若クハ其私生ノ子ニ養料ヲ給  
 スルコトニ付、全ク適意ノ契約ヲ結ビタル時ハ、此契約ハ正當ノモノトシ、且生存中ノ贈

遺チ正當ニ爲スカ爲メ、必要ナル法式ヲ免カル、何トナレハ畢竟此契約ハ、自然ノ義務  
 チ認ムルコトニ根據スレハナリト、千八百六十二年五月二十七日大審院ニ於テ判決シタ  
 リ、

第三百四十一條 私生ノ子人ヲ指シテ我母ナリト訴出スルコトハ之ヲ許ス人ヲ指シテ我母ナ  
 リト訴ル私生ノ子ハ其母ノ生ミシ子ニ相違ナキノ證據ヲ立ツ可シ但シ此事ニ付テハ書面ニ  
 據リテ其證ノ端緒アルニ非レハ證人ヲ以テ其證ヲ立ルコトヲ得ス(民三二二、ヨリ三三〇、  
 三三五、三四二、一三四七、訴二五二、二五三、)

私生ノ子人ヲ指シテ我母ナリト訴出スルコトヲ許スハ、父タルコト違ヒ、母タルコトハ懷妊  
 及出產等ノ外見スベク、且母ノ子ニ相違ナキノ確證トナリ得ベキ微憑ニ因テ顯然タ  
 レハナリ、然ルモ人ヲ指シテ母ナリト訴出スルコトハ、何レノ人ニ於テ之ヲ爲シ得ベキ乎、  
 抑此訴ヘハ金錢上ノ資益ノタメニ爲スヨリ、寧ロ心術上ノ資益ノタメニ爲スベキモノナ  
 ル故、私生ノ子自カラ、若クハ其後見人ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス、(千八百六十四年八  
 月十日大審院ノ裁決)且此權ハ假令私生ノ子ノ公生ノ子タリモ、若シ私生ノ子自ラ既ニ



此訴ヲ爲シ始メシ時ニ非サレハ、之ヲ相續スルヲ得ス、此事ニ付テハ論說頗ル多カリシカ、千八百六十一年七月二十九日大審院ニ於テ右ノ如ク判決シタリ、然ルニ一個ノ女法律ニ循ヒ認メサリシ私生ノ子ニ、己レノ遺産ノ全部(若クハ一部タリトモ、要スルニ法律上父母ノ其私生ノ子ニ贈遺スルヲ許シタル定分ヲ過クル時、第九百八條見合セ)ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲シタル時ハ、其女ノ相續人ニ於テ、遺産全部ノ贈遺ヲ第七百五十七條ニ定メタル割合ニ迄、減少セシムルノ目的ヲ以テ、其子ニ對シ其女即チ其母ナリト、訴出シ得サルヲハ勿論ナリ、人ヲ指シテ我實母ナリト訴出スルヲ得ベキ者ハ、單ニ其子ノミナリト雖モ、其子モ其母ノ記シタル證書、若クハ其訴訟ニ管シタル者ノ證書、若クハ既ニ死去シタリト雖モ若シ生存スルモハ其訴訟ニ管ス可キ者ノ證書ヲ以テ、證據ノ端緒(千三百二十四條見合セ)ト爲スニ非サレハ、其訴ヲ爲スヲ得ス、故ニ漫ニ人ヲ指シテ我實母ナリト訴出スルヲ防キ、人ノ名譽ヲ保護センカ爲メ、本條ニ於テハ婚姻ニ基キタル公生ノ子タルヲ證スルニ足ル可キ左ノ事項ヲ以テ、證據ト爲スヲ許サス、第一假令ヒ私生ノ子ノ出產ノ證書中ニ實母ナリト明記シタリト雖モ、實母ニ於テ出產

ノ申述ヲ爲ス者ニ、特ニ其母タルヲ述フベキ旨ノ公正ノ委任狀ヲ與ヘタル時ニ非サレハ、其出產ノ證書ヲ證據ト爲スヲ得サルヲ(第三百十九條見合セ)第二、千八百六十一年十二月十六日大審院ノ判決ニ據リ某私生ノ子タル景狀アルヲ、(第三百二十條見合セ)第三、某ノ私生ノ子タルノ思度若クハ明カナル徵憑アルヲ、右ノ如ク母ノ姓名ヲ記シタル出產ノ證書、私生ノ子タルノ景狀、思度及ヒ徵憑モ證書ヲ以テセサレハ其證ノ端緒ト爲スニ足ラスト雖モ、此等ノ事項備ハリタル時ハ、多少其證憑ノ端緒ヲ補成スルノ効アルハ論ヲ俟タス、

第三百四十二條 第三百三十五條ニ循ヒ私生ノ子ヲ我子ナリト認ムルヲ許サ、ル場合ニ於テハ其子人ヲ指シテ父又ハ母ナリト訴ルヲ許サス(民三四〇、七六二、)

第三十三十五條ニ於テ姦通亂倫ニ因リ舉ケタル子ヲ、我子ナリト爲スヲ禁セシ故、其子ヨリモ姦通亂倫ノ醜体ヲ露顯スベキ父母ヲ、探索指示スルヲ許サス、

○第八卷 養子ノ事及ヒ「チニテルオヒシニーズ」ノ事(千八百三年三月二十三日決定四月二日下達)



○第一章 養子ノ事

往古ノ諸國殊ニ羅馬ニ於テハ、養子甚ク許多ナリキ、養子ハ凡ソ家族中ニ於テ祖宗ノ祭典ヲ永遠不朽ニ保ツカ爲ニシテ、祭祀上ノ目的ヲ具備シタル制度ノ性質ヲ有セリ、耶蘇教ノ起ルコ及テ祭祀上ノ目的ハ廢物トナリシニ因リ、佛國ノ舊法制ニ於テハ養子ヲ許サ、リシニ、千七百九十二年七月十八日ノ法律ヲ以テ、革命政府之ヲ許シ、(然レモ其定規未タ備ハラサリシニ)「ナポレオン」法典ニハ其細目ヲ悉ク規定シタリ、然ルニ實際養子ノ行ハル、極メテ稀ニシテ、亦其有益ナルコトヲ見出サス、養子ニ三種アリ即チ尋常ノ養子、酬謝ノ養子、遺囑ノ養子(第三百六十六條見合セ)是ナリ、

○第一款 養子ヲ爲ス事及其効

第三百四十三條 男女ヲ問ハス其齡五十歳以上ニシテ養子ヲ爲スノ時子及公生ノ卑族ノ親ナク且養子トナス可キ者ヨリ十五歳以上ノ年長ナル者ニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(民三四四、三四五、三五五、三六六、)

養子ハ特ニ眞實ノ親タルノ諧樂ヲ有セサル者ヲ、想像上ノ親縁ニ因テ慰メノ爲メニ許

セシモノナレハ、之ヲ以テ婚姻ヲ疎遠ナラシメ、或ハ公生ノ子婦ニ加フベキ情愛ヲ他人ニ施サシムルヲ欲セス、故ニ猶ホ公生ノ子ヲ擧ケ得ベキ年齢ノ者ハ、決シテ養子ヲ爲スヲ得ス、又既ニ親生ノ子アル者養子ヲ爲スヲ得サルハ勿論トス、又私生ノ子アリテ其父母後ニ結婚シ公生ノ子ト爲シタル子、(第三百三十一條見合セ)若クハ結婚ノ禁アルコトヲ知ラス、正意ヲ以テ爲シタル婚姻ニ因リ擧ケタル子(第二百一條見合セ)アル時ハ、之ヲ以テ養子ヲ爲スコト妨クルニ足ル、然レモ我子ナリト認メタル私生ノ子ヲ有スル者、若クハ既ニ養子ヲ有スル者ハ、更ニ養子ヲ爲スヲ得、(第三百四十八條見合セ)但シ養子ヲ爲シタル者其後私生ノ子ヲ公生ノ子ト爲スカ、若クハ公生ノ子ヲ擧ルカノ時ト雖モ其前ニ爲シタル養子ハ其効力ヲ保有スベシ、

第三百四十四條 一人ニシテ親トナル可キ夫婦ノ外二人以上ノ養子トナル可カラス

第三百六十六條ニ記シタル場合ノ外夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非レハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(民三六一、)

養子ハ眞實ノ親縁ノ想像ヲ生スヘキ爲ナレハ、若シ一人ニシテ數人ノ養子タル時ハ、親



縁ノ想像ヲ大ニ薄クスベシ、之ニ反シテ夫婦共同一ノ者ヲ養子ト爲ス時ハ、親縁ノ想像  
モ愈厚ク十全ナルヘシ、養子ヲ爲シ却テ家内ニ紛擾不和ヲ生センコトノ恐レアルニ因リ、  
養子ヲ爲サント欲スル所ノ配偶者ハ、必ス其一方ノ配偶者ノ承諾ヲ得ルヲ要トセリ、然  
レトモ夫ハ養子トナルカ爲メニ其婦ノ承諾ヲ必要トセサレトモ、婦ハ其夫若クハ裁判所ノ  
許可ヲ得ルニ非サレハ養子トナルヲ得ス、

第三百四十五條 養子トナル可キ者ハ幼年ノ時六年以上ノ時間絶エズ養親トナル可キ者ヨ  
リ資助照管ヲ受ケ又ハ戰鬪及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ事アル  
ヲ必要トス但シ戰鬪及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ者ヲ養子ト爲  
スニハ養親トナル可キ者丁年ニシテ子及ヒ公生ノ卑屬ノ親ナク且養子トナル可キ者ヨリ  
年長ニシテ配偶者アル時ハ其配偶者其養子ヲ爲スヲ承諾シタルコトヲ以テ足レリトス(民  
三四四、三六六、三六七、三八八、)

抑養子ハ一度其結縁ヲ爲ス時ハ、不動不易ノ關係ヲ生スル重大ノモノナレハ、養子タル  
ベキ者ト養親タルヘキ者ト雙方ノ間、互ニ實義ニシ且永續スヘキ情愛ノ存スヘキヤ否

ヲ試験スル爲メ、先ツ豫定ノ時間ヲ與フルヲ要ス、然レモ養子トナルヘキ者、己レノ身  
命ヲ抛テ養親タルヘキ者ノ性命ヲ救ヒシ時ハ、六年間絶エズ資助照管ヲ爲スヘキ試験  
ノ時間ハ必要トセス、實ニ斯ノ如キ信切ヲ受ケタルニ因リ、養親タルヘキ者ノ感スル所  
ノ恩義ハ、以テ雙方ノ情愛ノ親密ナル明證ト爲スニ足ル、故ニ尙ニ六年ノ試験ヲ要セサ  
ルノミナラス、養親タルヘキ者五十歳ノ齡ニ至ラサルモ可ナリトス、此養子ヲ名ケテ酬  
謝ノ養子ト稱ス、何トナレハ養親タルヘキ者ハ、之ヲ以テ己レヲ救ヒシ者ノ恩義ヲ償ハ  
ント欲スレハナリ、本條ニ記列シタル三個ノ場合ヲ以テ限リトスルニ非ス、只立法者ノ  
考旨ヲ示シタルノミ、故ニ人ノ隨意ニ其身命ヲ抛テ信切ヲ施シ、強賊ニ襲ハレ若クハ  
傳染病ニ罹リタル人ヲ扶救シタル所ノ者ノ如キハ、酬謝ノ養子ト爲シ得ベキコト、一般人  
ノ聽ル所ナリ、

本條ノ適施上ニ付三個ノ疑問ヲ生シタリ、第一、外國人ハ佛國ニ於テ嚴格ナル養子ノ契  
約ヲ取結フ一方ノ者トナリ得ベキ乎ノコト、大審院ハ毎ニ之ヲ否ト決シタリ、其著名ナル  
千八百二十六年六月七日ノ裁決ニ曰ク、抑養子ノ事タルヤ、自然法ニモ亦萬國公法ニモ



屬セスレテ、全ク民法ニ屬ス、故ニ養子ヨリ生スル一切ノ關係ハ、同一民法ヲ遵守スル者ノ間ニナラテハ、其效ヲ生シ得サルコトハ、必然ノ道理ナリ、依之國民ノミ特リ養子ヲ爲スチ得且養子トナルヲ得ト、第二、私生ノ子ヲ我子ナリト認メタル所ノ者ハ、隨テ之ヲ養子ト爲スチ得ベキ乎ノコト、此コト付テハ論說多シト雖ヒ、大審院ニ於テ姦通亂倫ノ子ヲ公生ノ子ト爲スコトハ勿論、我子ナリト認ムルコトモ亦養子ト爲スコトモ得サレヒ、(第三百三十五條三百三十一條見合セ)我子ナリト認メ得且公生ノ子ト爲スチ得ル所ノ尋常ノ私生ノ子ハ、之ヲ認メタル者ニ於テ養子ト爲スチ得、之ニ因テ其子ハ養親ノ遺物相續ノコト付テハ、公生ノ子タル一切ノ權利ヲ得ヘシ、何トナレハ何レノ法律ノ章條モ何レノ法制ノ原則モ、此事ニ付其子ヲ權力ナキ者ト爲サ、レハナリト辨明セリ、其千八百六十年六月三日ノ裁決ニ曰、民法ノ第三百四十三條ノ私生ノ子アルヲ以テ養子ヲ爲スノ故障ト爲サストノ義解ハ、只其文章ニ相適シタルノミナラス、其精義ニ於テモ亦適當セリ、抑養子ト爲スコトハ私生ノ子ノ爲メニ身上變遷ヲ來タシ之ヲ公生ノ子ニ相准ス云々、第三、「カトリック」宗ノ僧徒ハ養子ヲ爲スチ得ヘキ乎ノコト、大審院ハ千八百四十二

年四月十九日ノ裁判ヲ以テ之ヲ可ト判決セリ、其文ニ曰、「ナポレオン」法典及羅馬法皇ト佛國トノ條約書及教法中ニモ、凡ソ國ノ法律ト認メ且布告ナタルモノ、中ニ、「カトリック」宗ノ僧徒ニ養子ヲ禁セシコトナク、且養子ヲ爲スノ諸要件ヲ具備スル時ハ、一般國民ノ有スル所ノ養子ノ權利ヲ失ハシムベキノ明文モナシ云々、此判定ハ千八百四十六年十一月二十六日ノ裁決ヲ以テ、猶ホ固定シタルカ故、今日裁判事例及訓條モ皆悉ク之ニ基ケリ、然レヒ本來「カトリック」宗ノ僧徒養子ヲ爲スコトハ、其宗法ノ精義ニ相觸ル、モノナリト云ハサルヲ得ス、

第三百四十六條 何レノ場合ニ於テモ養子トナル可キ者未ダ丁年ニ至ラサル時ハ養子トナスコト得ス○若シ養子トナル可キ者其父母共ニ生存シ又ハ父母ノ中一人生存シテ己レノ齡未ダ滿二十五歳ニ至ラサル時ハ其者ヨリ其父母又ハ父母中ノ生存スル者ニ養子トナル可キコトノ許諾ヲ乞フ可シ又二十五歳以上ノ者タル時ハ父母ノ存意ヲ聞ク可シ(民一四八、一四九、一五一、一五四、三六六、三六七、三八八、)

養子ハ養子トナルベキ者ノ爲メ重大ナル關係アリ、即チ其姓ヲ變シ(己レノ姓ヲ全ク失



フニハ非ス、己レノ姓ト養親ノ姓ト合セ唱フルナリ(其身上テ更タメ、且其養父ニ於テ養料ヲ要スル時ハ、之ヲ給スベキノ義務ヲ生ス、是養子トナルベキ者丁年ニシテ、且其父母ノ許諾若クハ存意ヲ聞クヲ必要トスル所以也、一體養子ノ事ハ婚姻ノ事ニ比スレハ其法律稍嚴ナリ、蓋シ第一、婚姻ハ女滿十五歲男ハ滿十八歲ニ至リ、其指揮ヲ受クベキ者ノ許諾ヲ得レハ之ヲ爲スヲ得、(第百四十四條見合セ)然ルニ養子トナルヘキ者ハ、必ス丁年即チ滿二十一歲ニ至ラサレハ養子トナルヲ得ス、第二、滿二十一歲ニ至リシ女ハ、結婚ノ爲メ其父母ノ許諾ヲ得ルヲ必要トセス、只タ三回尊敬ノ證書ヲ呈シテ其存意ヲ聞クヲ要スルノミ、(第百四十八條百五十一條百五十二條見合セ)然ルニ養子トナルカ爲ニハ、男女共滿二十五歲ニ至ルマテハ、其父母ノ許諾ヲ得ルヲ必要トス、第三、幼者ノ婚姻ニ付父ト母トノ間ニ異議アル時ハ、父ノ許諾ノミヲ得ルヲ以テ足レリトス(第百四十九條見合セ)然ルニ未ダ滿二十五歲ニ至ラサル所ノ者、養子トナルコト付テハ母ノ許諾モ亦必要トス、然レモ養子トナルヘキ者ハ、其父母ノ外他ノ尊屬ノ親ノ許諾若クハ存意ヲ聞クヲ要トセス、且二十五歲以上ノ者ハ、只タ一回其父母ニ尊敬ノ證

書ヲ呈スルノミヲ以テ足レリトス、

第三百四十七條 養子トナリタル者ハ己レノ姓ニ養親ノ姓ヲ帶用ス可シ(民三四八、三四九)

婚姻シタル婦若クハ寡婦養子ヲ爲ス時ハ、養子ニ其夫ノ姓ヲ帶用セシムルコトナク、己レノ本姓ヲ帶用セシム、

第三百四十八條 養子トナリタル者ハ猶其實家ニ住止シ且實家ニ於ケル諸般ノ權利ヲ保ツ可シ但シ左ノ者等ハ互ニ婚姻ヲ結フコトヲ禁ス

養親ト養子トノ間及ヒ養親ト養子ノ卑屬ノ親トノ間並ニ養子ト養親ノ卑屬ノ親トノ間

養子トナリシ者等ノ間  
養子ト養親ノ養子ヲ爲シタル後ニ産ミタル子トノ間  
養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ養子、養子ノ配偶者トノ間(民一六一、一六二、一八

四、三五〇、)



養子ハ其實家ニ住シ、且其實家ニ於テ有スベキ一切ノ權利ヲ保ツノミナラス、猶ホ其一切ノ義務ヲモ保ツナリ、故ニ養子ニ於テ結婚セントスル時、其父母ノ許諾ヲ乞ヒ若クハ存意ヲ聞クコトハ、其養親ニ對シテ爲スニ非ス、其實父母ニ對シテ爲スベキナリ、抑養子タルコトモ亦他ノ契約及裁判申渡ト等ク、之ニ管セシ雙方ノ間ニノミ其効ヲ生スベシト雖ヒ、立法者豫メ結婚ノ禁制ヲ設ケ、之ヲ犯シテ結ヒタル婚姻ハ本ヨリ取消ト爲セリ、蓋シ立法者此禁制ヲ設ケ、以テ養子ト養家トノ間ノ篤行良俗ヲ保護シ、想像上親子タルノ結縁ヨリ生スル親密ノ交際、却テ醜惡ナル所行ヲ掩蔽スルノ媒トナランコトヲ豫防セント欲シタルナリ、

第三百四十九條 法律上ニ定メタル場合ニ於テ子タル者其父母ニ養料ヲ給ス可ク又父母ニ其子ニ養料ヲ給ス可キ天成ノ義務ハ養親ト養子トノ間ニ於テモ亦互ニ之ヲ行フ可シトス(民二〇三、ヨリ二〇五、三〇八、ヨリ二一〇、)

養子トナリタリヒ、其本然ノ血屬ノ間ノ一切ノ權利義務ハ固ヨリ保存スルモノナレハ、其尊卑兩屬ノ親相互ニ養料ヲ給スヘキノ義務ノ消滅セサルノミナラス、之ヲ減損スル

コトモナキモノトス、(第二百五條二百七條見合セ)然ルニ想像上ノ親縁ヲ創成スルモノナレハ、其效ハ甚ク狭少ナルニモセヨ、養親ト養子トノ間ノミニ於テ、相互ニ養料ヲ給スヘキノ義務ヲ生セシム、然レヒ此義務ハ養親子相互ノ外他人ニ相及ホスコトナシ、

第三百五十條 養子ハ養親ノ血屬ノ親ノ遺物相續ヲ爲スノ權ナシ然レヒ養親ノ遺物相續ヲ爲スニ付テハ婚姻ニ因リ生レタル子タルト同一ノ權ヲ有ス可ク且其養子トナリシ後ニ養親ノ實子ヲ擧ケタル時ト雖ヒ亦其實子ト同シク遺物相續ヲ爲スノ權アリ(民三五五、三五二、七三一、七三二、七四五、九一三、九一四、九六〇)

養子ノ事タルヤ、養子ノ身上ニ付親族ノ變遷ヲ爲スモノニ非ス、特ニ其契約ヲ爲ス養親ト養子トノ間ニノミナラデハ、其效ヲ生シ得サルモノナル故、養親ノ父母其他ノ血屬ノ親ノ遺物相續ヲ爲スノ權利ヲ養子ニ授クルコトナク、只其養親ノ遺物相續ノコトノミニ付テハ、公生ノ子ト同一ノ權利ヲ享有ス、因テ若シ養親養子ヲ爲シタル後擧ケタル公生ノ子、若クハ尊屬ノ親、兄弟姉妹、若クハ其他ノ傍系ノ親ヲ遺留シテ死去シタル時ハ、養子ハ公生ノ子ト共ニ遺物相續ヲ爲シ、以テ尊屬及傍系ノ親ヲ除去シ、公生ノ子ト等ク第九



百十三條ニ因リ、養親ノ遺留若クハ人ニ贈遺シタル財産ノ全部中、幾許ノ定分ヲ得ルノ權利アリ、然レモ養子ハ全ク公生ノ子ニ准シ難キコトアリ、即公生ノ子アル者ハ養子ヲ爲スヲ得サルコトハ、前第三百四十三條ニ於テ明カナリ、又既ニ養子アル者猶ホ養子ヲ爲シ得ルコトハ、第三百四十八條ニ於テ、養子トナリシ者相互ニ結婚スルヲ禁スルノ文ニ因テ明カナリ、又卑屬ノ親ヲ有セサル者ノ爲シタル生存中ノ贈遺ヲ爲シタル後、公生ノ子ノ生レシ時ハ、當然其贈遺ハ廢棄シタル者トナスコトハ、第九百六十條ニ於テ明カナリ、生存中ノ贈遺ヲ爲シテ後ニ養子ヲ爲スモ、之レカ爲メ其贈遺ヲ受ケシ者ノ權利ヲ妨害スルコトナシ、又公生ノ子ハ其父ノ爲シタル生存中ノ贈遺、縱ヒ己レノ出產ノ前ニアリモ、己レノ相続スベキ法律上ノ定分ニ充ル迄、其贈遺ノ高チ減少セシメ得、然ルニ養子ハ其養親ノ生存中ニ贈遺シタル財産ノ價格ヲ其遺留財産中ニ算入シ、其總高中ヨリ己レノ相続スヘキ定分ヲ算定シ得ヘケレモ、其養子トナリシ前ニ養親ノ爲シタル贈遺ヲ減少セシムルコトヲ得サルノ類也、(本條ニ養子ハ養親ノ遺物相続ヲ爲スニ付テハ、婚姻ニ因リ生レタル子ト同一ノ權利ヲ有スヘシト明記シタルハ、養子ハ實子ノ如ク其養親ノ遺物

相続ニ付キ、法律上ノ定分ヲ得ヘキ權利アルニ因リ、其權利ニ相觸ル、所ノ贈遺ハ之ヲ減少セシメ、以テ之ヲ遺物中ニ加入シ、公生ノ子ノ有スヘキ割前ヲ相続スヘキコト疑フヘキナシ、然ルニ遺物相続上ニ付全ク公生ノ子ト同一ナラストノ説ハ、畢竟養子ハ子ノ分限ヲ授與スル道德上ノ目的ニシテ、之ニ因テ金錢上ノ權利ノ發生スルハ、第二ノ目的ナリト云テ誤解シテ、養子ハ全ク遺物相続ノ爲メ爲シタル金錢上ノ約定ニシテ、恰モ生存中ノ贈遺ヲ受ケシ者ノ如シ、後ニ贈遺ヲ受ケシ者ニ於テ、前ニ贈遺ヲ受ケシ者ノ權利ヲ妨クルノ條理アリヤト了解シタルニ因ルナラン、)

養子養親ヨリ前ニ死去シタル時ハ、養子ノ子代ツテ、養親ノ遺物相続ヲ爲スヘキ手ノ疑議アレモ、予輩ハ千八百二十二年十二月二日ノ大審院ノ裁決ニ反對シテ、養子ノ子ハ養親ノ遺物相続ヲ爲スノ權ナシ、因テ法律ニ定メタル順次ニ從ヒ、養親ノ遺物相続ハ其血屬ノ親ニ於テ爲スヘキコト思考ス、羅馬法ニ於テハ養子ノ公生ノ子ハ、其父ニ代リ養親ノ遺物相続ヲ爲スヲ得ルノ定規ナレモ、此定規ハ佛蘭西法ト全ク其原理ノ異ナリシニ因ルナリ、蓋シ羅馬法ニ於テ養子ハ、其實家ニ在テノ一切ノ權利ヲ失ヒ、全ク養親ノ家



族トナリテ其指揮ヲ受ケ、己レ及其子ノ有シ且有スヘキ一切ノ財産權利ハ、皆悉養親ノ所有ニ歸セリ、故ニ養子ノ子モ其父ニ代リ、養親ノ遺物相續ヲ爲シ得ヘキト定メシハ至當ナリ、然レモ養子ノ子後見ヲ免カレ養家ヲ離ル、時ハ、其父ニ代リテ養親ノ遺物相續ヲ爲スノ權利ヲ全ク失ヒタリ之ニ反シテ佛蘭西法ニ於テハ、養子ハ其實家ニ在リテ其權利財産モ亦皆之ヲ保ツ(第三百四十八條見合セ)故ニ法律ニ正條モナキニ於テハ、養子ノ公生ノ子ハ、一般ノ相續法ニ違ヒ、養親ノ公正ノ血屬ノ相續權ヲ除去セシムヘキノ情義正理ヲ見出サス、

第三百五十一條 若シ養子トナリタル者公生ノ卑屬ノ親ナク死去セシ時當テ養親ヨリ養子ニ與ヘタル物又ハ養子ノ養親ヨリ遺物相續ニ付キ得タル物其儘現存スルコ於テハ養親又ハ其卑屬ノ親之ヲ取返ス可キノ權アリ但シ此權ト他人ノ得タル權ト相觸ル、トナク且養親又ハ其卑屬ノ親此權ヲ行フニ付テハ其取返シタル財産ノ割合ヲ以テ其養子ノ負債ヲ償フ可シ

前ニ記シタル物件ノ外養子ノ有シタル財産ハ其死去ノ時其實家ノ血屬ノ親ニ屬ス可シ又

其實家ノ血屬ノ親ハ前ニ記シタル物件ニ付テモ養親ノ卑屬ノ親ニ非サル遺物相續人ヲ除テ之レヲ得可キノ權アリ(民三五二、七四七、七六六、)

養子トナリシ者ハ、養親ノ遺物相續ヲ爲スヘシト雖モ、己レノ遺産ハ其養親ニ傳フルコナク、其固有ノ血屬ノ親ニ傳フルナリ、然レモ養子トナリシ者、公生ノ卑屬ノ親ヲ遺留スルコナク死去シタル時、養親ニ於テ己レノ贈與シタル物件、養子トナリシ者ヨリ之ヲ他人ニ贈遺セシコナク、猶ホ其儘存シタルニ於テハ、之ヲ取戻スノ權アリ、此權ハ其卑屬ノ親ニ移スコト得ルト雖モ、書入質土地ノ義務(セルビチユード)其他他人ノ既ニ有シタル權利ハ、之ヲ保護セザルヘカラス、若シ養子トナリシ者、養親ヨリ贈與セラレタル物件ヲ賣拂ヒタル時ハ、第七百四十七條ノ例ニ倣ヒ、養親ニ於テ其賣拂ヒタル物件ノ代價トシテ猶ホ請取ルヘキ物、若クハ義務ヲ解除スル未必ノ條件ニ關シタル訴(アクシヨソレヅリニトアル)及契約取消ノ訴ノ如キ、凡ソ養子ノ他人ニ對シテ物ヲ取還スヘキ訴ヲ爲スノ權ハ、總テ養親及ヒ其卑屬ノ親ニ屬ス、凡ソ他人ニ對シ物ヲ取還スノ權ハ、未必ノ條件ニ關シタル訴ヲ爲スノ權ニ非スシテ、只不規則ナル遺物相續ノ權利ナル



ノミ、何トナレハ此權利ハ、一般ノ相続法ノ一個ノ取除ケト爲セハナリ、又養親ニ於テ已レノ贈與シタル物件ヲ取戻スニ付、養子トナリシ者他人ト契約シテ定メタル權利ヲ保護スヘキノミナラス、猶ホ養子トナリシ者ノ負債ニ付テハ、財産ノ全部ノ遺囑贈遺ヲ受ケタル者ト等シク、己レノ取戻ス所ノ財産ノ價額ニ應シテ、之ヲ補償セサルヘカラズ、因テ己レノ取戻ス所ノ財産、遺物ノ三分一ノ價額ニ均シキ時ハ、養子トナリシ者ノ負債ノ三分一ヲ引負ハサルヘカラズ、夫レ養親ニ於テ己レノ贈與シタル物件ヲ取戻シ得ルコトハ、其養子トナリシ者、公生ノ卑屬ノ親ヲ遺留セサリシ時ニ限ル、若シ養子トナリシ者ノ養子アル時ト雖ヒ、猶ホ之ヲ取戻シ得ヘキヤノ疑問アリ、本條ニ於テハ公生ノ卑屬ノ親トノミ明記シタレヒ、前第三百五十條ニ於テ、遺物相続ノコトニ付テハ、養子モ實子ト同一ノ權アリト云ヘルヲ以テ、之ヲ視レハ本條モ、養子アレハ養親其贈與シタル物件取戻ノ權ハアラサルヘシ、

第三百五十二條 若シ養親ノ生存中ニ養子ノ死去シ其後其養子ノ遺留セシ子及ヒ卑屬ノ親モ亦子孫ナク死去シタル時ハ其養親前後ニ記セシ如ク嘗テ養子ニ與ヘタル物件ヲ取返ス

可シ然レ此權ハ養親ノ一身ノミニ限ルモノニシテ其遺物相続人ハ卑屬ノ親ト雖ヒ其權ヲ讓リ受ク可カラス(民三五、七四七、)

養子トナリシ者ノ卑屬ノ親、子孫ヲ遺留スルコトナク死去セシ時ハ、養親ニ於テ己レノ贈與シタル物件ヲ相続スルノ權ハ、全ク己レ一身ノミニ屬シテ其子孫ニ及フコトナシ、故ニ子孫ニ於テハ、養子トナリシ者更ニ公生ノ子孫ヲ遺留スルコトナク死去シタル場合ニ非サレハ、其父ノ贈與シタル物件ヲ相続スルコトナシ、(要スルニ養親ヨリ贈與シタル財産ノ全部、其養子トナリシ者ノ實家ノ尊屬ノ親、若クハ傍系ノ親ノ相続スル所トナルヘキ時ニ非サレハ、養親ハ之ヲ取戻スコト得ス、)

○第二款 養子ヲ爲スノ法式

第三百五十三條 養子ヲ爲サントスル者及ヒ養子トナラントスル者ハ相與ニ養子ヲ爲サントスル者ノ住所ノ治安裁判官ノ面前ニ至リ雙方互ニ養子ノ事ヲ承諾スル證書ヲ作ル可シ(民一〇三、三四三、三四四、三五四、三五五、三六三、)

養子ヲ爲サントスル者及養子トナラントスル者ノ雙方、互ニ其意ヲ表スルコトハ、養子ヲ



爲サントスル者ノ住所ノ、治安裁判官ノ面前ニ於テス、蓋シ養親子ノ縁義ヲ生スル地ハ此裁判官ノ管下ニ在レハナリ、養親タルヘキ者ノ配偶者ハ、其實養子ヲ爲サントスル者ニ非ス、又養子トナラントスル者ニモ非ス、故ニ法律上必要トセシ其承諾(第三百四十四條見合セ)ハ、養子ノ事ヲ可否スル初告裁判所ニ向テモ亦猶ホ正當ニ其承諾ヲ顯ハシ得、(千八百六十一年五月一日大審院ノ裁決)

第三百五十四條 此證書ノ副本ハ其時ヨリ十日内ニ先ニ手續ヲ爲ス者(養親養子トナラントスル一方ノ者)ヨリ養子ヲ爲ス者ノ住所ヲ管轄スル初告裁判所詰ノ檢事ニ出シ其裁判所ノ許可ヲ得ント求ム可シ(民一〇二、三四三、三四四、三五五、三五六)

本條ニ定メタル十日ノ期限ハ不動不易ノモノトス、故ニ養子ヲ爲サントスル者、及養子トナラントスル者ノ雙方、治安裁判官ノ面前ニ於テ作りタル證書ノ副本ヲ、十日内ニ檢事ニ捧ケサルニ於テハ、其證書ハ取消トナル、若シ猶ホ其養子ノ事ヲ成就セントスルハ、更ニ治安裁判官ノ面前ニ於テ其證書ヲ作ルヲ要ス、

第三百五十五條 裁判官ハ會議ノ室ニ集會シ相當ノ調査ヲ爲シタル後養子ノ事ニ付キ法律

上ニ定メタル規則ニ循ヒシヤ又養子ヲ爲サントスル者ニ惡名ナキヤヲ取調フ可シ(民三四三、三四四、三五六)

裁判官此取調ヲ爲スハ、證人ヲ呼出シテ爲スニ非ス、又訟庭ニ於テスルニ非ス、必ス秘密ノ會議ノ室ニ於テス、蓋シ立法者彼ノ養子ノ事ニ付、或ハ養子ヲ爲サントスル者ノ名譽ヲ汚シ、且養子トナラントスル者トノ間ニ存スル厚誼ヲ損スヘキ論辨ヲ公ケニ爲スヲ避ケント欲シテナリ、

第三百五十六條 裁判所ニ於テハ檢事ノ述フル所ヲ聽キタル上別ニ手續ヲ爲スヲナク且別ニ其趣意ヲ述フルヲナク唯養子ヲ聽ルス又ハ養子ヲ聽ルサスト言渡ス可シ(訴八三、)

世治風俗ノ保護人タル檢事ハ、法律上ニ定メタル諸要件及法式ノ具備スルヤ、否ヲ監査シ、雙方ノ身上ニ變更ヲ來タス所ノ養子ノコトニ付、己レノ意見ヲ述フ、然レモ裁判所ニ於テ養子ノ願ヲ聽ルシ、若クハ聽ルサ、ルモ、之カ爲メ其裁判ノ趣意ヲ示スヲナシ、

第三百五十七條 初告裁判所ノ言渡ヨリ一月内ニ先ニ手續ヲ爲ス者ヨリ其言渡書ヲ上等裁判所ニ出ス可シ上等裁判所ニ於テハ初告裁判所ト同一ノ方法ヲ以テ吟味ヲ爲シ其趣意ヲ



述フルコナク唯初告裁判所ノ言渡ヲ可トス因テ養子ヲ聽ルス又ハ初告裁判所ノ言渡ヲ改  
○因テ養子ヲ聽サスト言渡可シ(民三五四、三五五、三五八、)

養子ノ事ヲ聽ルシ若クハ聽サ、ル所ノ初告裁判所ノ言渡ハ、一ヶ月内ニ上等裁判所ニ  
出スヲ要ス、第三百五十四條及本條ニ定メタル期限ヲ經過スル時、養子ヲ爲サントスル  
者及養子トナラントスル者ノ雙方ニ於テ、抗拒スヘカラサル事故ノ爲メナリシコト證  
セサルニ於テハ、從前ノ手續ハ悉皆取消トナリ、更ニ諸手續ヲ爲サ、ルヲ得ス、

第三百五十八條 上等裁判所ニテ養子ヲ爲スコト聽ルス言渡ハ公ケニ之ヲ爲シ且上等裁判  
所ニテ相當ト思量スル場所ニ其言渡書ノ寫ノ相當ノ數ヲ貼附ス可シ(民三五七、)

養子ノ事ニ付初告裁判所ノ言渡シ、上等裁判所ニ於テ其願ヲ聽ルサ、ルノ言渡ハ、皆訟  
庭ニ於テセス、ト雖モ上等裁判所ニ於テ養子ヲ許可スル時ハ、必ス訟庭ニ於テ其言渡ヲ  
爲シ又之ヲ公告ス、蓋シ養子ヲ爲サントスル者及養子トナラントスル者ノ間ニ、新ニ生  
スベキ關係ハ、世人ノ之ヲ知ルコトヲ緊要ト爲セハナリ、但シ其願ヲ許可セサル上等裁判  
所ノ言渡ハ、之ヲ大審院ニ上告スルコトヲ聽ルサス、

第三百五十九條 其言渡ノ時ヨリ三月内ニ養子トナリタル者又ハ養子ヲ爲シタル者ノ願ニ

テ養子ヲ爲シタル者ノ住所ノ身上證書ノ簿冊ニ養子ノ事ヲ登記ス可シ  
此登記ヲ爲スニハ上等裁判所ノ言渡書ノ法ニ適シタル寫ヲ點視スルコトヲ必要トス但シ三  
月ノ定期内ニ其登記ヲ願フコトナキ時ハ養子ノ事ヲ聽ルシタル言渡ノ効ナカル可シ(民四  
〇、一〇一、)

養子ヲ聽ルシタル上等審院ノ言渡書ヲ、養子ヲ爲シタル者ノ住所ノ身上證書ノ簿冊ニ  
登記セシムルコトナク、三ヶ月ヲ經過セシ雙方ノ者ノ怠慢ニ因リ、養子ノ事ハ取消トナル、  
若シ必ス其事ヲ成就セント欲セハ、更ニ諸般ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス、身上證書ニ上  
等審院ノ言渡書ノ法ニ適シタル寫ヲ點視シテ登記スベキヲ、若シ誤テ尋常ノ寫ヲ視テ  
登記シタリヒ取消ト爲スヘカラス、何トナレハ本條ニ於テ取消ト爲スノ明文ナキヲ以  
テナリト、千八百六十三年四月一日大審院ニ於テ裁決シタリ、

第三百六十條 若シ養子ヲ爲サントスル者養子ノ契約ヲ爲ス可キ意ヲ表スル證書ヲ治安裁  
判官ノ面前ニテ作り之ヲ初告裁判所ニ出セシ後其裁判所ニテ未タ確定ノ言渡ヲ爲サ、ル



前養子ヲ爲サントスル者死去シタル時ハ猶ホ其事ノ吟味ヲ爲シ聽ルス可キノ道理アル時ハ之ヲ聽ルス可シ

若シ養子ヲ爲サントスル者ノ遺物相續人等養子ヲ爲スヲ聽ス可カラスト思量スル時ハ檢事ニ其養子ヲ爲ス事ニ付キ故障ヲ述フル書類ヲ出シ且其意ヲ述フルヲ得可シ(民三五三、三六六、七二四)

養子ヲ爲サントスル者、及養子トナラントスル者、治安裁判官ノ面前ニ於テ、養子ノ契約ヲ爲サントスルノ意ヲ表シタルニ於テハ、雙方ノ契約ハ既ニ濟タルナリ、他ノ法式ハ畢竟上等裁判官ノ認許ヲ受クルニ過キサレハ、縱ヒ養子ヲ爲サントスル者死去ノ後タリヒ、之ヲ爲スニ妨ケナシ、然レヒ養子ヲ爲サントスル相續人ハ、養子ノ願ヲ聽サザラシメンカ爲メ、相當ノ趣意ヲ述ヘタル書ヲ檢事ニ出スヲ得、

本條ニ養子ノ願、吟味中養子トナラントスル者ノ死去シタル場合ノヲ掲ケサリシハ、假令養子トナラントスル者子孫アリトモ、最早養子ヲ聽ルスヘキノ道理ナキモノトシテ之ヲ不問ニ措キシナリ、

養子ヲ爲サントスル者死去シタル後其相續人ニ於テ、養子ノ事法律ニ定メタル規則ニ背キタリト思量スルニ於テハ、三十年間ハ其訴訟ヲ爲スヲ得ヘシ、然レヒ相續人ハ、固ヨリ養子ノ契約ニ關係セシモノニ非サルヲ以テ、養子ニ對シ必ス初告裁判所ニ向テ、一個ノ本訴訟ヲ爲スヲ要ス、

○第二章 「チユテルオヒシユーズ」ノ事

「チユテルオヒシユーズ」トハ、一個ノ人一個ノ幼者ヲ養育シ、其財産ヲ管理シ、且後日ニ至リ之ヲ養子ト爲スヘク、若シ然ラサル時ハ、之レニ生計ノ方法ヲ授クヘキノ義務ヲ、其償ヒヲ得スシテ盡スベキ端嚴ナル契約ナリ、抑「チユテルオヒシユーズ」ハ三箇ノ性質ヲ具フ、第一、「チユテルオヒシユーズ」ノ契約ハ恩惠ノ契約ナルヲ、蓋シ「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者ハ、自己ノ費用ヲ以テ其幼者ヲ養育スヘクシハナリ、第二、「チユテルオヒシユーズ」ハ後見ナルヲ、蓋シ「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者ハ、幼者ノ財産ヲ管理シ、且其入額ハ其元金ト爲サ、ルヲ得ズ、抑一般後見人ノ如ク後見ノ監察人アリテ、且己ノ不動産ハ之ヲ管理ノ保證トシテ法律上ノ書入質ト爲セハナリ、第三、「チユテルオヒシユーズ」



「ズ」ハ養子ノ用意ナルヲ、故ニ之カ爲メ像メ爲スヘキ要件ヲ爲サ、ルヲ得ス、

第三百六十一條 五十歳以上ニシテ子及ヒ公生ノ卑屬ノ親ナキ者幼者ヲ法律上ノ名義ニテ己レニ依附セシメント欲スル時ハ其幼者ノ父母又ハ父母中ノ生存スル者又ハ父母共ニナキ時ハ其親族ノ會議又其幼者ニ分明ナル親族アラサル時ハ其幼者ノ住スル孤院ノ支配人又ハ其住地ノ邑ノ官吏ノ承諾ヲ得テ其子ノ「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス人トナルヲ得可シ(民三四三、三四六、三六一、三六三、三八八、四〇五、四〇六、)

「チユテルオヒシューズ」ヲ爲スヘキ夫婦ノ間ニ異議アル時ハ、決シテ爲シ得ヘカラス、婚姻ノヲニ付父母ノ間ニ異議アル時ハ、父ノ承諾ヲ以テ足レリト(第四百十八條)スル規則ハ、本條ニ適施スヘキノ道理ナシトス、

第三百六十二條 夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得シテ「チユテルオヒシューズ」ヲ爲スヲ得ス(民三四四)

「チユテルオヒシューズ」ヨリ生スベキ償ヲ得サル義務及ヒ關係ハ、夫婦中ニ紛擾ヲ來シ得ヘキカ故、本條ノ定規ヲ要シタリ、

第三百六十三條 幼者ノ住所ノ治安裁判官ハ「チユテルオヒシューズ」ニ管シタル請求及ヒ承諾等ヲ調書ニ記ス可シ(民一〇二、一〇三、三五三、)

養子ノ「コ」ニ付テノ承諾ハ、養子ヲ爲サントスル者ノ住所ノ治安裁判官ニテ之ヲ證スト雖モ「チユテルオヒシューズ」ニ付テノ承諾ハ、幼者ノ住所ノ治安裁判官ニテ之ヲ證ス、

第三百六十四條 「チユテルオヒシューズ」ヲ受クル者ハ十五歳以下ノ幼者ニ限ル可シ

「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス時ハ其幼者ノ養育ヲ爲シ且生計ヲ爲スノ道ヲ得セシム可キノ義務アリトス但シ此規則ト別段ノ契約ト相觸ル、コナカル可シ(民二〇三、三六五、三六七、三六九、一一三四、)

別段ノ契約トハ多ク「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者ニ於テ、養子ト爲シ得サル場合ニ於テ、幼者ニ贈與ヲ爲スヘキノ契約ヲ云、

第三百六十五條 其幼者財産ヲ所有シ且以前後見テ受ケ者タル時ハ其財産支配ノ事及ヒ其身ヲ指揮スルノ權ヲ其「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者ニ移ス可シ然モ「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者ハ其幼者ヲ養育スルノ費用ヲ其幼者ノ入額中ヨリ取用サル可カラズ



(民三六四、三八九、四五〇、四五四、四五五、四六九、)

「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者ハ、法律上ニ於テ父母幼者ノ財産ヲ管理シ、其入額ヲ所得ト爲スカ如クナルヲ許サス、

第三百六十六條 若シ「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ滿五年ノ後ニ至リ其幼者ノ未ダ丁年ニ至ラサル中自カラ死ス可キヲ先知シ遺囑書ヲ以テ其幼者ヲ養子ト爲サントスル時公生ノ子ナキニ於テハ其遺囑書ニ循ヒ之ヲ養子ト爲スヲ得可シ(民三四三、三四六、六四七、ヨリ三五二、三六七、)

遺囑書ヲ以テ正當ニ養子ヲ爲スカ爲ニハ、三個ノ要件ヲ具備セサルヘカラス、第一、「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者ニ公生ノ子ノ非サルヲ、第二、其者「チユテルオヒシユーズ」ヲ受クル者ノ丁年ニ至ラサル前ニ死去シタルヲ、第三、「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲シ始メシヨリ遺囑書ヲ爲シタル期日迄ニ、少クヒ五年ヲ經過シタルヲナリ、又遺囑ノ養子ノハ、遺囑者ヨリ「チユテルオヒシユーズ」ヲ受ケタル子ニ對シテ爲シタル提供ナレハ、其子(丁年ニ至リ)之ヲ承諾スルニ非サレハ、十全ノモノトナルヲナシ、因テ此ニ裁判官ノ認

許ハ要トセス、

第三百六十七條 「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者ノ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ五年ニ至ルト否トヲ問ハス其幼者ヲ養子ト爲サントスルヲナク死去セシ時ハ幼者ニ其幼年ノ時間生計ヲ爲ス可キ財産ヲ與フ可シ但シ其財産ノ分量及ヒ種類ニ付キ嘗テ契約ヲ以テ定メタルヲナキ時ハ其死者ノ代權人ト其幼者ノ代權人ト熟議シテ之ヲ定ム可ク又熟議セスモテ訴訟ヲ爲シタル時ハ裁判所ヨリ之ヲ定ム可シ(民三四四、三六六、三六九、一一三四、)

「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者幼者ヲ養育スルノ義務ハ、假令ヒ何レノ約定モナサ、リシ時ト雖ヒ、之ヲ其相續人ニ移スヘシ、

第三百六十八條 幼者ノ丁年ニ至リシ時「チユテルオヒシユーズ」ヲ爲ス者之ヲ養子ト爲サント欲シ其幼者承諾シタル時ハ前章ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ養子ト爲スヘシ但シ養子ト爲シタル効ハ亦前章ニ記スル所ト同一ナリトス(民三四三ヨリ三六〇、)尋常ノ養子ノ爲メ必要ト定メタル諸規則及法式ハ、「チユテルオヒシユーズ」ヲ受ケシ幼者、其丁年ニ至リ養子ト爲ス爲メモ必用トス、



第三百六十九條

幼者丁年ニ至リシ時ヨリ三月内ニ養子トナル可キヲ「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者ニ求メタリト雖モ其求ムル所ヲ得ルヲナク且其幼者生計ヲ爲ス可キノ道ナキ時ハ其「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者其幼者ニ生計ノ道ヲ得セシムルヲ能ハサルニ付キ幼者ニ償ヲ爲ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

其償ハ幼者ヲシテ職業ヲ爲サシムルニ足ル可キ資助ヲ與フルニアリトス但シ此償ト當テ此ノ如キ場合ヲ先知シテ爲シタル所ノ契約ト相觸ル、ヲナカル可シ（民三六四、三六七、一一三四、一一四六ヨリ一一四九、一一五二）

幼年丁年ニ至リシヨリ、其「チユテルオヒシューズ」ヲ爲シタル者ノ養子トナランヲ請求スルカ爲コハ、僅カニ三ヶ月ノ時間アルノミ、且此時間内ニ其請求ヲ爲シタリモ、己レノ生計ヲ爲スヘキノ資力ナキヲハ、全ク「チユテルオヒシューズ」ヲ爲シタル者ノ落度ニ歸スヘキノ證ヲ立テサルニ於テハ其償ヲ得ルヲナシ、

第三百七十條

幼者ノ財産ヲ支配スル權ヲ有シタル「チユテルオヒシューズ」ヲ爲ス者ハ常ニ其出納ヲ算計ス可シ（民三六五、四六九、四七〇、訴五二七、五二八）

「チユテルオヒシューズ」ヲ爲シタル者ハ、其幼者ノ財産ノ元額ノ算計ヲ爲ス可キノミナラス、猶ホ其一切ノ入額ノ算計ヲモ爲スヲ要ス、



○第九卷 親ノ權(千八百三年三月二十四日決定四月三日下達)

親ノ權トハ父母ニ於テ或ル規則ニ隨ヒ、其子ヲ管督シ及其財產ヲ管理シ、且其入額ヲ所得ト爲スノ權利ニテ、人生ノ自然ニ基キ、人定法ヲ以テ固定シタルモノナリ、

第三百七十一條 子タル者ハ其年次ヲ問ハス父母ヲ尊敬ス可シ(民一四八ヨリ一五三、一三八八)

凡ソ人其父母ヲ尊敬スヘキコトハ、天ヨリ人ニ命スル所ノ道德ノ教旨ニシテ、永遠不易ノ務メヲ生セシムルモノナリ、故コ人ノ子タル者民法ニ循ヒ結婚シ、若クハ人ノ養子トナラントスルコトハ、其父母ノ意見ヲ聞カサルヲ得ス、(第百五十三條第三百四十四條見合セ)且父母ニ對シ其凌辱トナルヘキ訴訟ヲ爲スヲ得ス、(尊屬ノ親及卑屬ノ親ハ互ニ物ヲ盜ムルハ、刑ヲ受ケシムルコトナク止タ損失ノ償ヲ爲サシムヘキノミ、刑法第三百八十條見合セ、又千八百三十二年四月十七日ノ法律ヲ以テ、夫婦尊屬及卑屬兄弟姉妹及同上ノ姻屬ノ親ハ、互ニ其負債ノ爲メ拘留セシムルコトヲ得スト定メタリ)

第三百七十二條 子ハ丁年ニ至ル迄又ハ後見ヲ免ル、ニ至ル迄父母ノ權ニ從フ可シ(民二

五、一四八、一四九、二六七、三〇二、三四六、三七三、三七四、四七六、四八八、一三八四、一三八八、刑三三五、)

親ノ權ハ羅馬ノ法律ニ於テ、特ニ父及本宗ノ(男ノ)尊屬ノ親ノミニ屬シ、以テ子ノ身体及財產所有ノ權ヲモ專有セシカ如クナリシカ、佛國ノ法律ニ於テ親ノ權ハ、羅馬ノ法律ニ比スレハ、稍々寬恕ニシテ專ラ保護ヲ主トシ、母モ亦父ト等ク其權ヲ有ス、丁年ニ至リシ者若クハ後見ヲ免カレシ子ハ、最早親ノ權ニ從フヲ要セス、別ニ住所ヲ有シ且自ラ其財產ヲ管理シ得、然レモ二十五歳ニ至ル迄ハ、人ノ養子トナラントスルキハ、其父母ノ許諾ヲ得ルヲ要シ、(第三百四十六條見合セ)且男子ハ結婚スル爲メモ、亦其父母ノ許諾ヲ得ルヲ要ス(第百四十八條見合セ)

第三百七十三條 父母結婚ノ間ハ父ノミ其權ヲ行フ可シ(民一四一、五〇七、刑三三五、)

父母共ニ親ノ權アリト雖モ、婚姻ノ解ケサル間其權ヲ行フコトハ、特ニ民法上家族ノ長タル父ニミ屬ス、然レモ父ノ失踪若クハ治産ノ禁ヲ受ケシ場合ニ於テハ、母ニ於テ其權ヲ行フ、(第百四十一條及第百五〇二條見合セ、)又父己レノ子ノ醜行ヲ誘導シタルニ因



リ懲治ノ刑ヲ受ケシ時間ハ、母其權ヲ行フ(刑法第三百三十三條見合セ)

父母ノ内ニテ親ノ權ヲ行フニ付テハ、其子ト本宗ノ親父ハ姻屬ノ親トノ交際ヲ絶ツノ權アリト、千八百六十年六月十三日「ホルドー」上等審院ニテ判決シタリ、(其文畧之)

第三百七十四條 子ハ滿十八歳ニ至リ義勇兵ノ召募ニ加ハル爲メノ外父ノ許諾ヲ得スミテ其親ノ家ヲ去ル可カラス(民一〇八、二六七、三〇二、)

若シ幼年ノ子擅ニ其父母ノ家ヲ去ル時ハ、父ノ請求ニ因リ民事裁判所ノ上席人ノ下シタル命令ヲ以テ、シヤンダムスリ備警兵ヲシテ之ヲ復歸セシムルヲ得、千八百三十二年三月二十一日ノ法律第三十二條ヲ以テ本條ノ規格ヲ改正シ、父ノ許諾ヲ得スシテ義勇兵役ニ加ハルコトハ、滿二十歳以上ヲ要スルコト爲セリ、

第三百七十五條 父其子ノ行狀ニ付キ至重ナルハ戻意ノ事アル時ハ其子ヲ懲治スル爲メ左ノ方法ヲ用フ可シ(民三七六、三七七、四六八、)

法律上父母ニ其子ヲ懲治スルノ權ヲ與フルハ、其子ノ資、益ノ爲メニシテ、其不良ノ習慣ヲ豫防シ、若クハ矯正センカ爲メ也、然レモ父母裁判所ニ訴ヘ其權ヲ行フコトハ甚ク稀ナ

リ、蓋シ實際ノ經驗ニ於テ、斯ノ如ク裁判所ノ權ヲ借ル時ハ、其子ヲ改良セント欲シテ、却テ不良ノ感觸ヲ來タスコト多ケレハナリ、故ニ父母ニ於テハ天然己レノ有スル威權ヲ用ヒ、裁判所ノ手ヲ借リテ懲治ノ權ヲ行フコト欲セス、父母タル者ニ於テ、其子ヲ毆ツコト苟シクモセサルハ至善ノ道ニシテ、其子稍ヤ成長シタル時ハ殊ニ注意セサルヘカラス、何トナレハ毆撃ハ多ク家族ノ交誼ヲ薄ウシ、子ヲシテ嫌疑怨恨ノ念ヲ生セシムヘケレハナリ、法律上父ハ其子ニ對シ母ヨリ其權稍ヤ大ナリ、時トシテ父ハ己レノ權ヲ以テ、其子ヲ禁錮セシメ得ヘシト雖モ、母ハ裁判所ニ願ヒ其聽シテ得サレハ、其子ヲ禁錮セシムルヲ得ス(第三百八十一條見合セ)、父其子ヲ懲治ノ爲メ禁錮センコト裁判所ニ請求スル時ハ、裁判所ハ必ス之ヲ聽サル、ヲ得ス、母ハ所謂願ニ因ラサレハ禁錮セシムルヲ得サルカ故裁判所ニテ聽ルシ或ハ聽サ、ルヲ得ヘシ、

第三百七十六條 子ノ滿十五歳ニ至ル迄ハ其父一月ニ過サル時間其子ヲ禁錮セシムルヲ得可シ之カ爲メ初告裁判所ノ上席人ハ父ノ求メニ從ヒ其子ヲ逮捕スル命令ヲ下ス可シ(民三七八ヨリ三八二、)



本條ニ於テ父ハ其權ヲ以テ、其子ヲ禁錮セシメ得ヘキ故、其請求ハ動スヘカラス、唯獄舎ノ門戸ヲ開カシムルカ爲メ、裁判所ノ上席人之ニ關スルノミ、

第三百七十七條 子ノ滿十五歳ノ齡ニ至リシ以上丁年ニ至ル迄又ハ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間ハ父ヨリ其子ヲ六月ニ過サル時間禁錮スルノ願ヲ爲スヲ得可シ但シ之カ爲メ父ヨリ前條ニ記シタル裁判所ノ上席人ニ其願ヲ爲シ其上席人ハ檢事ト商議シタル後其子ヲ逮捕スル命令ヲ下シ又ハ之ヲ下スヲ聽ルサ、ルヲ自由ナリトス又其上席人ハ其逮捕ノ命令ヲ下シタル時ト雖モ父ヨリ願ヒタル禁錮ノ期日ヲ減スルヲ得可シ(民三七八、三七九、三八一、四六八、)

子既ニ十六歳ニ至リシ以上ハ、願ニ因ラサレハ其父之ヲ禁錮セシムルヲ得サルハ、其子稍ヤ自由權ノ貴重ナルヲ知リ、且道理モ辨ヘ得ヘケレハ、懲罰モ稍ヤ嚴ナルヲ要スルノ場合アリ得ヘキカ故、父ノ意趣ヲ酌量スルカ爲メ、審司ニ其意見ヲ請ヒ且禁錮ノ期限ヲ定メシルルナリ、

第三百七十八條 何レノ場合ニ於テモ逮捕ノ命令ノ外ハ書類及ヒ裁判ノ法式ヲ用フルヲナ

カル可シ但シ逮捕ノ命令書ニハ其逮捕ヲ爲スノ緣由ヲ記スルヲナカル可シ

父ハ其子ヲ禁錮スル時間ノ費用ヲ償ヒ且相當ノ養料ヲ給ス可キ證書ヲ記シテ之ニ姓名ヲ手署ス可シ(民二〇三、三七六、三七七、訴七八九ヨリ七九一、八〇〇、治六〇八ヨリ六一〇、)何レノ書類ヲ以テモ子ノ禁錮ノ事ヲ證スルヲナシ、蓋シ父ノ譴責ハ其子若年ノ時ノ過失ヲ記念シ、以テ後日其聲名ヲ損害シ得サルヲ肝要ナレハナリ、父ハ其家産ト禁錮ノ長短トニ應シ、相當ノ食料及一切ノ費用ヲ拂フヘキノ義務アルニ因リ、貧賤ノ者ハ到底斯ノ如キ懲治ノ方法ヲ用ヒ得ス、

第三百七十九條 父ハ己レノ定メタル禁錮ノ時間又ハ裁判所ニ願ヒタル禁錮ノ時間ヲ減スルヲ得可シ○若シ其子禁錮ヲ免レシ後再ヒ不良ノ所行ヲ爲ス時モ前ノ數條ニ記スル如ク再ヒ禁錮セシムルヲ得可シ(民三七六、三七七、)

子ノ禁錮ヲ定メ若クハ願ヒタル所ノ父ニ於テ、既ニ懲戒充分ナルニ因リ禁錮ノ嚴ヲ解キ、之ニ代フルニ慈悲ヲ以テスルヲ適當ナリト思量スル時ハ、己レノ隨意ニ其禁錮ヲ止メシムルヲ得、



第三百八十條 父ノ再婚ヲ結ヒタル時ハ前婚ノ子滿十五歳以下ノ齡ト雖モ之ヲ禁錮セシムルコト付キ第三百七十條ニ記スル所ニ循フ可シ

再婚ヲ結ヒタル父ハ、願ニ因ラサレハ其前婚ノ子ヲ禁錮セシムルコトヲ得ス、蓋シ繼母ノ煽動ニ因リ、前婚ノ子ニ對シ不當ノ嚴責アラソコト恐レテナリ、

第三百八十一條 夫ノ死去シテ再婚セサル婦其子ヲ禁錮セシメントスルニハ婦ノ最親ノ血屬二員ノ承諾ヲ得且第三百七十七條ニ記スル所ニ循ヒ願ヒ出スルコトヲ必要トス

母ハ再婚セサル内ナラテハ、其子ヲ禁錮セシムルノ權ナク、又再婚セスモ父ニ比スレハ其權稍ヤ小ナリ、蓋シ禁錮ノ如キ激烈ナル懲戒ノ方法ヲ施スコト易キニ過キンコト恐レ、願ニ因ルニ非サレハ禁錮セシムルコトヲ許サス、且此願ヲ爲サントスルニモ、婦ノ最親ノ血屬二員ノ協議ヲ得ルヲ要ス、只其子ノ禁錮ノ時間ヲ減縮シ得ルコトハ父ト同一ナリトス、(第三百七十九條見合セ)

第三百八十二條 子其身ニ屬スル財產ヲ所有シ又ハ自カラ職業ヲ行フ時ハ十六歳以下ノ齡ト雖モ之ヲ禁錮スルコト付テハ第三百七十七條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

禁錮ヲ受ケシ子ハ上等裁判所ノ大檢事ニ禁錮ノ赦宥ヲ請フ書ヲ出スコトヲ得可シ其時大檢事ハ初告裁判所ノ檢事ヲシテ其情實ヲ告ケシメ己レノ意見ヲ上等裁判所ノ上席人ニ具申ス可シ其上席人ハ其旨ヲ父ニ告知セシ後諸般ノ證件ヲ得タル上ニテ初告裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ廢止シ又ハ更改スルコトヲ得可シ

自身ニ屬スル財產ヲ有スルカ、若クハ一個ノ職業ヲ行フ所ノ子ハ、自ラ不羈獨立ノ體アリ、且自ラ父ノ利益ニ關セスシテ、別ニ利益ヲ有シ得ヘキモノナル故、父ノ願ニ因ラサレハ禁錮セラル、コトナク、又己レニ對シテ爲サレタル處分ヲ廢止シ、若クハ變更セシムルカ爲メ禁獄中ヨリ書ヲ大檢事ニ捧クルコトヲ得、法律ニ明文ナシト雖モ、凡ソ願ニ因リ禁錮セラレタル子ハ、皆等ク斯ノ如ク檢事ニ書ヲ捧クルヲ得ヘキコト見ユ、

第三百八十三條 第三百七十六條第三百七十七條第三百七十八條第三百七十九條ニ記スル所ハ法ニ循ヒ認メタル私生ノ子ノ父母ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ(民三三四、三四五、三七一、三七二、)

法ニ循ヒ我子ナリト認メタル私生ノ子ノ父母ニ通シテ用フヘキハ(第三百七十六條、第



三百七十七條、第三百七十八條、及第三百七十九條ノミニアラス、其前數條、及第三百八十二條ノ如キモ、必シモ婚姻シタル父母ノ爲メノミトモ思考シ難シ、故ニ私生ノ父母モ亦公生ノ父母ノ其子ニ於ケルカ如ク適用スヘキナリ、

第三百八十四條 婚姻中ハ夫又婚姻ノ解ケシ後ハ夫婦中ノ後ニ生存スル者其子ノ滿十八歳ニ至ル迄又ハ滿十八歳以下ニテ其子ノ後見ヲ免カル、ニ至ル迄ノ時間其子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權アリ(民二二七、三八九、四七六、四七七、四八五、六〇一、六二〇、)

父母ノ生存中タリトモ、幼者ニ於テ一個ノ兄弟ノ遺物相續若クハ他人ノ遺囑ノ贈遺等ヲ受ケ、己レ一身ニ屬スル財産ヲ所有シ得ヘシ、然ルモハ親ノ權ヲ行フ所ノ父若クハ母ニ於テ、其財産ノ入額ヲ得ルノ權アリ、之ヲ法律上ノ入額所得ノ權(ジュイサンス、レガル)ト稱ス、此權ハ婚姻ヲ結ヒタル父母ノミニ限リ、私生ノ父母ニ屬スルコトナク、全ク公正ノ親ニ附屬シタル特權トシ、且其父母ノ一身ニ止マリ、之ヲ他人ニ讓渡スコト得ス、其父母死スレハ即チ消滅ス、幼年ノ子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權アル父母ニ屬スル規則モ、左ノ場合ニ於テハ限外ナリトス、第一子滿十八歳ニ至リシ時、蓋シ法律ニ於テ其子ノ丁

年ニ至リ、其財産ヲ管理スルニ必要ナル資金ヲ有セシメシカ爲メ、兩三年分ノ入額ヲ得セシメタルナリ、第二子滿十八歳ニ至ラサル前ニ後見ヲ免カレシ時、然ルモハ其子自ラ己レノ財産ヲ管理スルコト付、其入額ヲ所得ト爲サシムルコト固ヨリ當然ナリ、第三母再婚ヲ取結ヒシ時、第三百八十六條見合セ)蓋シ母再婚スルモハ、其子ノ財産ノ入額ハ母ニ屬セシメテ、繼父ノ所得ニ歸スヘキヲ以テナリ、第四子若シ己レノ勞動ニ因リ財産ヲ所有シ、若クハ子ニ於テ入額ヲモ所得ト爲スヘキ特別ノ約定ヲ以テ、贈與ヲ受ケタル時、(第三百八十七條見合セ)第五父若クハ母ニテ遺物相續ヲ爲スノ禁ヲ受ケ、其子之ヲ相續シタルカ(第七百三十條見合セ)若クハ子ノ醜行ヲ誘起シタル時、(刑法第三百三十五條見合セ)第六父母ノ中後ニ生存ノ者、其配偶者ノ死去シタルヨリ、三ヶ月内ニ共通財産ノ目錄ヲ作ルコト怠リシ時、(第一千四百四十二條見合セ)

第三百八十五條 此ノ如ク子ノ財産ノ入額ヲ得ル者ハ左ノ諸件ヲ擔當ス可シ

第一 總テ人ノ財産ノ入額ヲ得ル者ノ義務(第六百條以下ニ詳ナリ)

第二 財産ニ準シテ教育ヲ爲ス事



第三 年金ノ額ヲ償フ事及ヒ負債ノ息銀ヲ償フ事

第四 最後ノ疾病中ノ費用及ヒ埋葬ノ費用ヲ償フ事(民六〇〇ヨリ六一六、二〇三、

二八四、二六七、二一〇一)

凡ソ人ノ財産ノ入額ヲ得ル者ノ擔當スヘキコトハ、動産不動産ノ目錄ヲ作り賦税及修理ノ費用ヲ辨シ、入額ヲ所得ト爲スノ時間、期限ノ來リシ息銀及年金ヲ拂ヒ、且其財産ヲ信切ニ管理スヘキノ保證ヲ立ツヘキコト(第六百條及第六百一條見合セ)等ナリ、然レモ法律上ニ於テ入額ヲ所得ト爲スノ權ヲ有スル者(即チ父母)ハ、此保證ヲ立ルノ義務ヲ免カル、(第六百一條見合セ)

法律ヲ以テ父母ニ命シタル、子ヲ養育スルノ義務(第二百三條見合セ)ハ其父母子ノ一身ニ屬スル財産ノ入額ヲ得ルノ權ヲ有スルキニ於テ益ヲ重シトス、

法律上入額ヲ得ルノ權ヲ有スル所ノ父若クハ母ハ、例シテ入額ヲ得ル者ノ如ク、只其入額ヲ得ルノ時間、期限ノ至リシ年金及息銀ヲ拂フコトノ義務アルノミナラス、猶ホ法律上入額ヲ得ルノ權ノ生シタル時、拂フヘキノ年金及息銀アルハ、其期限ノ至ラサルモ之ヲ

拂フコトヲ要ス、蓋シ子ノ受ケタル生存中ノ贈遺、若クハ遺囑ノ贈遺ニ因テ得タル財産ノ法律上入額ヲ得ルノ權ノ止ム時ニハ、其財産ニ附屬シタル年金及息銀等ヲ除去シテ、其子ニ引渡スヘキノ條理アレハナリ、然レモ法律上入額ヲ得ルノ權ノ生セシ時、幼者ノ爲メニ期限ノ來リシ年金及息銀ノコトニ付テハ、法律ノ不委ナルニ因リ、子ノ利益ヲ圖テ尋常入額ヲ所得ト爲スコトノ規則ヲ適用シテ、之ヲ元金ニ加入スヘキコトス、

最後ノ疾病中ノ費用及埋葬ノ費用トハ、子ニ贈遺ヲナシタル者ノ最後ノ疾病及埋葬ノ費用ナリ、(一説ニ子ノ最後ノ疾病及ヒ埋葬ノ費用ナリト)然レモ此所ニ付テハ法典ハ習慣法ニ淵源シ、子ニ贈遺ヲ爲セシ者ト爲セリ、子ノ埋葬費ニ至テハ、其遺物相続人ニテ之ヲ擔當スヘキハ勿論ナリ、

第三百八十六條 離婚ヲ受ケタル夫又ハ婦ハ子ノ財産ノ入額ヲ得可カラス又婦ノ再婚ヲ爲

シタル時モ亦之ヲ得可カラス(民三八七、七三〇、一四四二、刑三三五、)

千八百十六年廢シタル離婚ハ、子ノ爲メ災害ヲ來タスノ淵源ナリシニ因リ、法律上ニ於テ幼年ノ子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權ヲ失ハシメタリ、然レモ夫婦分居ノ場合ニ於テハ



此權ヲ失ハシムコトナシ、何トナレハ夫婦ノ分居ハ、子ノ爲ノ不幸ヲ生スルコト、離婚ニ比スレハ稍ヤ少キヲ以テナリ、再婚ヲ取結フ所ノ母ハ、必ス其子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權ヲ失フ、蓋シ母ノ再婚ヲ取結フコトハ、法律ノ欣視セサル所ニシテ、且子ノ爲メコトハ更ニ血縁ナキ新夫ニ於テ、其子ノ財産ヲ管理シ、其入額ヲ所得ト爲スコト多キヲ以テナリ、此規格ハ再婚ヲ取結フ母ニ當テタル罰條ニ似タリト雖モ、離婚ニ類似シタル他ノ場合ニ波及スルコトナシ、故ニ母ノ不行跡及父ノ再婚ノ場合ニ比擬スヘカラス、

第三百八十七條 子自己ノ勞動及ヒ職業ニ因リ得タル財産又ハ父母ノ入額ヲ得可カラサル契約ヲ以テ他人ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ其子ニ與ヘタル財産ハ父母其入額ヲ得可カラス(民三八九、一一三四)

自己ノ利益ノ爲メ別ニ産業ヲ營ム所ノ幼年ノ子ハ、己レ一身ニ其産業ノ益ヲ得、且其益ノ入額ヲモ保ツ、蓋シ幼者ノ勞動ヲ勸奨スル爲メコトハ、宜ク然ルヘキナリ、又父母ニ法律上子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權ヲ失ハシムルカ爲メコトハ、贈遺者ニ於テ父若クハ母己レノ贈遺スル財産ノ入額ヲ得セシメサルコトノ明文ヲ以テスルニ及ハス、只其意ナリ

シテ明瞭ナルヲ以テ充分ナリトス、而シテ父若クハ母ノ先ニ死去シタル者、其意ナリシコトヲ諒知スベキニ於テハ其効ヲ生シ、其生存ノ配偶者ハ、民法上子ノ爲メ遺シ置クヘキ定分ノ財産ニ付テモ、法律上其入額ヲ得ルノ權ヲ失ハシム、畢竟子ノ利益ノミヲ計リ定メタルモノナレハ、生存ノ配偶者ニ於テ之ヲ是非シ、其入額ヲ得ント求ムヘキニ非ス、

○第十卷 幼年ノ事、後見ノ事、後見ヲ免ガル、事、(千八百三年三月二十六日決定四月五日下達)

○第一章 幼年ノ事

幼年トハ年齢幼弱ニシテ、自ラ其身體ヲ主持シ、其財産ヲ管理スルノ能力ナキ者ヲ云、故ニ幼者ハ民權ヲ有スト雖モ、之ヲ行フノ權力ナキニ因リ、法律ハ幼者ニ附スルニ後見人ヲ以テシテ、幼者ノ資益ヲ保護セシメ、若シ幼者自ラ爲シタル措置、其損害ヲ贖シ得ヘキ時ハ、之ヲ取消スコトヲ許ス、

第三百八十八條 男女ヲ論セス二十一歳未滿ノ者ヲ幼者トス、(民五七、四八八、) 滿二十一歳以上ノ年齢ニ至リシ者ハ丁年者ト稱ス、丁年ヲ算スルハ日ヲ以テセスシテ



分時ヲ以テス、古語ニ瞬間ヨリ瞬間ヲ以テ算ス（ド、モマント、アド、モマンナム）ト云  
ヘリ故ニ滿二十一歳前ノ誕生日ノ同分時ニ至レハ、幼者忽チ丁年者トナリ、契約ヲ取結  
ブノ權力ナカリシ者、始メテ其權力ヲ得ルナリ、

○第二章 後見ノ事

後見（チユテル）トハ法律若クハ法律ノ規格ニ因リ、人ノ望チ以テ不能力者ノ身體及財産  
ノ管理ヲ其價ヲ受ケスシテ爲スヘキノ責任ナリ、法律ヲ以テ命ヅタル後見トハ、父母及  
尊屬親ノ爲スヘキ後見ナリ、法律ノ規格ニ因リ、人ノ望チ以テ命ヅタル後見トハ、父母  
中ノ後ニ生存スル者、若クハ親族會議ニ於テ任シタル後見ナリ、後見ヲ行フ者ヲ後見人  
（チユテウール）ト稱ス、父母共ニ生存スル所ノ子ハ、後見ヲ受クルニ非スシテ親ノ權ヲ  
受クルナリ、若シ父母中ノ一方ノ者死去シタル時ハ、親ノ權ト後見トヲ受ク、若又父母  
共ニ死去シタル時ハ、最早親ノ權ヲ受クルコトナク、止テ後見ノミヲ受ク、

後見ニ四種アリ、第一父母ノ後見、之ヲ自然ノ後見ト稱ス、第二父母中ノ後ニ生存スル  
者ニテ任シタル後見、之ヲ遺囑ノ後見ト稱ス、第三尊屬親ノ後見、之ヲ正當ノ後見ト稱ス、

第四親族會議ニ於テ任シタル後見、之ヲ評議上ノ後見ト稱ス、

○第一款 父母ノ後見

第三百八十九條 父母婚姻中ハ父其幼年ノ子ニ屬スル財産ヲ支配ス可シ○子ノ財産中ニテ  
父其入額ヲ所得ト爲サ、ル物ニ付テハ其入額ト其所有ノ權トヲ其子ニ還ス可ク又父其入  
額ヲ所得ト爲ス可キ物ニ付テハ其所有ノ權ノミヲ其子ニ還ス可シ（民三八四ヨリ三八七、  
七三〇、一三八八、一四四二、訴一一六、五二七、五二八、刑三三五、）

婚姻中父ニ於テ幼年ノ子ノ財産ヲ管理スルコトハ、後見人ノ地位ヲ以テセスシテ、管理人  
ノ地位ヲ以テス、故ニ後見人ノ如ク監察者モナク、親族會議ヲ設クルコトモナク、且父母  
ノ財産ヲ以テ法律上ノ書入質ト爲スコトモナシ、蓋シ父母ノ情愛ハ其子ノ諸權利ヲ保ツ  
カ爲メ、充分ノ保證ト看做セハナリ、

父ノ財産法律上ノ書入質タルコトニ付テハ、千八百六十三年一月二日「ツールーズ」上等  
審院ノ判決ニ於テ、左ノ如ク其理由ヲ示セリ

民法第二百二十一條ニ因リ、幼者ハ後見人ノ財産ニ付、法律上書入質ノ權アリト雖



此、之ヲ推及シテ幼者ノ管理人タル父ノ財産ニ付、書入質ノ權ヲ得セシムルコトナシ、此ノ如ク尋常ノ後見人ト父トノ間ニ區別ヲ立テシ所以ハ、法律ノ章句ニ因リ、婚姻中ト夫婦中ノ一方死去シタルトニ因テ、其情狀相異ナルヲ以テナリ、婚姻ノ解ケシ上ハ、必ス夫婦生存中相互ニ其幼年ノ子ヲ保護セシカ如クナラス、殊ニ再婚ヲ取結フニ於テハ、子ニ對シ情愛ヲ減スヘキノ恐レアルコトハ、立法者モ豫メ之ヲ知ラサルヘカラス云々、

然レモ審司ニ於テ、子ノ有益ナリト思量スル時ハ、父ニ於テ管理ノ界限ヲ過キタル措置ヲ爲スコト可否スヘシ、殊ニ其父從來著シキ放蕩ノ所行ヲ爲スカ、若クハ愚昧ニシテ子ヲ監護シ能ハサルコト顯然タルニ於テハ、審司ハ其子ノ財産ヲ管理スルノ權ヲ去リ、之ヲ其器能アル相當ノ他人ニ委スルコト得、

婚姻ノ間ト假定シタル本條ハ、我子ナリト認メタル私生ノ子ニ適用スヘカラス、私生ノ子己レ一身ニ屬スル財産ヲ有スル時ハ親族會議ヲ催シ以テ後見人及後見人ノ監察者ヲ任スヘシ、育兒院等ニ在ル所ノ捨子ハ、育兒院ノ支配人ノ後見ニ附ス、(千八百十一年一

月十九日ノ勅令)

第三百九十條 夫婦中一方ノ者死去シ又ハ准死ノ刑ヲ受クルコトアリテ婚姻ノ解ケシ後ハ他ノ一方ノ者後見ヲ免レサル幼年ノ子ノ後見ヲ爲スコシ(民二三、二五、一四一ヨリ一四三、三九一ヨリ三九六、四〇五、四二一、四七六、刑一八、三四、四二、三三五)

千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ、准死ヲ廢シタル爾來ハ、父母中一方ノ者死去スルニ非サレハ後見ノ始マルコトナシ、父母中一方ノ者治産ノ禁ヲ受ケシカ、若クハ失踪シタルカノ時ハ、他ノ一方ノ者親ノ權ヲ行ヒ、且法律上ノ管理人タルノ地位ヲ以テ、其子ノ財産ヲ管理スト雖モ、決シテ後見人ノ地位ヲ以テスルコトナシ、故ニ自然ノ後見即チ父母ノ後見ハ、父若クハ母ノ死去スルニ非レハ始マルコトナシ、父若クハ母其子ヲ見捨テ育兒院ニ入レタル時、後見ハ育兒院ノ支配人ニ移ルナリ、(千八百六十一年七月二十九日「ビュイ」裁判所ノ判決ニ據ル)

第三百九十一條 然レモ父ハ後ニ生存スル母其子ノ後見ヲ爲スコ付キ其輔佐人ヲ任シ得ヘシ然ル時ハ其母其輔佐人ノ意見ヲ聽カスシテ後見ニ管シタル處置ヲ爲スコカラス



若シ父ヨリ其輔佐人ノ管涉ス可キ處置ノ種類ヲ特ニ定メタル時ハ後見ヲ爲ス母其他ノ處置ヲ爲スニ付テハ其輔佐人ノ意見ヲ聽クニ及ハス

父死セントスルキ、其婦其子ノ財産ヲ善良ニ管理シ能ハサルコトヲ知り、其婦ニ附スルニ補佐人、即チ事務ヲ執行スルニ當テ意見ヲ聞クヘキ管理人ヲ任シ、以テ凡ソ後見ニ管涉スル一切ノ處置、若クハ自ラ豫定シタル一二ノ處置ヲ爲スガメ、意見ヲ陳ヘテ其婦ヲ督理セシムルヲ得、若シ母ニ於テ其補佐人ノ意見ヲ聞クヘキ處置ニ付キ、之ヲ聞カス獨斷シタル時ハ、其處置ハ幼者ノ利益ノ爲メ取消シ得ヘキモノトス、此取消ヨリシテ若シ他人ノ爲メ損失ヲ來タス時ハ、母其責ニ任スヘシ、補佐人ハ己レノ過失ニ付テハ、其責ニ任スヘシト雖モ自ラ財産管理ノ處置ヲ爲スノ權利ナシ、蓋シ此權利ハ全ク後見ノ職掌ニシテ且補佐人ハ親ノ權ニ管涉スル所ノ處置ニ迄及フコトヲ得サレハナリ、又補佐人死去スト雖モ代人ヲ設クルコトナシ、故ニ母ニ於テ何レノ監督ヲモ受クルコトナク、凡ソ後見ニ管スル一切ノ處置ヲ爲シ得、但シ實際ニ於テハ、補佐人ヲ付スルコト極メテ稀ナリ、

第三百九十二條 其補佐人ヲ任スルニハ左ノ二箇ノ方法中ノ一ヲ用フ可シ

第一 遺囑ノ證書ヲ以テ爲ス事

第二 書記役立會ノ上治安裁判官ノ面前又ハ證書人數員ノ面前ニテ申述フル事(民三九八、八九五、九六九、九七〇、)

補佐人ヲ任スヘキコトヲ記シタル遺囑書ハ、尋常遺囑書ノ式ヲ以テ爲スヲ要ス、

第三百九十三條 若シ夫ノ死去セシ時其婦懷胎シタルニ於テハ親族會議ニテ其未タ出産セサル子ノ管財人ヲ任ス可シ

子ノ出産シタル後ハ其母後見人トナリ管財人後見人ノ監察者トナルノ權アリ(民三一五、四〇五、四〇六、四二〇、四二一、)

未タ出産セサル子ノ管財人ハ、夫ノ血屬中ヨリ選任ス、其職掌ハ夫ノ遺物ヲ管理シ、且婦ニ於テ其夫ノ遺物タル財産ニ付、法律上入額ヲ得ルノ權ヲ得ンカ爲メ、他人ノ子ヲ夫ノ子ト偽リ示シ、若シ其子死去シタルニ於テハ、其遺留財産ノ半ヲ得ント爲サンコトヲ監察スルニアリ、子誕生シテ生存スヘキ狀アル時ハ、管理中ノ計算ヲ爲シ其財産ヲ其母ニ引渡シ、若シ十ヶ月ヲ過キ未タ出産セサル時ハ、之ヲ夫ノ相續人ニ引渡ス、若シ又懷胎



シタリト述フル所ノ寡婦、既ニ後見ヲ受クヘキ子ヲ有スル時ハ、未タ生レサル子ノ財産  
管理人ヲ任スルコトナシ、何トナレハ其後見人ノ監察者、當然管理人ノ職掌ヲ行フヘケレ  
ハナリ、

第三百九十四條 母ハ必スシモ後見人ノ任ヲ受クルコト承諾スルニ及ハス然レ特ニ後見人  
ヲ撰任セシムルニ至ル迄ハ後見ノ諸務ヲ行フ可シ(民三九〇、四〇五、四〇六、)

母ハ事由ヲ述フルコトヲ要セスシテ、其子ノ後見ヲ承諾セサルコトヲ得、又後見ヲ承領セシ  
後タリト、之ヲ辭退スルコトヲ得、蓋シ母ニ於テ子ノ財産ヲ善良ニ管理スル爲メ、充分ノ  
經驗及功能ナシト自ラ辭スル時、強テ之ヲ繼續セシムルハ情義ニ背キ、且子ノ利益ニモ  
觸ルレハナリ、然レモ其母ハ親ノ權及其子ノ財産ニ付、法律上入額ヲ得ルノ權ヲ失フコ  
トナシ、而シテ其子ハ其後見人ノ住所ヲ以テ公住所トス、然レモ實際ハ猶ホ其母ト同住スル  
コトヲ得、父ハ母ト違ヒ正當ノ事由ヲ證示スルニ非サレハ、其子ノ後見ヲ辭退スルコトヲ得  
ス、

第三百九十五條 後見ヲ爲ス母再婚セント欲スル時ハ婚姻ノ證書ヲ記スル前ニ親族ノ會議

ヲ爲サシメ其會議ニテ後見ノ職ヲ日後猶其母ニ任ス可キヤ否ヲ定ム可シ、  
若シ親族ノ會議ヲ爲サシメサル時ハ其母後見ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ又再婚ノ夫ハ其婦不  
相當ニ後見ヲ行ヒタルヨリ生セシ諸件ニ付キ婦ト連帶シテ其責ニ任ス可シ(民三九六、四  
〇六、四〇七、一一〇〇、一一〇一、)

母再婚ヲ取結フ時ハ、大ニ其子ニ對シテ愛情ヲ薄クシ得ヘシ、且再婚スレハ其新夫ノ爲  
メニ、契約ヲ取結フノ權力ヲ放棄セサルヘカラサルカ故ニ、大ニ其子ノ財産ノ保護ヲ危  
ウシ得ヘキニ因リ、其婚姻ノ前ニ先ツ親族ノ會議ヲ爲サシムルヲ要ス、親族會議ハ夫ト  
ナラントスル者ノ財產品行及情狀ニ從ヒ、猶ホ母ニ後見ヲ任スヘキヤ否ヲ決定スヘシ、  
若シ親族ノ會議ヲ爲サシムルコトナク、再婚ヲ爲シタル時ハ、左ノ著シキ二個ノ責罰アリ、  
第一母ハ當然ニ後見ノ權ヲ失フコト、第二其新夫ハ母ニ於テ、不相當ニ後見ヲ保チタルニ  
因リ生セシ諸件ニ付、母ト連帶シテ其責ニ任スヘシ、新夫ニ負ハシムヘキ此責任ハ、其  
婚姻ノ後生シタル一切ノ事件ニ及ホスノミナラス、一説ニ因レハ婚姻前ノ事件ニモ遡  
リ及ホサシム、(千八百六十二年七月十六日「ギジョン」上等審院ノ裁決アリ略之)



再婚ヲ取結ヒシ後若クハ以前タリトモ、子ノ財産ヲ管理スルニ付テ、母ノ不動産ハ法律上書入質タリト雖モ、其新夫ノ不動産ハ其子ノ書入質ト爲ルコトナシ、何トナレハ漸夫ハ後見人ニ非サルヲ以テナリ、

第三百九十六條 母ヨリ相當ニ親族ノ會議ヲ爲サシメ其會議ニテ日後猶其母ニ後見ヲ爲スコトヲ任シタル時ハ必ス其再婚ノ夫ヲ其後見ノ副職ニ任ス可シ而シテ其夫ハ婦ノ婚姻ノ後行ヒタル後見ノ諸事ニ付キ連帶セテ其責ニ任ス可シ(民三九五、四五〇、四五二、一二〇〇、二一二、訴一二六、九〇五)

親族會議ニ於テ日後猶其母ニ任スル時、夫ハ其ニ後見人ト爲リ、且其不動産ハ幼者ノ爲メ法律上ノ書入質タルヲ免カレス、然レモ夫ハ結婚ノ後行ヒタル管理ノ事件ニ付テノミナラテハ其責ニ任セス、此場合ニ於テハ夫專ラ其管理ヲ爲スト雖モ、親ノ權ニ管涉シタル職分ヲ有スルコトナシ、千八百六十二年十二月十四日大審院ノ判決ニ曰ク、再婚ノ夫ハ繼父タルノ分限ヲ以テ、幼年ノ子ノ監督及指揮ノ一部ヲ割與スト雖モ、之ニ因テ專制ノ權ヲ行ハシメナハ、法律ヲ以テ幼年ノ子ニ對シ、父母中ノ後ニ生存スル者ニ附與シ

タル、親ノ權ヲ滅亡セシムルニ至ルヘシ云々、然ルモ爰ニ注意スヘキコトアリ、再婚ノ夫ハ、其婦死去スルモ、後見ノ權ヲ失フト雖モ、其夫ヨリ後ニ生存スル所ノ母ハ、其前婚ノ子ノ後見ヲ保續シ、其財産ヲ自由ニ管理シ得ルナリ、

○第二款 父母ヨリ任シタル後見

第三百九十七條 親族タルト否トヲ問ハス後見人ヲ撰ムノ權ハ父母中ノ後ニ死去スル者ニ屬ス可シ(民三九八、三九九)

父母ノ撰任スル後見ヲ遺囑ノ後見ト稱ス、何トナレハ此後見ハ常ニ遺囑書ヲ以テ任シ、且父母中後ニ生存スル者ノ死去スルニ因テ始マルヲ以テナリ、而シテ此後見ハ豫定ノ期限ヨリ始マリ(エキスザー)豫定ノ期限ニ至テ終ル(アドヤアン)カ爲メ期限ヲ以テ任スルコトヲ得、又未必ノ條件ヲ以テ任スルコトヲ得、其條件ノ來ルモハ後見ノ職分ヲ行ハシメ其來ラサルモハ後見ヲ止メシムヘシ、  
後見人ヲ選任スルコトノ權ヲ有スル父母中ノ後ニ生存スル者、若クハ親族會議ハ、幼者ノ財産ノ管理ト身體ノ監護トヲ分別シ、一ハ財産ノ爲メ、一ハ身體ノ爲メ、後見人ヲ各別



ニ任シ得ルコトハ、大審院ニ於テ千八百六十二年五月十四日、「ヤシヨン」上等審院ノ判決ヲ固定シタル裁決ニ因テ明カナリ、其文畧之

第三百九十八條 此權ヲ行フニ付テハ第三百九十二條ニ記スル所ノ法式ニ循ヒ且此後ニ記スル所ノ格別ノ規則ヲ遵守ス可シ

第三百九十二條ニ定メタル法式トハ、遺囑書若クハ證書人ノ面前ニ於テノ申述、若クハ書記役立會ノ上治安裁判官ノ面前ニ於テノ申述ナリ、

第三百九十九條 母再婚ヲ爲シ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケサル時ハ其母其子ノ後見人ヲ撰ム可カラス(民三九五、三九七、)

本條ノ規格ハ再婚ヲ爲シ、前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ保續セザリシ所ノ母ニノミ限ルニ非ス、之ヲ推及シテ父母中後ニ生存スル者ハ、己レ自ラ後見ヲ行フ時ニ非レハ、後見ヲ任シ得サルコトス、故ニ父母中後ニ生存スル者、後見ノ權ヲ失ヒシ時ハ、親族會議ニ於テ、父若クハ母ニ於テ、止メシムヘカラサル職務ノ任ヲ、他人ニ授ケ代テ後見ヲ爲サシム、元來後見人ヲ變更スルハ幼者ノ財産管理ノ害トナレハナリ、

第四百條 母再婚ヲ爲シテ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケタル時其子ノ後見人ヲ撰ミタリト雖ヒ親族會議ニテ之ヲ承認シタル上ニ非レハ其撰任ヲ確定ス可カラス(民三九五、四〇六、四〇七、)

再婚ヲ爲シタル母ハ、親族ノ會議ニ因ラサレハ、前婚ノ子ノ後見ヲ保續シ得サルカ故ニ、其選ヒタル後見人ニ付テモ、亦親族會議ノ承認ヲ得ルヲ要ス、蓋シ再婚シテ新夫ノ親族中ニ在レハ、母前婚ノ子ノ爲メ自ラ情愛ヲ薄クスヘケレハナリ、然レモ重大ノ事故アルニ非サレハ、母ノ選ミタル後見人ハ、親族會議ニ於テ之ヲ承認スヘシ、

第四百一條 父又ハ母ヨリ撰任ヲ得タル後見人ハ必シモ其職ニ任スルコトヲ承諾スルニ及ハス但シ其人父母ヨリ別ニ撰任ヲ得スト雖モ親族ノ會議ヨリ其撰任ヲ得可キ者タル時ハ格別ナリトス(民四二七、四二八、四三二、四三三、)

後見ハ親族ノ責任ト公同ノ責任トヲ兼スルモノナリ、是幼者ノ住所ヨリ四「ミリヤメートル」ノ距離内ニ、後見ヲ爲シ得ヘキ血屬若クハ姻屬ノ親ノアルニ於テハ、親族ニ非サル他人ニシテ、父母中ノ後ニ生存スル者ヨリ後見ノ任ヲ受ケタリモ、必シモ之ヲ承諾ス



ルニ及ハサル所以ナリ、(第四百三十二條見合セ)且後見ハ佛國民法ノ制定スル所コソ佛國公同ノ責任ヲ兼スル所ノモノナルコ因リ、後見人トナリ、後見人ノ監察者トナリ、若クハ親族會議ノ員トナルガ爲ニハ、必ス佛蘭西人タルヲ要ス、故コ佛國ニ住居スル所ノ外國人ノ幼者ハ、決シテ此規則ニ從フヘキニ非ス、元來羅馬ノ法及佛國ノ舊法ニ於テモ、亦斯ノ如クナリシコ因リ、此法典ニ於テモ亦然リト、千八百六十一年三月廿一日巴里上等審院ニ於テ判決シタリ、其文ニ曰ク、抑幼稚ニ監督及保護ヲ加ヘサルヘカラサルノ原則ハ、自然法ニ根據スト雖モ何レノ年齢ニ至ルマテ其保護ヲ行フヲ要スルヤ、其保護ノ擔當ヲ受ケタル者ノ分限、務メ、及其保護ヲ行フノ方法權限ノ如何ナルヤヲ定ムルハ、人定ノ成法ニ係ルナリ、而シテ後見人及親族會議ノ員ノ職務ハ、畢竟佛國人ノミニ屬スル民權ノ行用ニ該ルヲ以テ、佛國人ノミニ係ル公同ノ責任ナリト、

○第三款 尊屬ノ親ニテ後見ヲ爲ス事

第四百二條 父母中ノ後ニ死去セシ者幼者ノ後見人ヲ撰ミタルコトナキ時ハ其後見ハ本宗ノ祖父若シ本宗ノ祖父ナキ時ハ外族ノ祖父ニ屬ス又祖父ナキ時ハ曾祖父ニ屬ス但シ同級ノ

尊屬ノ親中ニ於テハ本宗ノ親外族ノ親ヨリ先ニ後見ノ任ヲ受クヘシ(民一四二、三九七、四二一、七三五、七三六、九〇七、)

本條ニ因レハ尊屬親ノ正當ノ後見ハ、二個ノ要件具備スルニ非サレハ成立ツヘカラス、第一父母中ノ後ニ生存スル者ノ死去セシ時、蓋シ若シ後見ヲ辭セタルカ若クハ後見ノ權ヲ剝奪セラレシ時ハ、親族會議ニ於テ任スヘキ後見人之コ代ルヲ以テ、特ニ其死去セシ時ニ限ルナリ、第二父母中ノ後ニ死去セシ者後見人ヲ選任セサリシ時、蓋シ他ノ後見人ヲ選任シタルニ於テハ、縱令其後見ヲ免黜セラレシカ、若クハ後見ノ職ヲ行フノ間ニ死去セシカノ時、尊屬ノ親ニ於テ後見ヲ爲スハ、正當ノ後見人ニ非スノ評議上ノ後見ナレハナリ、然レモ親族會議ハ幼者ノ一個ノ尊屬ノ親ヲ、後見人ニ選ムコトヲ得、正當ノ後見人ニハ專ラ最親ノ尊屬親ヲ擇ミ、同級ノ親ニ於テハ外族ノ尊屬親ヨリハ、幼者ト同一ノ姓ヲ帶用スル所ノ本宗ノ尊屬親ヲ專ラ擇ム、

第四百三條 幼者ノ本宗ノ祖父及ヒ外族ノ祖父共ニアルコトナク本宗ノ曾祖父二人アリテ其權互ニ相觸ル、時ハ其二人中ニテ幼者ノ父ノ本宗ノ祖父其後見ノ任ヲ受ク可シ(民四〇



二、四〇四、)

幼者ノ父ノ本宗ノ祖父ハ、後見ヲ受クヘキ幼者ノ爲メ、同一ノ姓ヲ帶用スル曾祖父ナリ、  
第四百四條 又外族ノ曾祖父二人ノ權互ニ相觸ル、時ハ親族ノ會議ニテ其二人中ノ一人ヲ  
後見ノ職ニ任ス可シ(民四〇三、四〇七、四〇八、)

外族ノ曾祖父ハ、後見ヲ受クヘキ幼者ト同一ノ姓ヲ帶用スルコトナシ、若シ此曾祖父二人  
相競フキハ、親族會議ニテ其中一人ヲ撰任スヘシ、

○第四款 親族ノ會議ニテ任シタル後見

第四百五條 幼年ニシテ未ダ後見ヲ免レサル子父母及ヒ父母ヨリ任シタル後見人ナク又尊  
屬ノ男ノ親ナク且前ニ記シタル後見人ノ撰任ヲ受ケタル者後ニ記スル所(第四百二十七  
條第四百四十二條)ノ如ク後見ノ職ニ任スルコト能ハス又ハ後見ノ職ヲ相當ニ辭シタル時  
ハ親族ノ會議ニテ其子ノ後見人ヲ任ス可シ(民二五、三九〇、三九四、三九七、四〇二、四〇  
六、四二七、四四二、訴八八二、刑三四、四二、三三五、)

評議上ノ後見、即チ親族會議ニテ任スル所ノ後見人ハ、他ノ三種ノ後見人ナキ時ニ限リ

之ヲ要ス、然レモ若シ自然ノ後見人、遺囑ノ後見人、若クハ正當ノ後見人、其職ヲ辭退シ  
タルカ、若クハ剝奪セラレシ時ハ、必ス評議ノ後見人ヲ以テ之ニ代フ、故ニ生存ノ母其  
子ノ後見ヲ爲スコト承諾セサリシ時ハ、最親ノ尊屬親ニテ直ニ其職ヲ行フヘキニ非ス、  
親族會議ニ於テ後見人ヲ選任ス、親族會議ハ、血屬ノ親ト姻屬ノ親、及後見ノ始マリシ  
時幼者ノ住所ノアル縣<sup>カントン</sup>ノ治安裁判官トチ以テ構成ス、

第四百六條 親族ノ會議ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ債主又ハ其他幼者ニ管シタル者ノ求メニ  
從ヒ又ハ幼者住所ノ治安裁判官ヨリ其職務ヲ以テ求ムル所ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ○何人ニ  
限ラス後見人ヲ任ス可キ原由ヲ其裁判官ニ述フルコトヲ得可シ(民一〇八、四二一、四二四、  
四四六、四七九、訴八八二、)

後見人ヲ任スル爲メ、若クハ其他ノ事件ニ付、親族會議ヲ爲スコノ求メハ、幼者ノ住所  
ノ治安裁判官ニ之ヲ爲ス、而シテ其求メ幼者ノ親族債主、其他凡ソ幼者ニ後見人ヲ附シ、  
之ニ對シテ訴訟ヲ爲スヘキコトニ管シタル人ヨリ出ル時ハ、治安裁判官之ヲ聽ルサ、ル  
ベカラス、又治安裁判官ハ何レノ求メヲモ俟タス、職權ヲ以テ親族會議ヲ爲サシムルコ



ヲ得、又治安裁判官ハ幼者ノ爲メ懇切ニ利益ヲ計リ、後見人ヲ任スヘキヲ肝要タルヘキ  
狀件ノ、告發ヲ受クルコト多シト雖モ、必シモ之ヲ聽ルスヲ要セス、

第四百七條 親族ノ會議ハ治安裁判官ヲ除クノ外幼者住所ノ邑内又ハ其住所ヨリ二「ミリ  
ヤメートル」ノ距離内ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親六員ヨリ成ル可シ但シ其六員ノ中半ハ本  
宗ノ親ニシテ半ハ外族ノ親タル可ク且其親族ハ本宗外族共ニ親近ノ順序ニ從フ可シ  
同級ノ親ニ於テハ血屬ノ親姻屬ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ケ又同級ノ血屬中ニ於テハ年長  
ノ親年少ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ク可シ(民二五、一一〇、四〇八、四二七、四四二、七三五、  
刑三四、四二、三三五、)

遺物相續ノ順序ニ於テ、本宗ノ親ト外族ノ親トノ間ニ、全ク平均ヲ保タシムル所ノ法律  
(第七百三十三條見合セ)アルニ因リ、外族ノ親モ本宗ノ親ト等シク、親族會議ニ參與セ  
シメサルヘカラス、此會員ニ治安裁判官ヲ加ヘ七人トシ、以テ可否相半スルノ憂ヲ除ク、  
姻屬ノ親トハ幼者ノ本宗若クハ外族ノ親ヲ娶リタル所ノ者ニテ、其娶リタル婦生存ス  
ルカ、若クハ其婦子ヲ遺留シテ死去シタル時ハ、血屬ノ親ト等ク親族會議ノ員タルヲ得、

第四百八條 幼者ノ同父母兄弟及ヒ姉妹ノ夫ハ前條ニ記シタル定員ニ循フニ及ハス但シ此  
等ノ者ノ數六人以上ナル時ハ幼者ノ尊屬ノ親ノ寡婦及ヒ後見ノ職ヲ相當ニ辭シタル尊屬  
ノ親ト共ニ親族ノ會議ヲ爲シ他ノ親族ヲシテ參セシムルニ及ハス  
若シ同父母兄弟及ヒ姉妹ノ夫ノ員數六人ニ充サル時ハ其他ノ親族ヲ以テ其缺ヲ補ヒ親族  
ノ會議ヲ爲サシム可シ(民四〇二、四〇七、)

同父母兄弟及姉妹ノ夫、尊屬ノ親及其夫、尊屬親タル寡婦ハ皆親族會議ニ參與ス、本條  
ノ文辭ニ因レハ尊屬ノ親ノ寡婦モ、會議ニ參スヘキニ似タリ、宜ク尊屬ノ親ノ寡婦ト云  
ヲ改メテ、寡婦タル尊屬ノ親ト書セサルヘカラス、何トナレハ、諸著述家ノ說ニ、一個ノ  
男前婚ニテ舉タル幼年ノ子ヲ遺留シテ死去スルモ、其寡婦ハ其子ニ對シテハ固ヨリ  
他人ナルニヨリ、其子ノ爲メノ親族會員タルヲ得ストアレハナリ、

第四百九條 本宗及ヒ外族ノ血屬又ハ姻屬ノ親幼者住所ノ地又ハ第四百七條ニ記シタル距  
離内ニ在ル者ノ數定員ニ充サル時ハ治安裁判官ヨリ更ニ隔遠ノ地ニ居住スル血屬又ハ姻  
屬ノ親又ハ幼者住所ノ邑内ニテ幼者ノ父母ト平生親交シタル者ヲ親族會議ニ參セシメ其



缺ヲ補ハシム可シ(民四一〇)

親族會員ヲ編成スルニ當リ、治安裁判官ハ頗ル權宜ノ處分ヲ得ルト雖モ、本宗若クハ外族ノ一方ノ親ノ缺タルモ、他ノ一方ノ親ヲ以テ補フヲ得ス、

第四百十條 幼者住所ノ地ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親ノ數定員ニ充ル時ト雖モ治安裁判官ハ其血屬又ハ姻屬ノ親ヨリ更ニ近親ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ同級ノ血屬及ヒ姻屬ノ親更ニ隔遠ノ地ニ居住スル者ヲシテ親族會議ニ參セシムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ幼者住所ノ地ニ在ル親族ニテ親族會議ノ中ニ加ハル可キ者ノ數ヲ減シ前ニ定メタル親族會議ノ定員ニ過ルヲナカル可シ(民四〇七、四〇八、四一一、訴一、)

二「ミリヤメートル」以内ニ最親ノ親アル時ハ、治安裁判官ニテ二「ミリヤメートル」以上ノ距離外ニ住居スル、血屬若クハ姻屬ノ親ヲ、親族會議ニ招クヲ得ス、

第四百十一條 親族會議ニ出席ス可キ期限ハ治安裁判官之ヲ定ム可シ但シ其會議ニ參ス可キ親族等皆幼者住所ノ邑内ニ居住シ又ハ二「ミリヤメートル」ノ距離内ニ居住スル時ト雖モ呼出書ヲ送達シタル日ト其會議ヲ爲サント定メタル日トノ間ニ必ス三日ヨリ少カラサ

ル時間ヲ隔ツ可シ

又親族會議ニ參ス可キ者ノ中其距離外ニ居住スル者アル時ハ三「ミリヤメートル」毎ニ一日ヲ増ス可シ(訴一〇三三、)

無益ノ費用ヲ省クカ爲メ、治安裁判官ヨリ口陳若クハ書翰ヲ以テ、親族會員ヲ招集スルノ慣習トナレリ、故ニ會員中不良ノ意アリト疑ハシキ者カ、若クハ既ニ招集セシニ其令ニ遵フヲ肯セサリシ者ナラデハ、更ニ使吏ヲシテ呼出書ヲ送達セシムルヲナシ、本條ニ定メタル三日ノ外、其距離ノ遠近ニ因リ一日ヲ加ヘタル期限ハ、使吏ノ手ヲ經テ呼出書ヲ送達セシムル時、最モ遵守スヘキトス、

第四百十二條 此ノ如ク招集ヲ受ケタル血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友ハ自カラ會議ニ出席シ又ハ特ニ任シタル名代人ヲ出ス可シ

名代人ハ一人ニテ數人ノ名代ヲ兼ルヲ得ス(民四一三、一九八四、一九八七、) 名代人ヲ以テ代理セシメント欲スル所ノ者ハ、親族會議ニ於テ其名代人ニ代理ノ權ヲ授ケタル旨ヲ記シタル、特別ノ委任狀ヲ附與スルヲ要ス、然レモ此代理權ハ命令ノ旨趣



ヲ以テ授與スルヲ得テ、何トナレハ名代人本心ノ感觸スル所ニ從ヒ、發言シ得ルヲ肝要  
ナレハナリ、委任狀ハ必ス公正ノ證書ノ式ヲ以テスルヲ要セスト雖モ、私ニ記スルキハ、  
必ス之ヲ官簿ニ登記スルヲ要トス、名代人ハ一人ノ爲メナラハテ代理スルヲ得テ、  
然ラサレハ親族集會モ眞實ノ會議タルノ性質ヲ失ヒ、因テ議事モ無用ニ歸スヘシ、

第四百十三條 血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友親族會議ニ出席ス可キ招集ヲ受ケタル時正シキ  
辨解ノ理ナクシテ出席セサルニ於テハ五十「フランク」ニ過キサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
但シ此言渡ハ治安裁判官之ヲ爲シ而シ其言渡ハ控訴ス可カラス(民四一一、四一二、四一四)  
欠席ノ者ニ對シ罰金ハ、其者成規ノ手續、即チ使更ヨリ呼出狀ヲ受ケタル時ニ非サレ  
ハ之ヲ言渡スヲナシ、辨解ノ理トハ例ヘハ疾病旅行等ノヲ云、此等ノ事故アルキハ、  
其集會ノ前治安裁判官ニ報知スヘシ、然ルキハ罰金ノ言渡ヲ受ケサルヘシ假令前以テ  
報知ヲ爲シ得サリシモ、自己ノ過失ニ非ラス、且出席シ得サル充分ノ原由ノアリシヲ  
證スルニ於テハ、罰金ヲ免カルヘシ、抗傳ノ爲シタル罰金言渡ハ、之ヲ控訴スルヲ得スト  
雖モ、故障ヲ述フルノ方法ヲ以テ、不服ヲ申立テ得、(訴訟法第十九條以下見合セ)法律ハ

罰金最多ノ額ヲ定メタルノミナレハ、治安裁判官ニ於テ之ヲ減少スルヲ自由ナリトス、)

第四百十四條 若シ親族會議ヲ爲ス可キ定期ニ至リ正シキ辨解ノ理アリテ出席セサル者ア  
ル時其者ノ來ルヲ待ツ事又ハ之ニ代テ他人ヲ任スル事ノ至當ナルニ於テハ總テ幼者ノ利  
益ノ爲メ必要ナル事アル時ノ如ク治安裁判官其親族會議ノ日ヲ定メテ延期セシメ又ハ日  
ヲ定ムルヲナク延期セシムルヲ得可シ(民四一三、四一五)

日ヲ定メテ延期スル時ハ、更ニ招集ヲ爲スニ及ハス、日ヲ定メスシテ、延期スル時ハ、更  
ニ招集ヲ爲スヲ要ス(治安裁判官ニ於テ會議ヲ延期スルノ權力ハ、此場合ニノミ限ラス、  
會員未タ議スヘキ事件ヲ熟考シ足ラスト思量スル如キ、凡ソ幼者ノ利益ノ爲メニナル  
可キキハ、之ヲ延期スルヲ得、)

第四百十五條 治安裁判官親族會議ヲ爲ス可キ場所ヲ別段定メサル時ハ當然其裁判官ノ家  
ニテ其會議ヲ爲ス可シ○其會議ニ參ス可キ人員四分ノ三以上出席ヲ爲サ、レハ議事ヲ爲  
スヘカラス(民四〇七、四〇八、四一六)

親族會議ノ議事ハ治安裁判官ヲ除キ、招集シタル員四分ノ三以上出席セサレハ爲スヘ



カラサルニ因リ、其會員六人若クハ七人ヨリ成立ツ所ニ從ヒ、五人若クハ六人ノ出席ヲ必要トス、

第四百十六條 治安裁判官ハ親族會議ノ上席人ニシテ其會議ニ加ハリ可否ヲ述フルヲ得可ク且議員ノ決議ヲ爲ス時可否相半スル時ハ其裁判官ノ説ニ循ヒ之ヲ定ム可シ（訴一六、一一七、八八三ヨリ八八九、）

一個ノ會議中ニ於テ可否ヲ述フルヲ得ル者ハ、決議者ノ中ニ算入シ、止テ顧問ヲ受クルマテノ者ハ、其意見ヲ陳シ趣意ヲ述ヘ得ルト雖モ、決議ニ預ルヲナシ、親族ノ會員ハ皆可否ヲ述フルヲ得、多數ヲ以テ決議スル故ニ、四人同意三人同意ノ兩説アルモ四人同意ノ説ニ決ス、若シ二説アリテ各同數ナル時ハ、治安裁判官ノ可トスル説ヲ以テ決ス、二説以上アリテ何レモ半數以上ノ同意者ヲ得サル時ハ、更ニ決議ヲ取り猶ホ半數以上ヲ得サル時ハ、初告裁判所ニ訴ヘテ決テ請フ、親族會議ニ數説アル時ハ、其各員ノ説ヲ調書ニ記シ、後見人其監察者若クハ親族會議ノ各員ハ、其議決ニ服セス裁判所ニ訴出スルヲ得、（訴訟法第八百八十三條見合セ）

第四百十七條

若シ佛蘭西國內ニ居住スル幼者佛蘭西ノ藩屬地ニ財産ヲ所有シ又ハ佛蘭西ノ藩屬地ニ居住スル幼者佛蘭西國內ニ財産ヲ所有スル時ハ此等ノ財産支配ノ爲メ別段ニ後見人ヲ任ス可シ

此場合ニ於テハ後見人ト准後見人トハ互ニ相管スルヲナク且其行ヒ事ニ付キ互ニ其責ニ任スルヲナカル可シ（民四五〇、四五四、二二二一、）

幼者佛國內ニ於テ財産ヲ有シ、且藩屬地ニ於テ財産ヲ有スル時ハ、親族會議ニ於テ一個ノ准後見人ヲ任ス、而シテ幼者佛國ニ居住スレハ、准後見人ハ藩屬地所在ノ財産ヲ管理シ、幼者藩屬地ニ居住スレハ、准後見人ハ佛國所在ノ財産ヲ管理ス、若シ幼者數ケ所ノ藩屬地ニ於テ財産ヲ有スル時ハ、數人ノ准後見人ヲ任スヘシ、父母中ノ後ニ生存スル者ニテ後見ヲ爲シ、隨テ子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權アル時ハ、准後見人ヲ任スルヲ得ス、何トナレハ若シ准後見人ヲ任セハ、父母中ノ後ニ生存スル者モ亦幾分カ、准後見人ニ隸屬セサルヘカラス、若シ隸屬スル時ハ、入額ヲ得ルノ權ヲ損害スルヲナキモ、親ノ權ヲ行フヲニ付、妨害トナルヘケレハナリ、



准後見人ハ多ク親族會議ニテ直ニ任スト雖モ、若シ其撰任セントスル所ノ者ノ爲人ヲ熟知セサル等ノ場合ニ於テハ、地方官ニ依頼シテ撰任スルヲ得、准後見人モ後見人ト均ク、其管理スル財産ノ保證トシテ、己ノ財産ハ法律上ノ書入質タルヲ免カレス、然レモ准後見人ニ附スルニ、後見人ノ監察者ヲ以テシテ、其處置ヲ監督セムルヲナク、且親族會議ヲモ附スルヲナシ、

後見人ト准後見人トハ、互ニ不羈獨立ノ者ニテ、各自所任ノ管理ニ付、互ニ其責ニ任スルヲナキニ因リ、縱ヒ一方ノ者義務ヲ盡シ得サルノ景狀ニ至ルモ、幼者ヨリ他ノ一方ノ者ニ向テ、賠償ヲ求ムルヲ得ス、

第四百十八條 後見人面タリニ後見職務ノ任ヲ受ケシ時ハ其任ヲ受ケシ日ヨリ其職務ヲ行フ可シ若シ然ラサル時ハ後見ノ職ヲ任シタル告知ヲ受ケシ日ヨリ其職務ヲ行フ可シ(民四五〇、二二二二、二二三五、二一九三、訴八八二、)

後見人ニ任セラレシ所ノ者、會議ニ出席セサル時ハ、其撰任ノ告知ヲ議決ノ月ヨリ三日内ニ本人ニ逕達ス、但シ會議ヲ爲セシ地ト後見人ノ住所トノ間ニ、三「ミリヤメートル」

毎ニ一間ヲ、加フ此送達ハ會議ニ於テ其會員中ノ一人ニ托ス、後見人ノ財産ハ其任ヲ受ケシ日ヨリ、法律上ノ書入質ト爲スト雖モ、其責任ハ其任ヲ承知シ、幼者ノ財産ノ管理ヲ始メシ時ヨリナラテハ始マルヲナシ、

第四百十九條 後見ノ職ハ後見人ノ一身ノミニ付キ之ヲ任スル所ノモノトシ其相續人ニ移ス可カラス○然レモ其相續人ハ後見人ノ生存中ニ行ヒシ諸事ニ付キ其責ニ任ス可ク且其相續人丁年ナル時ハ新クニ後見人ヲ任スルニ至ル迄假リニ後見ノ事務ヲ行フ可シ(民四八八、七二四、二〇一〇、)

後見人ハ幼者ノ爲メ後見人タルヘキ緣故アルニ因リ、感シタル情愛、若クハ後見人ノ品行善良ニシテ財産ヲ管理スヘキ才能アリト、親族會議ニ於テ感覺シタル信用上ニ基キ、任スヘキモノナル故、全ク其人ニ限リ任シタルモノニテ、其相續人ニ移シ得ヘキモノニ非ス、然レモ後見人幼者ノ財産ノ管理ニ付、詐偽若クハ過失ニヨリ幼者ニ受ケシメタル損失ハ己ノ財産ヲ以テ之ヲ償ハサルベカラス、而シテ此義務ハ、後見人ノ遺物相續人ニ移ル、後見人ノ相續人ハ、決シテ後見ノ任ヲ繼嗣スルヲナシト雖モ、其丁年者タル時ハ



新ニ後見人ヲ任スル迄ハ、急施スベキ必用ノ處置ヲ爲スヲ要ス、此場合ニ於テハ後見ノ相續人トナリ後見ヲ爲スニ非ス、一時其職務ノ處置ヲ繼續スルノミ、且此處置ヲ爲スニ付、幼者ノ爲メニ契約スル所ノ義務ハ、己ノ固有ノ財産ヲ以テ書入質トナシテ保證スルコトナク死者ノ財産ヲ以テ保證ス、

○第五款 後見人ノ監察者

後見人ノ監察者ハ、後見人幼者ノ財産ヲ管理スル所ヲ監視シ、後見人ノ利益ト幼者ノ利益ト相觸ル、時ハ、後見人ノ代理ヲ爲スノ任アル者ナリ、後見人ノ監察者ノ制ハ、中古佛國ニ於テ創設シタルモノニシテ、羅馬法ニナキ所ナリ、羅馬法ニ於テ後見ハ、追テ遺物相續ヲ爲スベキノ期望アル所ノ者ノ責任ナリトシ、法律上死者ノ遺物ハ、本宗ノ最親ノ血屬ニ相續セシムルコト定メタリ、佛國ニ於テハ父母平等ニシテ、遺物モ均分ノ二部ニ分チ、一分ハ本宗ノ親ニ屬セシメ、一分ハ外族ノ親ニ屬セシメタリ、故ニ宗教上及ヒ民事上ノ婚姻及ヒ親族ノ制立ニ依レハ、夫婦モ本宗ノ親モ外族ノ親モ全ク同等ニ位ス、此同等ノ主義ヨリシテ、本宗ノ親三員ト外族ノ親三員トナリ以

テ構成シ、治安裁判官ヲ以テ上席人トナシタル親族會議ヲ編制セリ、後見人ノ監察者モ此主義ニ依リ、必ス後見人ト同族ニ非サル親族中ヨリ撰任シ、後見人ト並立チ各其代理スル所ノ族ノ不慮ノ弊害ヲ相互ニ豫防シ、以テ幼者ノ利益ヲ保護セリ、

第四百二十條 如何ナル後見人アル時雖ヒ親族會議ニテ其監察者ヲ任ス可シ

其職務ハ後見人ノ資益ト幼者ノ資益ト相觸ル、コアル時幼者ノ資益ノ爲メ處置ヲ爲スコアリトス(民三六一、三九〇、三九七、四〇二、四〇五、四二一、四二六、四四六、四四八、四五〇、四七〇、五〇五、一四四二、二一三七、訴四四四、八八三、)

如何ナル後見人アル時雖ヒ、必ス親族會議ニテ撰任スヘキ後見人ノ監察者ハ、後見人ヲ監視シ、幼者ノ相續スヘキ遺物ノ目錄ヲ作ルコト、及幼者ノ動産若クハ不動産賣拂ノコトニ參與シ、又後見人ノ資益ト幼者ノ資益ト相觸ル、所ノ處置ニ付テハ、後見人ニ代リ以テ後見人幼者ノ財産ヲ管理スル爲メノ保證トシ、其不動産ヲ法律上ノ書入質ト爲シタル旨ヲ、官簿ニ記入センコトヲ求メ、(第二千三百三十七條見合セ)又後見人幼者ノ財産ヲ借入ル、コトヲ親族會議ニテ許諾シタル時、後見人ニ對シテ其借入ノ契約ヲ爲ス、(第四百五



十條見合セ)

第四百二十一條 此章ノ第一款第二款第三款ニ記シタル所ノ者後見ノ任ヲ受ケタル時ハ其職務ヲ行ヒ始ムル前ニ第四款ニ記シタル如ク親族會議ヲ爲サシメ其監察者ヲ任セシム可シ  
後見人此法式ニ循ハスシテ其職務ヲ行ヒ始メシ時ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ債主其他幼者ニ管シタル者ノ求メニ從ヒ又ハ治安裁判官ノ職務ヲ以テ親族會議ヲ爲サシメ若シ其後見人ニ詐僞アル時ハ幼者ニ賠償ヲ爲ス可キトニ關セスシテ其會議ニテ後見ノ職ヲ退カシメ得可シ(民四〇六、四〇七、四四四、四四五、一一一六、一一四九、)

自然ノ後見人、遺囑ノ後見人、若クハ正當ノ後見人、幼者ノ財産ノ管理ヲ始ムルノ前、必ス先ツ親族會議ニテ後見人ノ監察者ヲ任セシムルヲ要ス、若シ後見人未ダ監察者ノアラサル時間ニ乘リテ、幼者ノ資益ヲ害スヘキ様ナル管理ヲ爲シタル時ハ、詐僞ヲ行ヒタルモノトシテ、幼者ニ對シ損害ノ償ヲ出スヘキノ言渡ヲ受ケシメ得ヘク、且親族會議ヲシテ其職債ヲ免黜セシメ得、

第四百二十二條 前條ニ記シタル以外ノ者ヲ後見ノ職ニ任シタル時ハ直ニ其監察者ヲ任ス可シ(民四〇五、四〇六、四二一、)

親族會議ノ隨意ニ從ヒ、本宗若クハ外族ノ親中ヨリ後見人ヲ撰舉シタル時ハ、直ニ後見人ト同族ニ非サル者ヲ撰ミテ、其監察者ニ任スヘシ、

第四百二十三條 如何ナル場合ニ於テモ後見人ハ其監察者ヲ任スルノ議ニ參ス可カラズ監察者ハ幼者ト父母ヲ同スル兄弟タル時ノ外本宗及ヒ外族中ノ一方ニテ後見人ノ所屬ニ非サル族中ノ者ヨリ之ヲ撰任ス可シ(民四二六、四三二、七三五、七三六、)

血屬ノ縁故アルヲ以テ、後見人ノ監察者ノ監督ヲ、有名無實ナラシメサルカ爲メ、又權利上ニ於テ平等ナル本宗ノ親ト外族ノ親トヨリ、各々其代理者ヲ出サシムルカ爲メ、後見人ノ監察者ハ、後見人ノ所屬ニ非サル族中ヨリ撰舉スルヲ要ス、然レモ此規格ハ幼者ト父母ヲ同ウスル兄弟ニ適用スヘカラス、何トナレハ幼者ト父母ヲ同ウスル兄弟ハ、本宗外族ノ兩族ニ屬スル故、其中一人ハ後見人トナリ、一人ハ其監察者タルニ妨ケナケレハナリ、後見人幼者ノ爲メ血縁ナキ他人ナル時ハ、其監察者ハ親族會議ニテ、本宗若ク